第 4 章　障害者（18 歳以上）調査結果

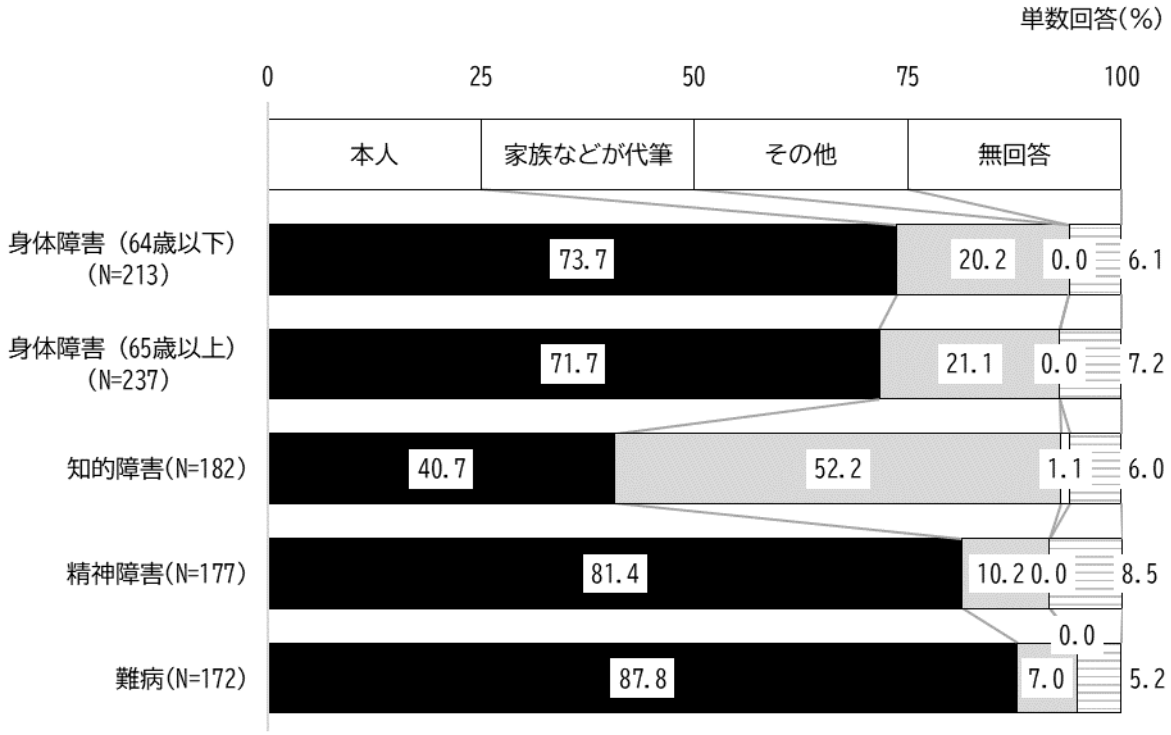
【調査名】障害のある人が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

問１　この調査に回答していただく人を教えてください。（1 つに○）

○　回答していただいた方は，身体障害（64 歳以下）は「本人（73.7%）」，身体障害（65 歳以上）は「本人（71.7%）」，精神障害は「本人（81.4%）」，難病は「本人（87.8%）」が最も多くなっている。

○　知的障害は「家族などが代筆（52.2%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／回答者（全体）

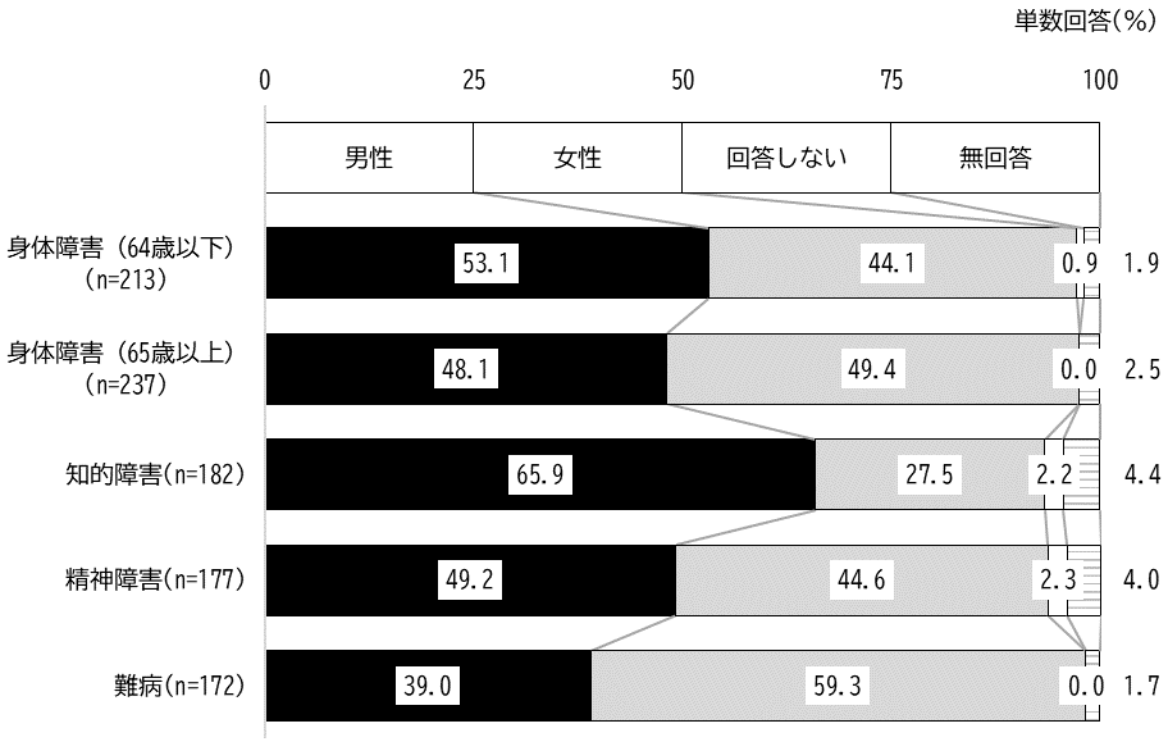


1　あなた（ご本人）についておたずねします

問 2　性別を教えてください。（1 つに○）

○　本人の性別は，身体障害（64 歳以下）は「男性（53.1%）」，「女性（44.1%）」である。
○　身体障害（65 歳以上）は「男性（48.1%）」，「女性（49.4%）」である。
○　知的障害は「男性（65.9%）」，「女性（27.5%）」である。
○　精神障害は「男性（49.2%）」，「女性（44.6%）」である。
○　難病は「男性（39.0%）」，「女性（59.3%）」である。

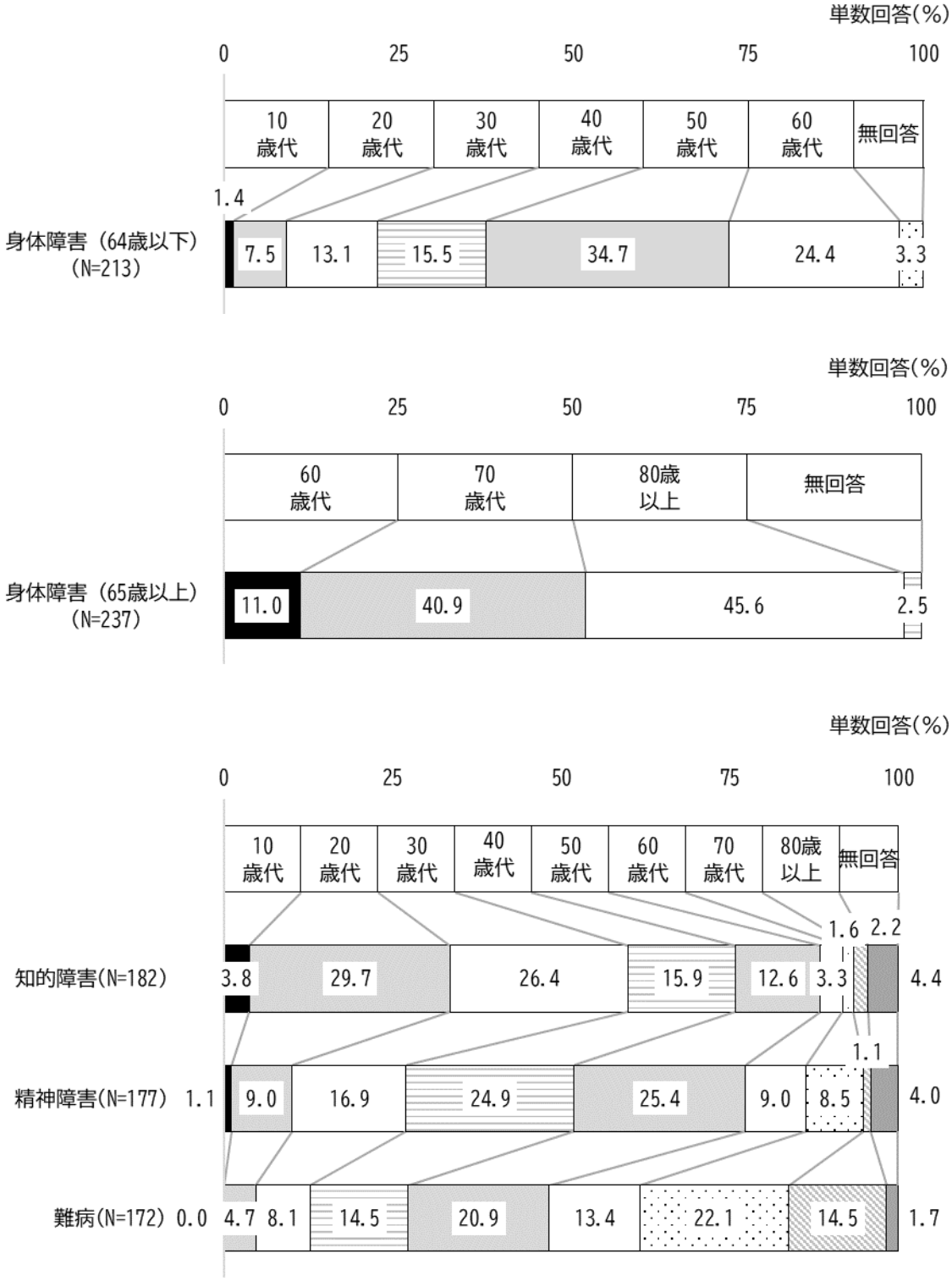
図表_障害者／性別（全体）



問３　年齢を教えてください。（１つに○）　　（令和４年 10 月１日現在）

○　本人の年齢は，身体障害（64 歳以下）は「50 歳代（34.7%）」，身体障害（65 歳以上）は「80 歳以上（45.6%）」，知的障害は「20 歳代（29.7%）」，精神障害は「50 歳代（25.4%）」，難病は「70 歳代（22.1%）」が最も多くなっている。

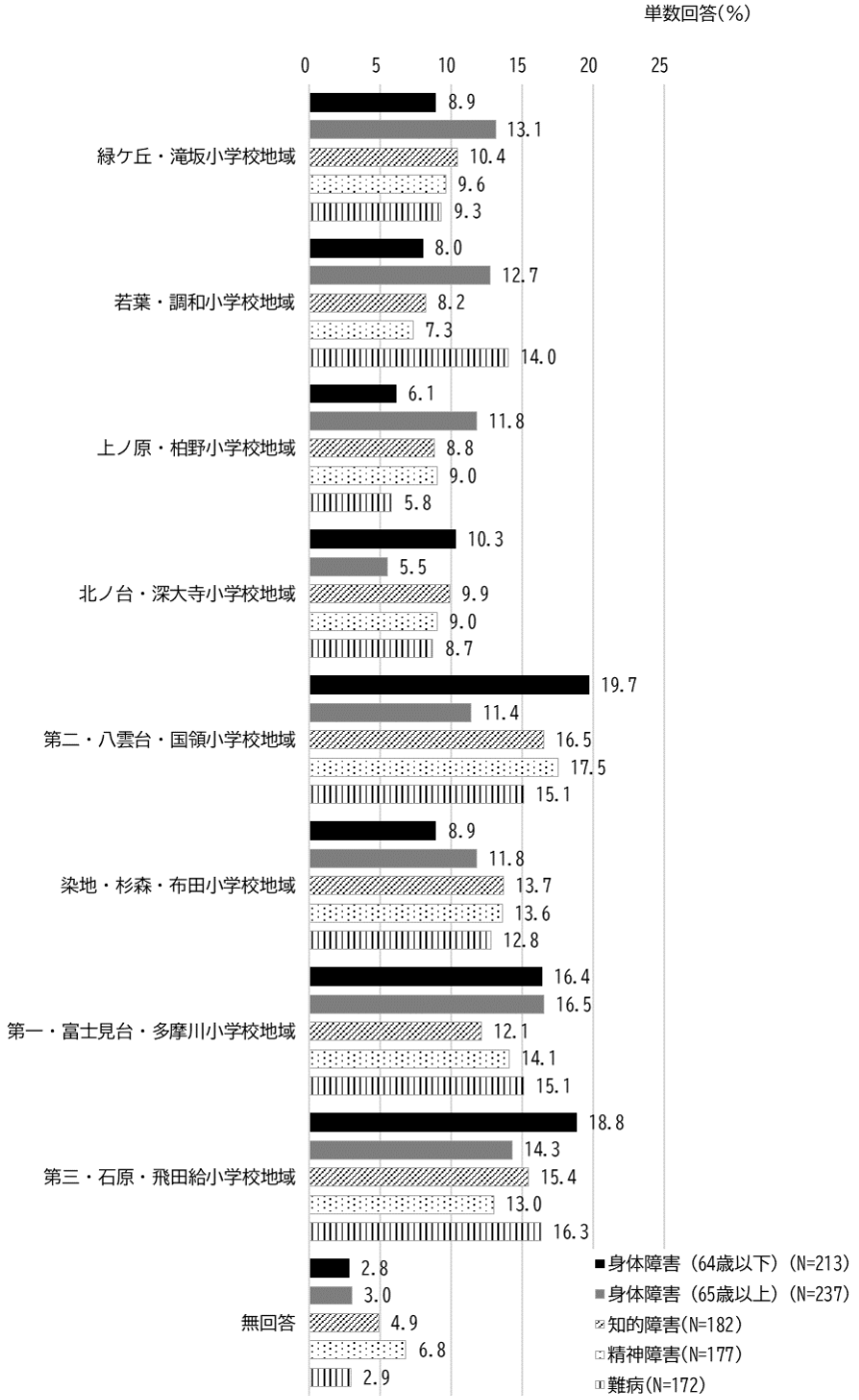
図表_障害者／年齢（全体）



問４　お住いの地域を教えてください。（1 つに○）

○　本人の居住地域の割合を障害等別にみると，身体障害（64 歳以下）は「第二・八雲台・国領小学校地域（19.7%）」，身体障害（65 歳以上）は「第一・富士見台・多摩川小学校地域（16.5%）」，知的障害は「第二・八雲台・国領小学校地域（16.5%）」，精神障害は「第二・八雲台・国領小学校地域（17.5%）」，　難病は「第三・石原・飛田給小学校地域（16.3%）」が最も多くなっている。

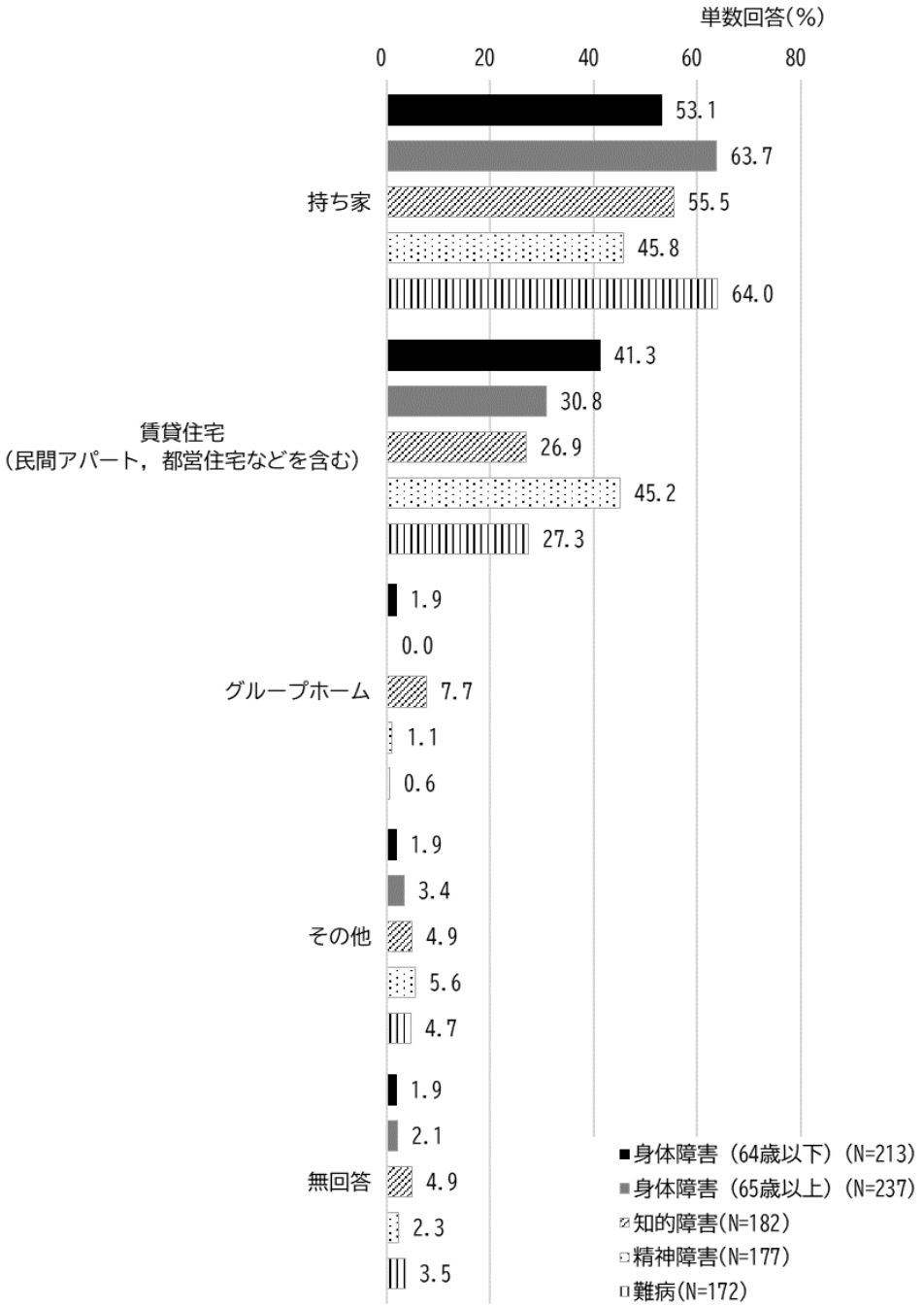
図表_障害者／居住地域（全体）



問５　住居形態を教えてください。（１つに○）

○　本人の住居形態は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「持ち家」が最も多くなっている。
身体障害（64 歳以下）と精神障害で「賃貸住宅（民間アパート，都営住宅などを含む）」が４割を超えている。

図表_障害者／住居形態（全体）

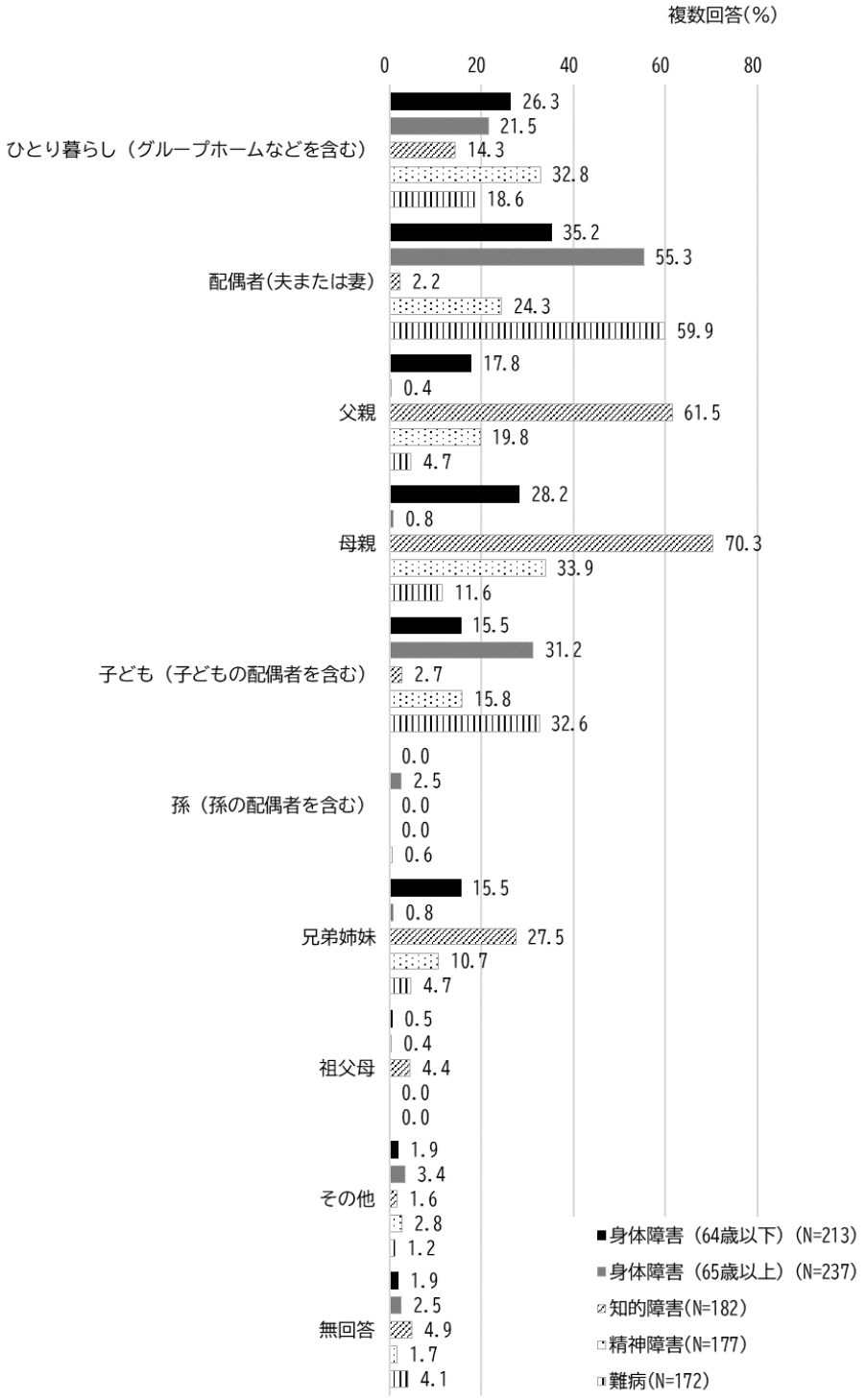


問６　同居している家族を教えてください。（いくつでも○）

○　本人と同居している家族は，身体障害（64 歳以下）は「配偶者(夫または妻)（35.2%）」，身体障害（65 歳以上）は「配偶者(夫または妻)（55.3%）」，知的障害は「母親（70.3%）」，精神障害は「母親（33.9%）」，難病は「配偶者(夫または妻)（59.9%）」が最も多くなっている。

○　知的障害で「父親」と「母親」との同居割合が多くなっている。

図表_障害者／同居家族（全体）

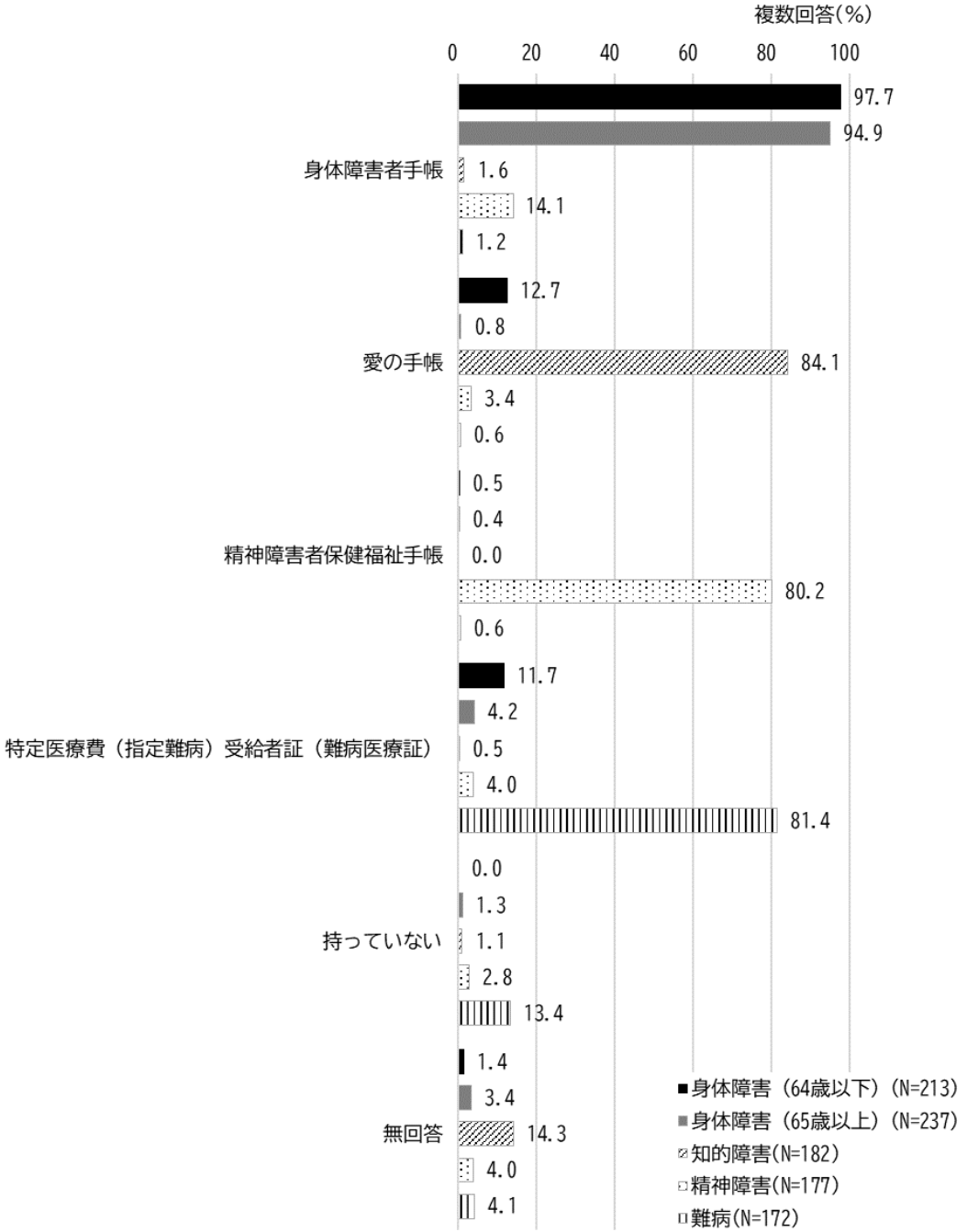


問７　お持ちの手帳等とその等級を教えてください。（いくつでも○）

①　持っている手帳の種類

○　持っている手帳の種類は,身体障害(64 歳以下)は「身体障害者手帳(97.7%)」,身体障害（65 歳以上）は「身体障害者手帳（94.9%）」，知的障害は「愛の手帳（84.1%）」，精神障害は「精神障害者保健福祉手帳（80.2%）」，難病は「特定医療費（指定難病）受給者証（難病医療証）（81.4%）」がそれぞれ最も多くなっている。

図表_障害者／持っている手帳の種類または診断（全体）



② 手帳の等級

○ 身体障害（64 歳以下）は身体障害者手帳の「1 級（31.7%）」，身体障害（65 歳以上）は身体障害者手帳の「1 級（35.6%）」が最も多くなっている。

○ 知的障害は，愛の手帳の「4 度（49.0%）」が最も多くなっている。

○ 精神障害は，精神障害者保健福祉手帳の「3 級（46.5%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／身体障害者手帳の等級【身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上）】（全体）（%）

＜身体障害者手帳を持っている人＞

1 位に網掛	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	無回答
身体障害（64 歳以下）（n＝208）	31.7	20.2	17.3	19.2	6.3	3.4	1.9
身体障害（65 歳以上）（n＝225）	35.6	9.8	12.9	28.9	4.0	4.0	4.9

図表_障害者／愛の手帳の等級【知的障害】（全体）（%）

＜愛の手帳を持っている人＞

1 位に網掛	1 度	2 度	3 度	4 度	無回答
知的障害（n＝153）	1.3	24.2	19.6	49.0	5.9

図表_障害者／精神障害者保健福祉手帳の等級【精神障害】（全体）（%）

＜精神障害者保健福祉手帳を持っている人＞

1 位に網掛	1 級	2 級	3 級	無回答
精神障害（n＝142）	3.5	45.1	46.5	4.9

問 8　どのような病気や障害がありますか。（いくつでも○）　特定医療費（指定難病）受給者証をもつ人は，「その他」の欄に病名をご記入ください。

○　病気や障害の種類は，身体障害（64 歳以下）は「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害（50.7%）」が最も多くなっている。

○　身体障害（65 歳以上）は「心臓，腎臓，肝臓，呼吸器，ぼうこう，直腸，小腸などの障害（内部障害）（45.1%）」が最も多く，「手足が不自由（上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害）（41.4%）」が続いている。

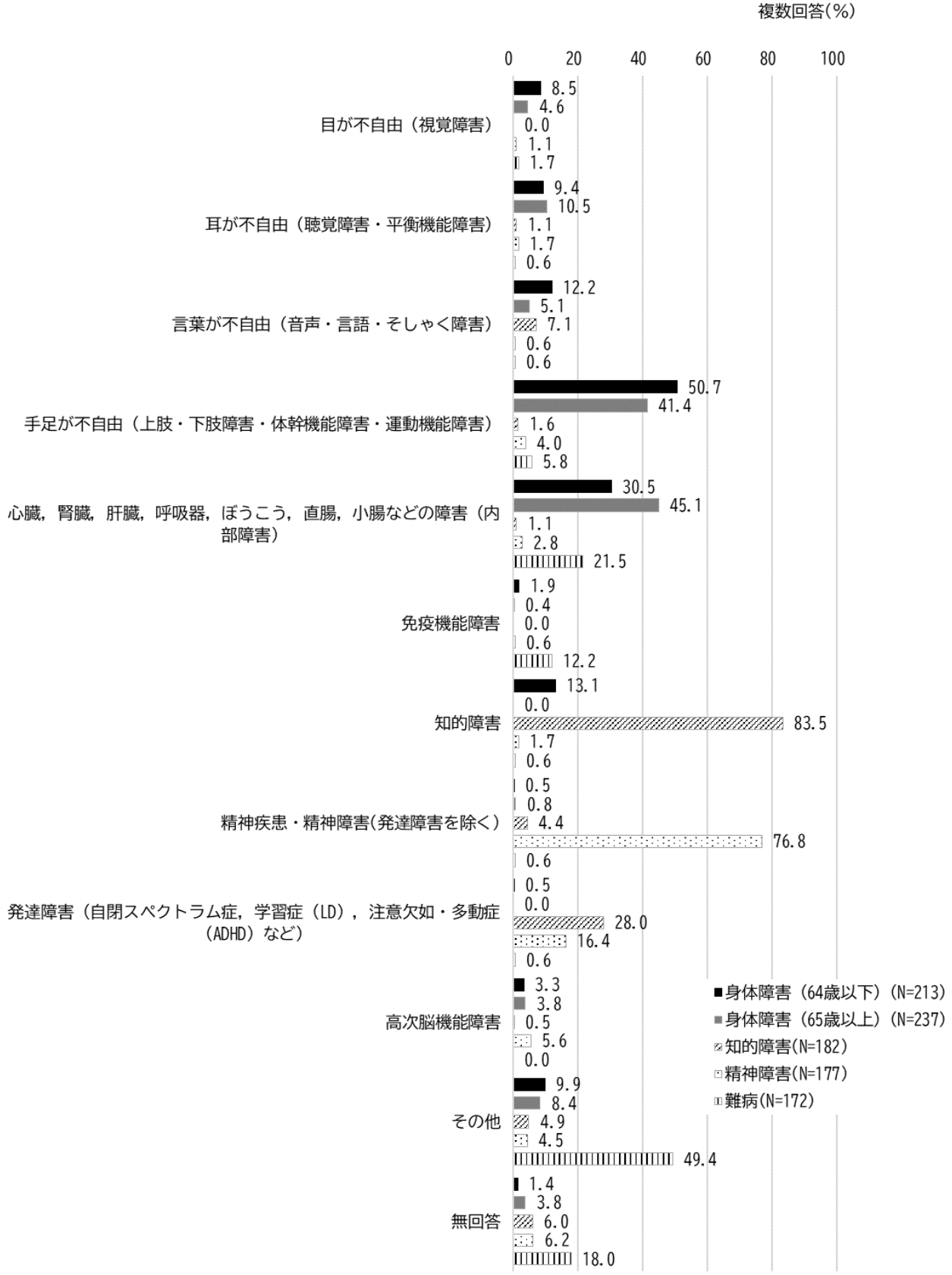
○　知的障害は「知的障害（83.5%）」が最も多くなっている。

○　精神障害は「精神疾患・精神障害(発達障害を除く)（76.8%）」が最も多くなっている。

○　難病は「その他（49.4%）」が最も多くなっている。

（次ページの図表を参照）

図表_障害者／病気や障害の種類（全体）



2　相談支援についておたずねします

問 9　悩みや困りごとがある場合，主にどこに相談しますか。（いくつでも○）

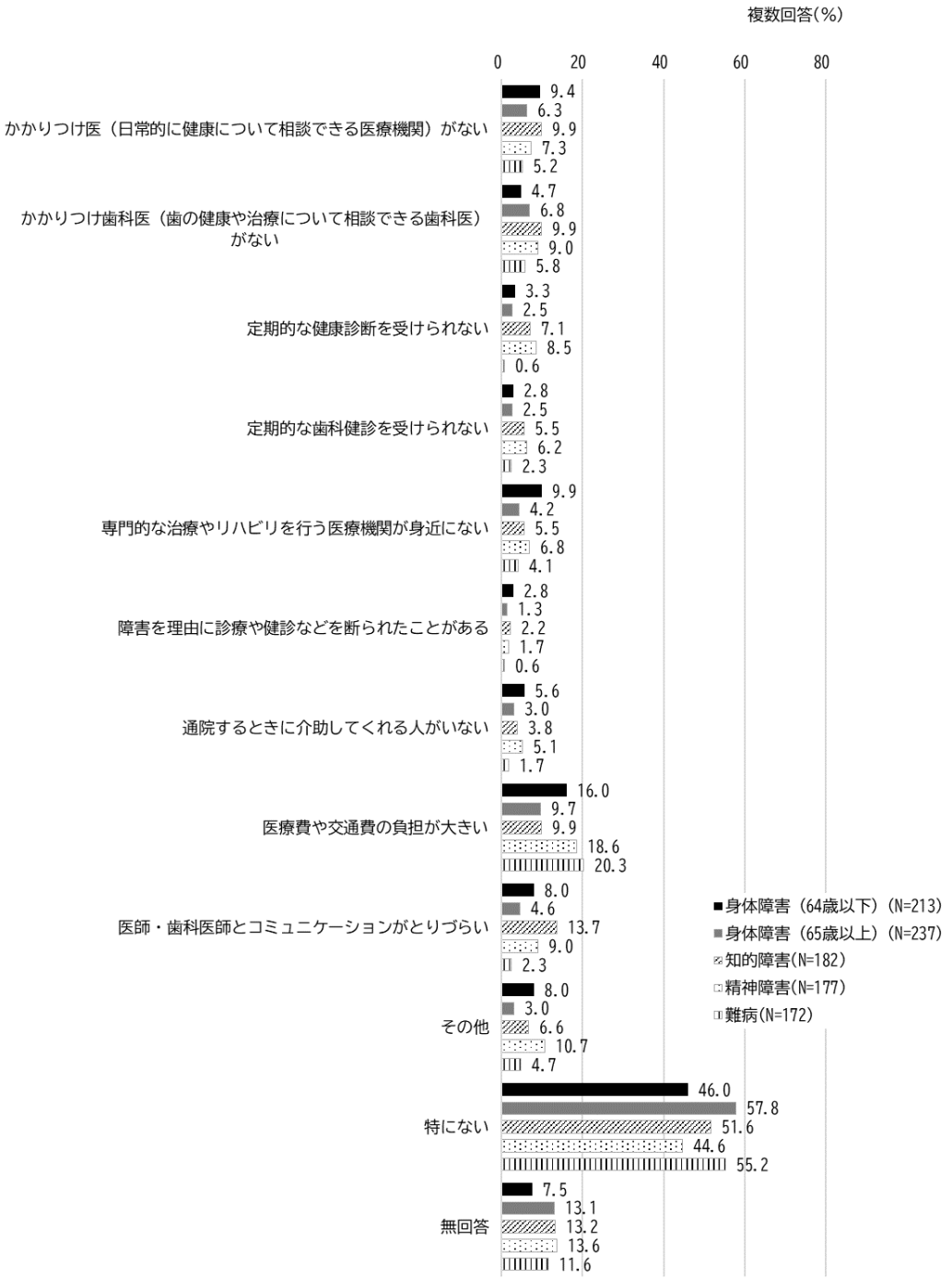
○　困ったときの身近な相談相手は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）」が最も多くなっている。また，知的障害で「相談支援機関の職員（52.2%）」，精神障害で「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員（48.0%）」が多くなっている。

図表_障害者／困ったときの身近な相談相手（全体）

問 10　あなたは，医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

○　医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「特にない」が最も多くなっている。また，「特にない」を除くと，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），精神障害，難病で「医療費や交通費の負担が大きい」，知的障害で「医師・歯科医師とコミュニケーションがとりづらい」がそれぞれ多くなっている。

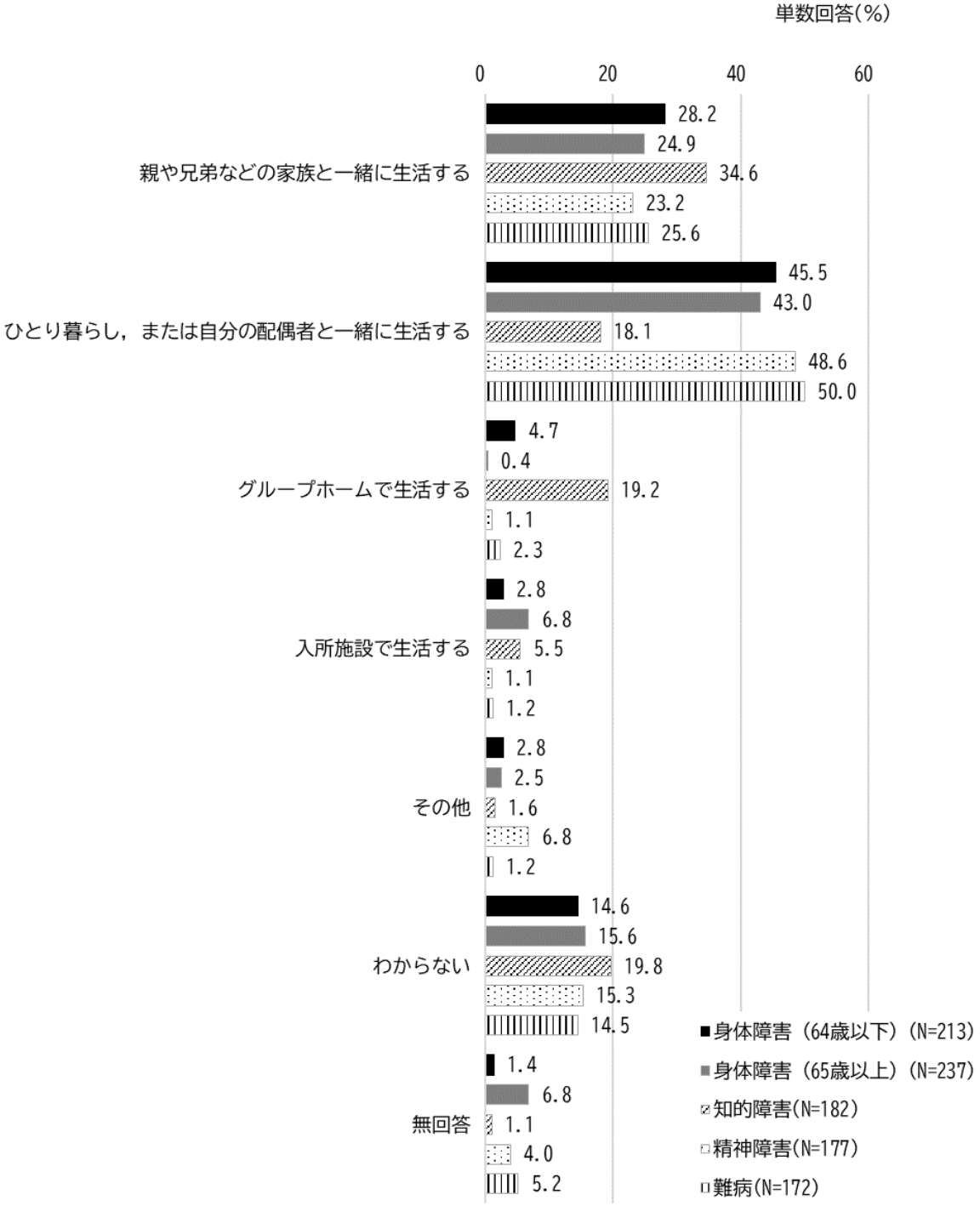
図表_障害者／ 医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（全体）



問 11　今後，どのように生活したいですか。（1 つに○）

○　希望する暮らし方について，知的障害で「親や兄弟などの家族と一緒に生活する」，それ以外の障害等で「ひとり暮らし，または自分の配偶者と一緒に生活する」が最も多くなっている。また，知的障害で「グループホームで生活する」が 2 割近くとなっている。

図表_障害者／希望する暮らし方（全体）



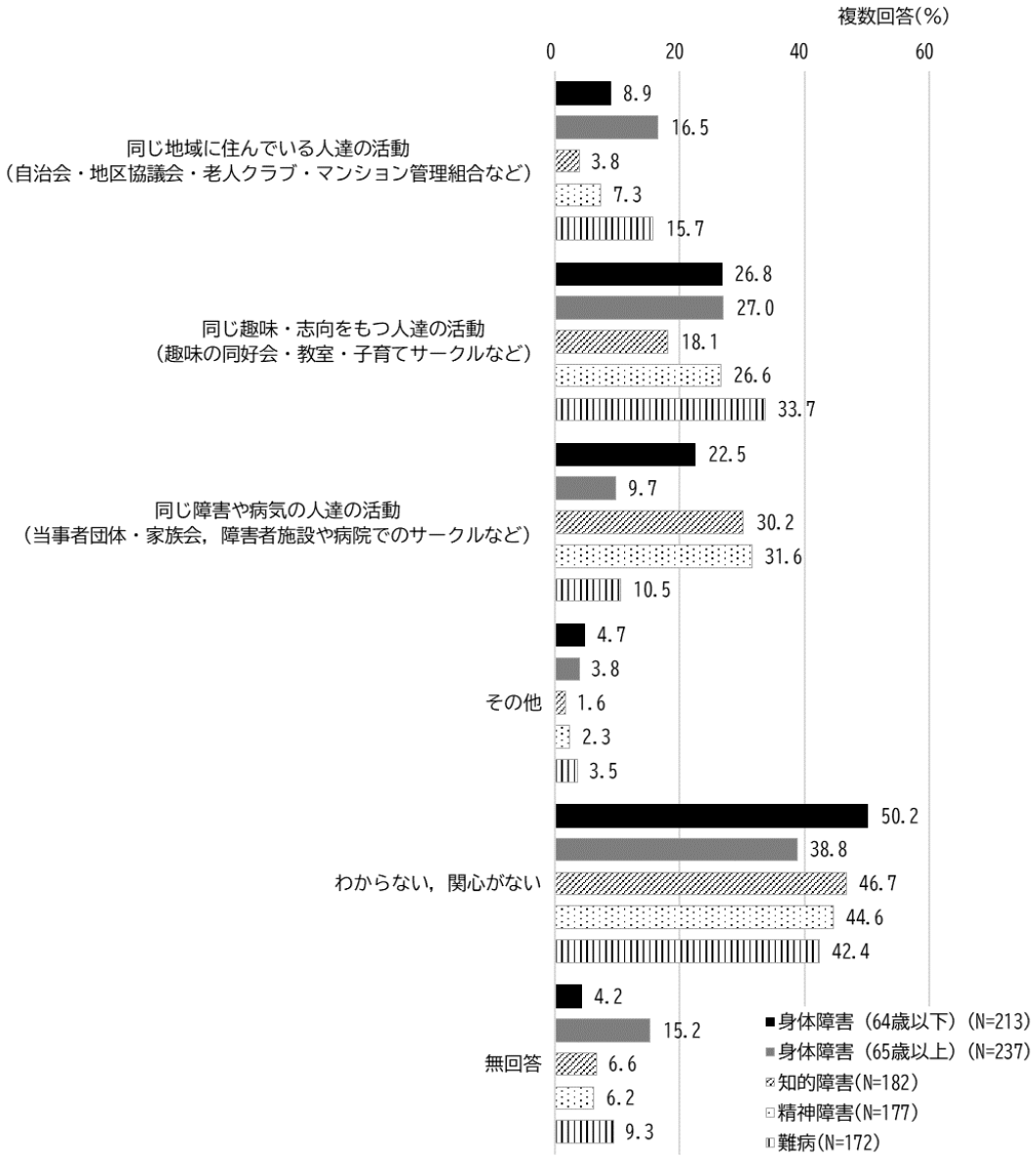
3　市民同士の支え合いについておたずねします

問 12　近年，さまざまな主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすい活動は何ですか。（いくつでも○）

○　参加しやすい地域活動は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「わからない，関心がない」が最も多くなっている。また，「わからない，関心がない」を除くと，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），難病で「同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）」が多く，2 割を超えている。

○　知的障害と精神障害は「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会，障害者施設や病院でのサークルなど）」が多く，3 割を超えている。

図表_障害者／参加しやすい地域活動（全体）

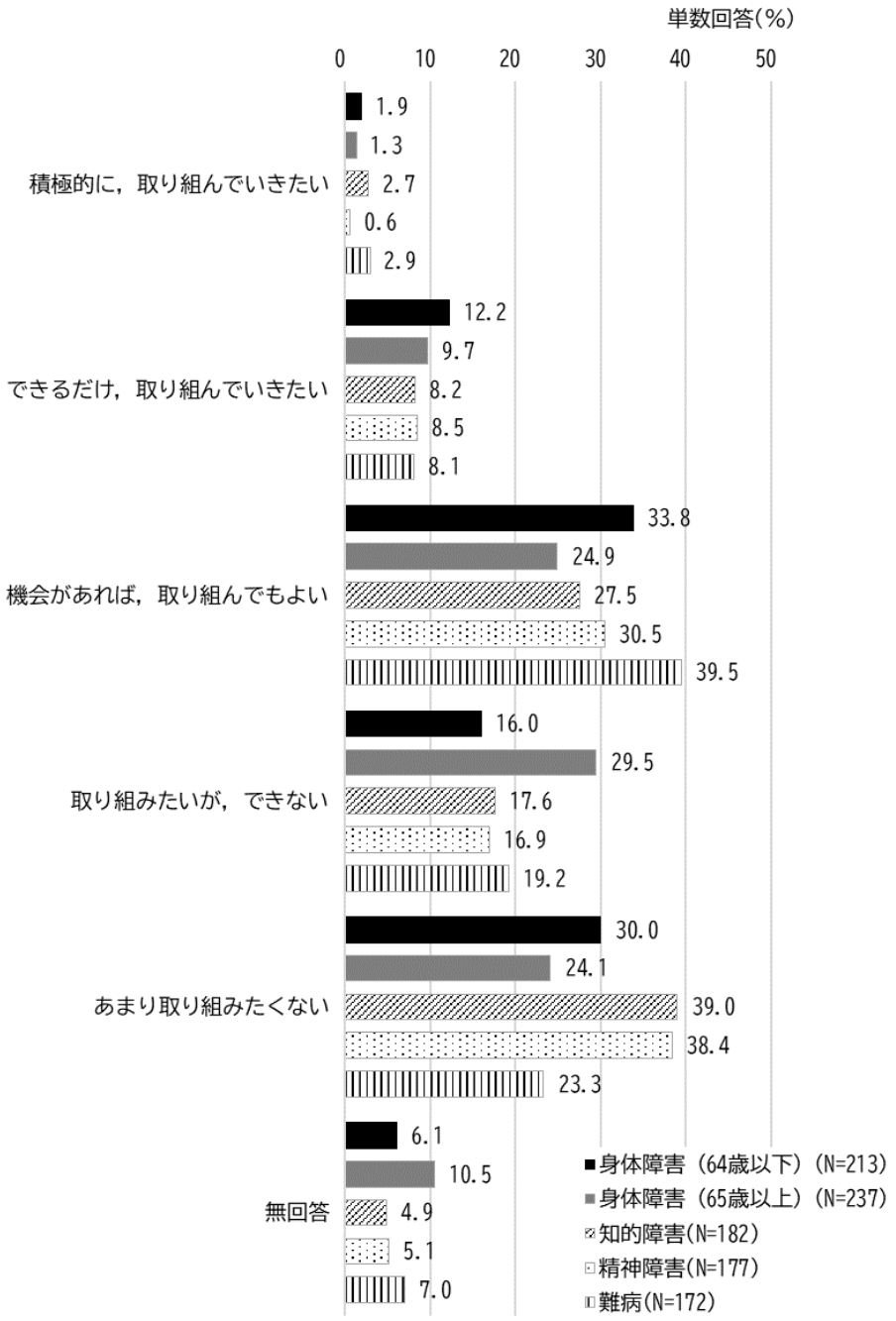


問 13　あなたは今後，地域活動・ボランティア活動に取り組みたいですか。（1 つに○）

○　地域活動・ボランティア活動の取組意向は，身体障害（64 歳以下）は「機会があれば，取り組んでもよい（33.8%）」が最も多くなっている。
○　身体障害（65 歳以上）は「取り組みたいが，できない（29.5%）」が最も多くなっている。
○　知的障害は「あまり取り組みたくない（39.0%）」が最も多くなっている。
○　精神障害は「あまり取り組みたくない（38.4%）」が最も多くなっている。
○　難病は「機会があれば，取り組んでもよい（39.5%）」が最も多くなっている。

（次ページの図表を参照）

図表_障害者／地域活動・ボランティア活動の取組意向（全体）

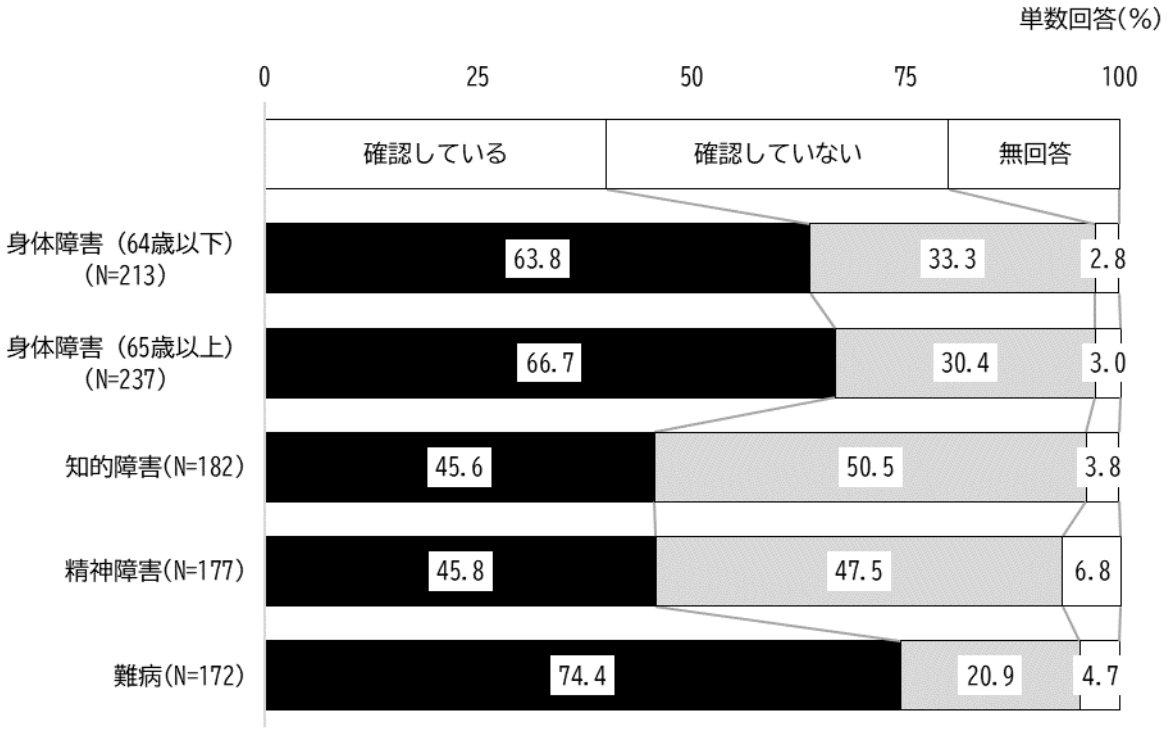


4　災害時の対策についておたずねします

問 14　防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1 つに○）

○　避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は，身体障害（64 歳以下）は「確認している（63.8%）」が多くなっている。
○　身体障害（65 歳以上）は「確認している（66.7%）」が多くなっている。
○　知的障害は「確認していない（50.5%）」が多くなっている。
○　精神障害は「確認していない（47.5%）」が多くなっている。
○　難病は「確認している（74.4%）」が多くなっている。

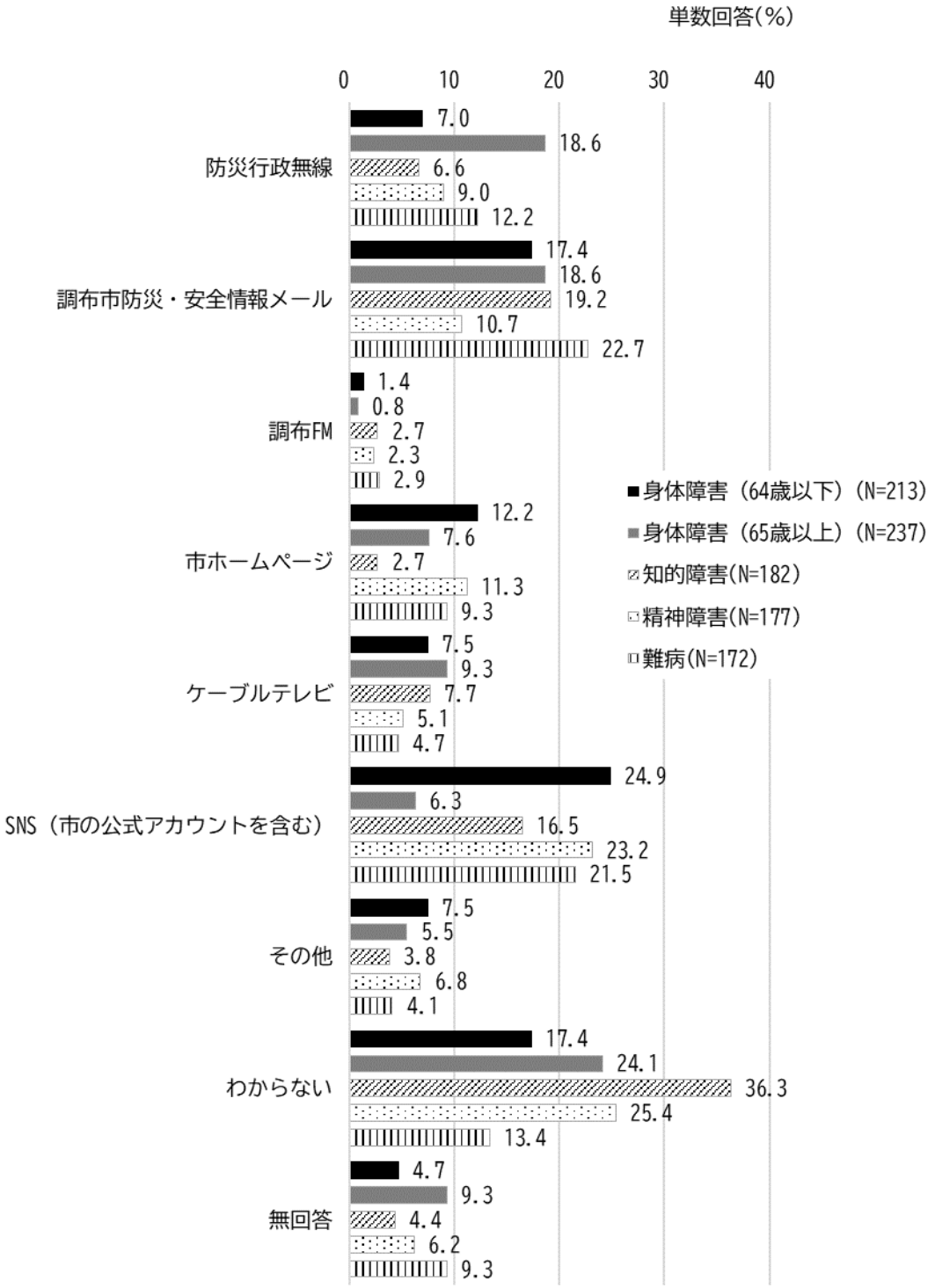
図表_障害者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況（全体）



問 15　災害や火災などの緊急の際，避難情報を主にどこからとりますか。（1 つに○）

○　緊急時の避難情報の入手先は，身体障害（64 歳以下）は「ＳＮＳ（市の公式アカウントを含む）（24.9%）」，難病は「調布市防災・安全情報メール（22.7%）」が最も多くなっている。身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害は「わからない」が最も多く，割合はそれぞれ 24.1%，36.3%，25.4%となっている。

図表_障害者／緊急時の避難情報の入手先（全体）



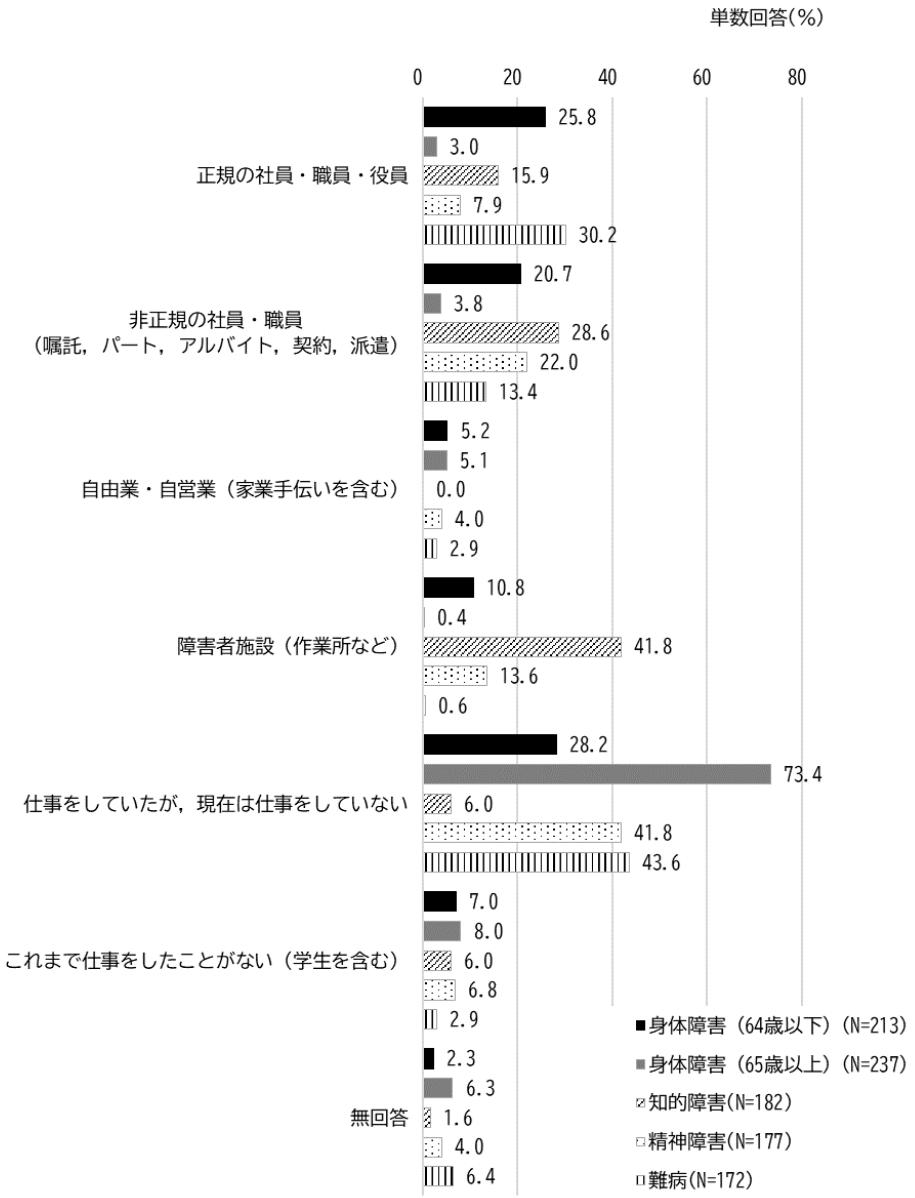
5　暮らしについておたずねします

問 16　現在，給料や工賃を伴う仕事をしていますか。（1 つに○）

○　本人の就労状況は，知的障害は「障害者施設（作業所など）（41.8%）」が最も多く，それ以外の障害等は「仕事をしていたが，現在は仕事をしていない」が最も多くなっている。

○　「仕事をしていたが，現在は仕事をしていない」を除いた就労状況をみると，身体障害（64 歳以下）は「正規の社員・職員・役員（25.8%）」，身体障害（65 歳以上）は「これまで仕事をしたことがない（学生を含む）（8.0%）」，精神障害は「非正規の社員・職員（嘱託，パート，アルバイト，契約，派遣）（22.0%）」，難病は「正規の社員・職員・役員（30.2%）」が多くなっている。

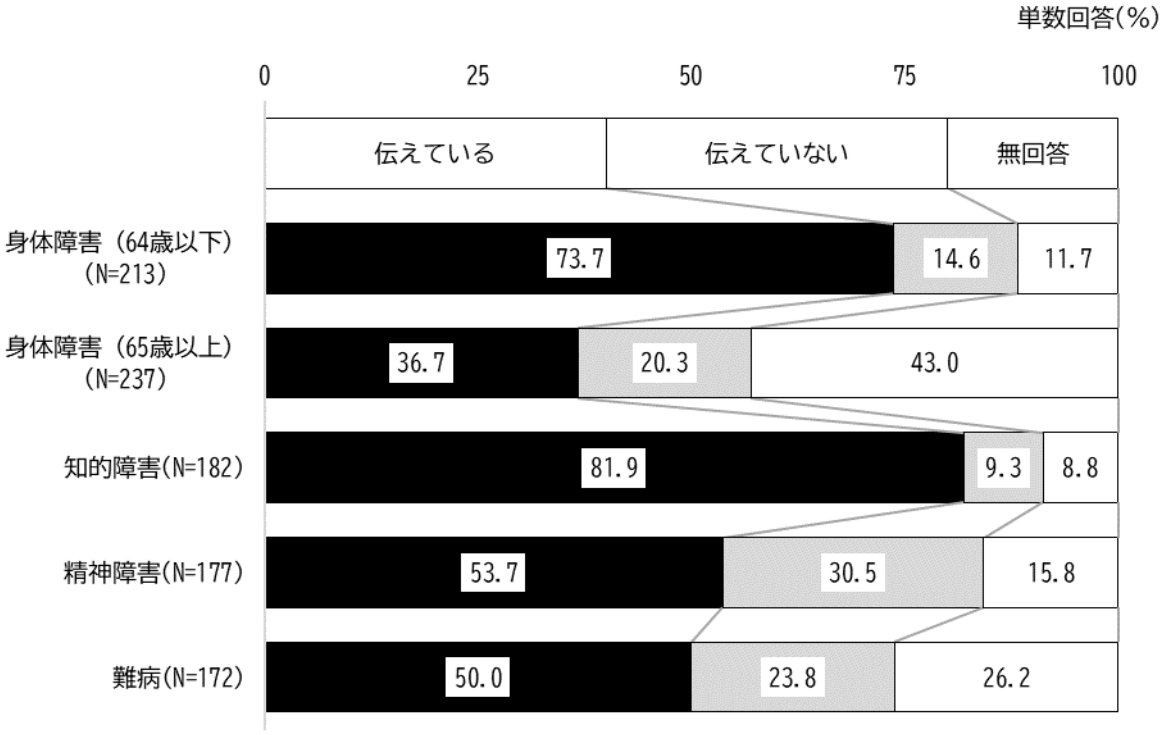
図表_障害者／本人の就労状況（全体）



問 17　職場や学校の人に，あなたの障害や病気のことを伝えていますか。（1 つに○）

○　職場や学校に障害・病気のことを伝えている状況（オープン就労等の状況）は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病で「伝えている」が多く，それぞれの割合は 73.7%，36.7%，81.9%，53.7%，50.0%となっている。また，精神障害で「伝えていない」が 3 割を超えている。

図表_障害者／職場や学校に障害・病気のことを伝えているか（オープン就労等の状況）（全体）

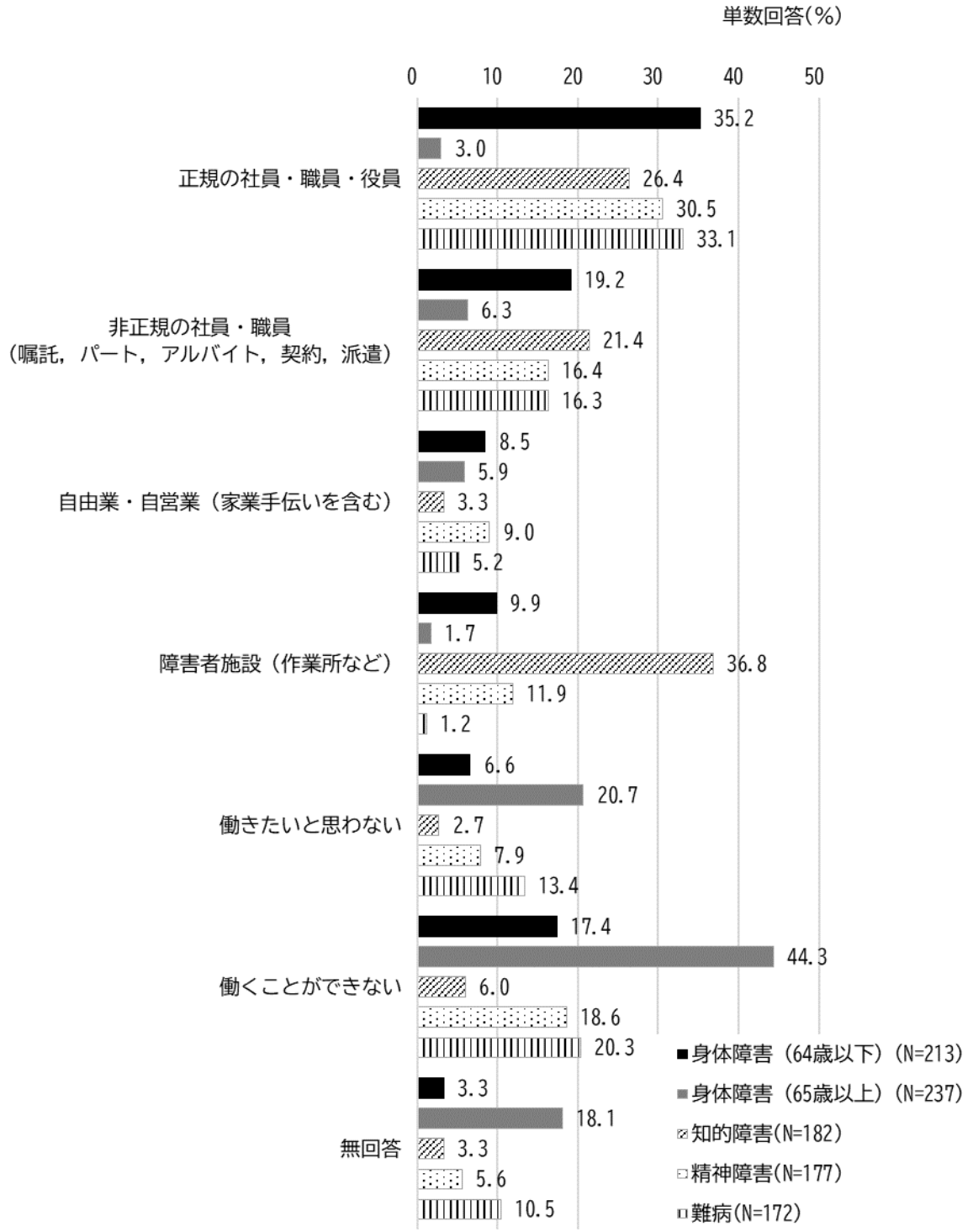


注：無回答には問 16 で「仕事をしていたが，現在は仕事をしていない」と回答した人を含む

問 18　あなたは，どのような形で働きたい（続けたい）ですか。（1 つに○）

○　就労の希望は，身体障害（64 歳以下）は「正規の社員・職員・役員（35.2%）」，身体障害（65 歳以上）は「働くことができない（44.3%）」，知的障害は「障害者施設（作業所など）（36.8%）」，精神障害は「正規の社員・職員・役員（30.5%）」，難病は「正規の社員・職員・役員（33.1%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／希望する働き方（全体）

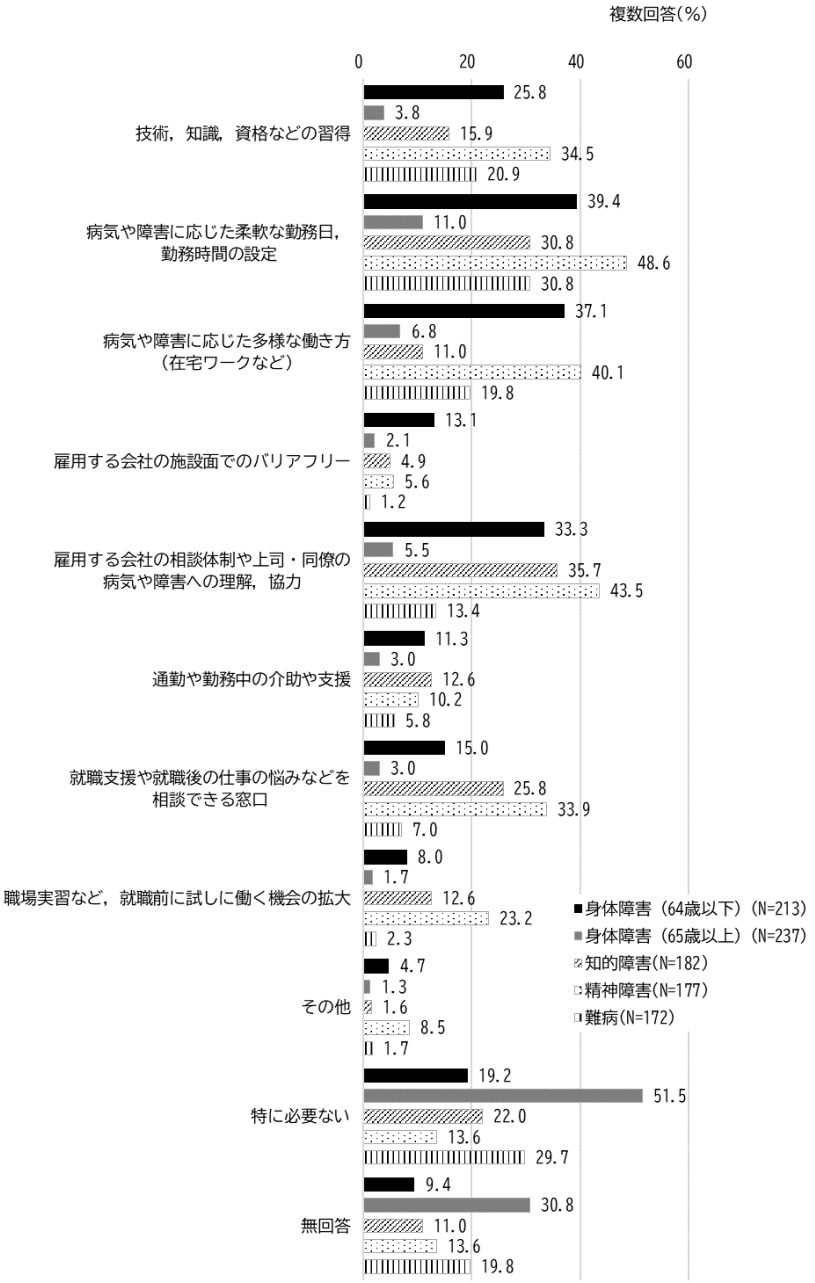


問 19　あなたが仕事をするために，必要なことはありますか。（いくつでも○）

○　仕事をするために必要なことは，身体障害（64 歳以下）は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定（39.4%）」，身体障害（65 歳以上）は「特に必要ない（51.5%）」，知的障害は「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力（35.7%）」，精神障害は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定（48.6%）」，難病は「病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定（30.8%）」が最も多くなっている。

○　また，精神障害で「病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）」と「雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力」が 4 割を超えている。

図表_障害者／仕事をするために必要なこと（全体）



【上位５つ】（「特に必要ない」を除く）　（%）

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害（64歳以下）	病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定	病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力	技術，知識，資格などの習得	就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口
	39.4	37.1	33.3	25.8	15.0
身体障害（65歳以上）	病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定	病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力	技術，知識，資格などの習得	通勤や勤務中の介助や支援 就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口
	11.0	6.8	5.5	3.8	3.0
知的障害	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力	病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定	就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口	技術，知識，資格などの習得	通勤や勤務中の介助や支援
	35.7	30.8	25.8	15.9	12.6
精神障害	病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力	病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）	技術，知識，資格などの習得	就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口
	48.6	43.5	40.1	34.5	33.9
難病	病気や障害に応じた柔軟な勤務日，勤務時間の設定	技術，知識，資格などの習得	病気や障害に応じた多様な働き方（在宅ワークなど）	雇用する会社の相談体制や上司・同僚の病気や障害への理解，協力	就職支援や就職後の仕事の悩みなどを相談できる窓口
	30.8	20.9	19.8	13.4	7.0

問 20　普段の生活の中で，次のような機会がありますか。（それぞれ１つに○）

○　生活の中の活動機会についてたずねた。

○　身体障害（64 歳以下）で「十分にある」の割合が最も多い活動は，『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（52.1%）』である。一方，「機会はあるが，十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は『友人・知人との交流』『スポーツ・運動をする機会』※，『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』※，『ウ，エ以外の趣味や習いごと』となっている。

○　身体障害（65 歳以上）で「十分にある」の割合が最も多い活動は，『好きなところへ出かける(ヘルパー利用も含む)(31.2%)』と『友人･知人との交流(31.2%)』であるものの，すべての活動で「機会はあるが，十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回っている。

○　知的障害で「十分にある」の割合が最も多い活動は，『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（44.5%）』である。一方，「機会はあるが，十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は『友人・知人との交流』『スポーツ・運動をする機会』，『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』，『ウ，エ以外の趣味や習いごと』である。

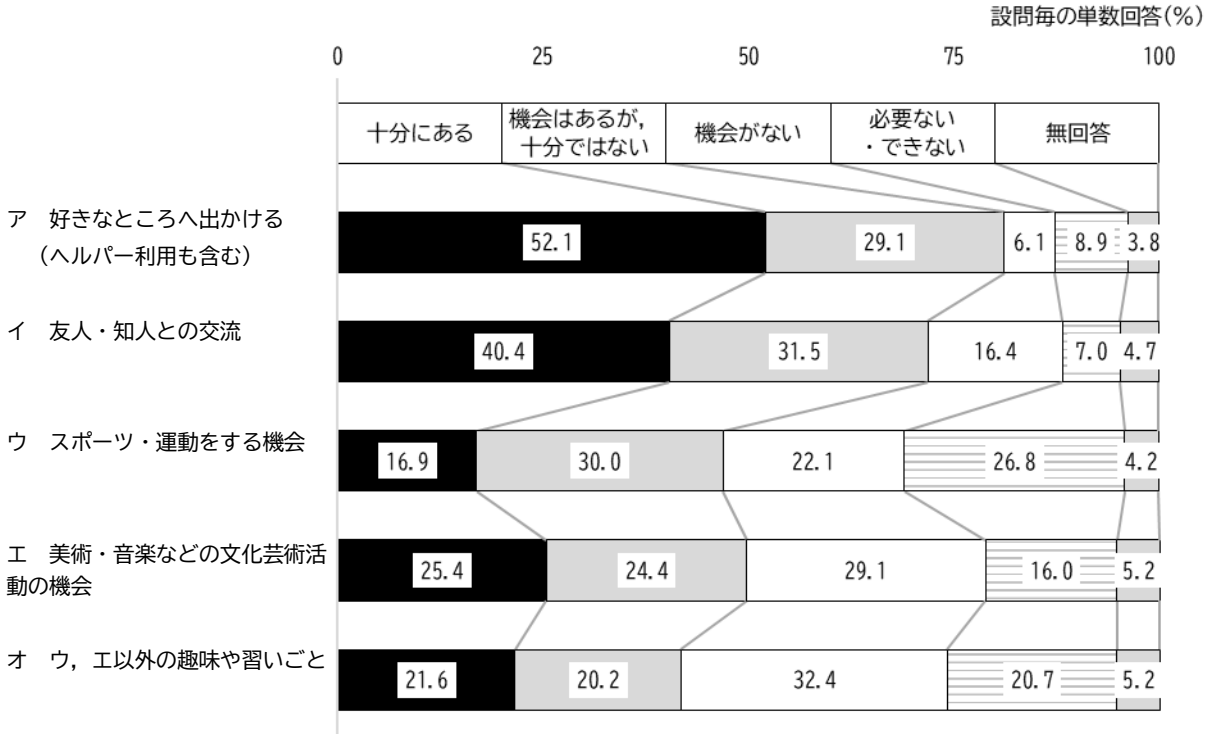
○　精神障害で「十分にある」の割合が最も多い活動は，『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（39.5%）』であるものの，すべての活動で「機会はあるが，十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回っている。

○　難病で「十分にある」の割合が最も多い活動は，『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（55.2%）』である。一方，「機会はあるが，十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は，『スポーツ・運動をする機会』，『美術・音楽などの文化芸術活動の機会』，『ウ，エ以外の趣味や習いごと』である。

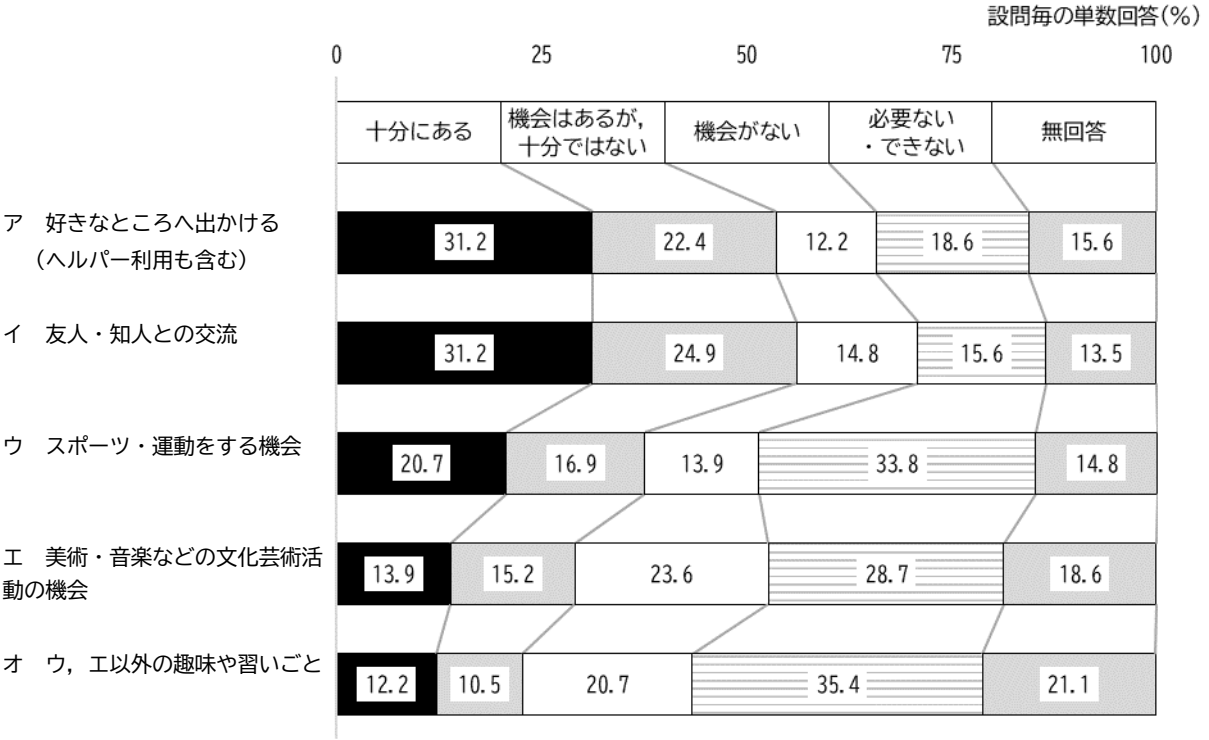
※本調査における「スポーツ・運動」とは，ウォーキング，体操，ヨガなど，競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは，絵を描くこと，美術館・博物館などに行くこと，歌を歌ったり，演奏したりすることを含む。

図表_障害者／生活の中の活動機会の有無（全体）

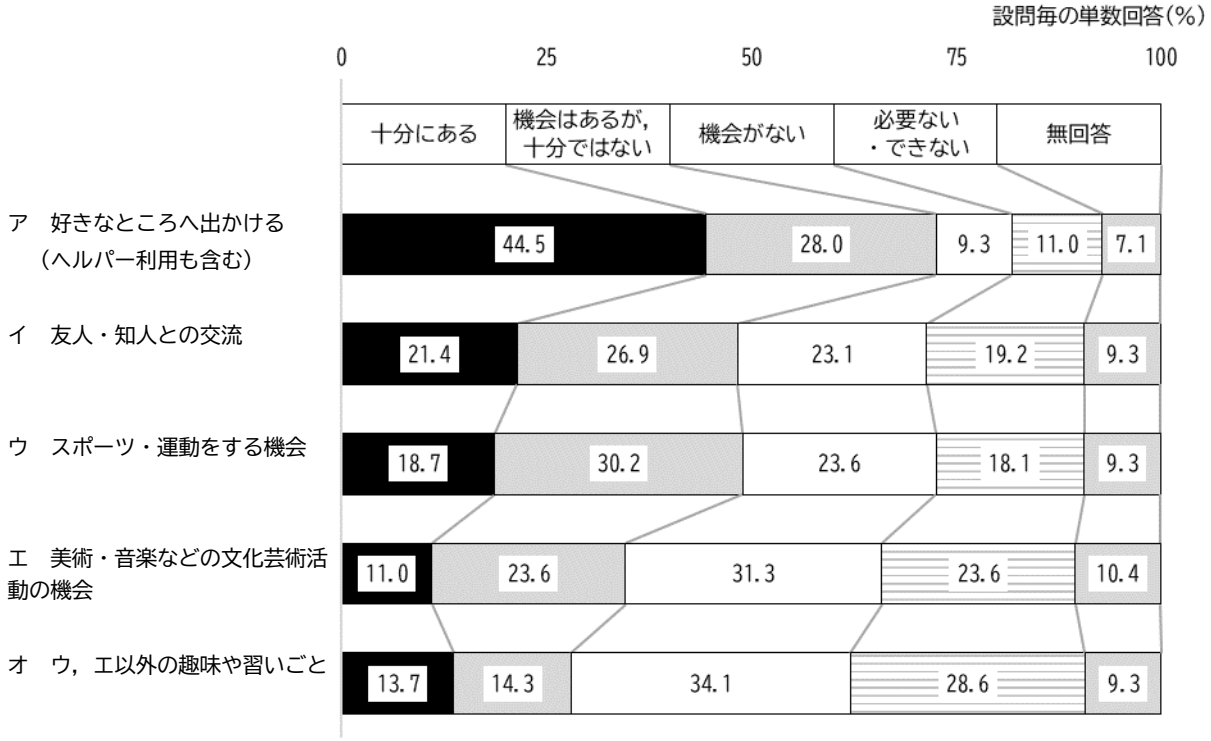
■身体障害（64 歳以下）（N=213）



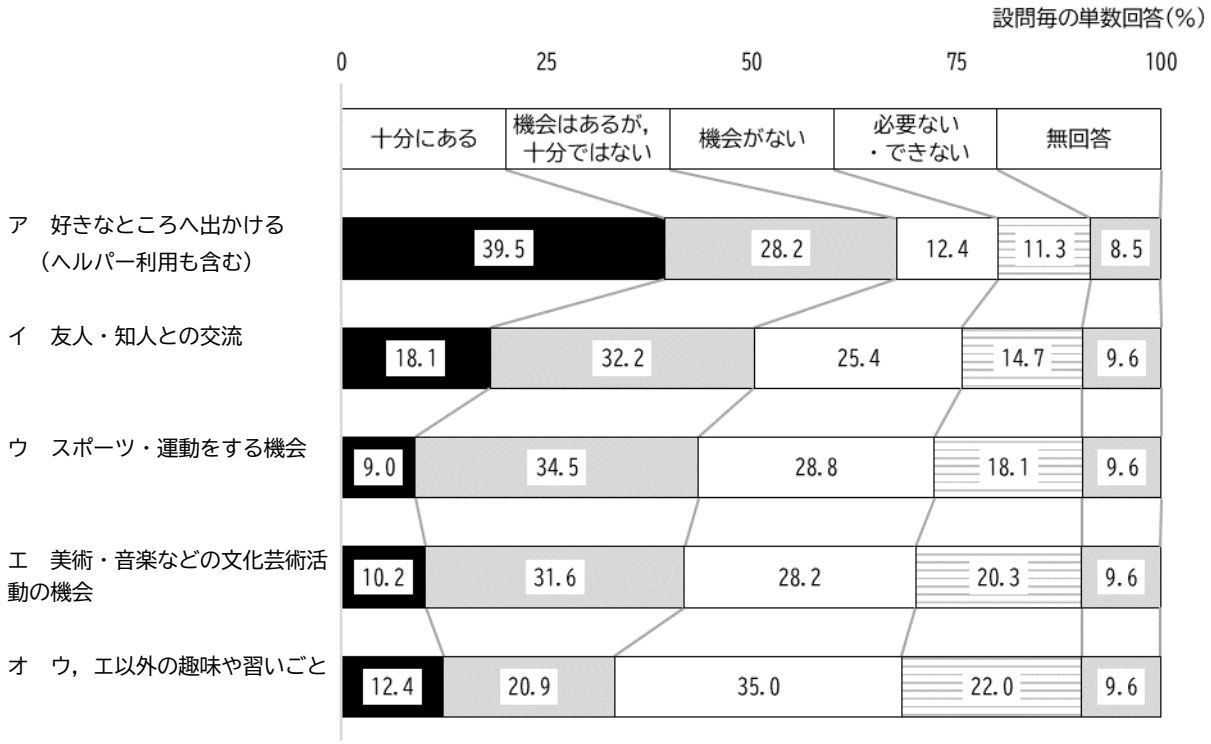
■身体障害（65 歳以上）（N=237）



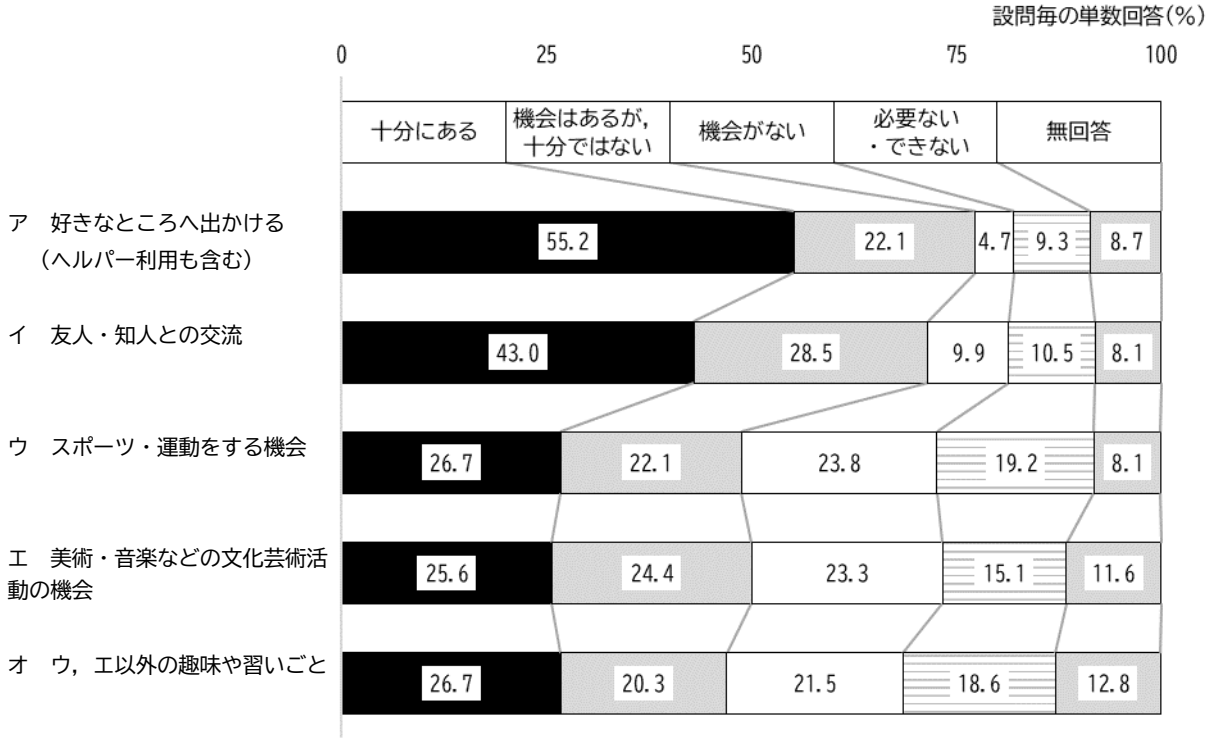
■知的障害(N=182)



■精神障害(N=177)



■難病(N=172)

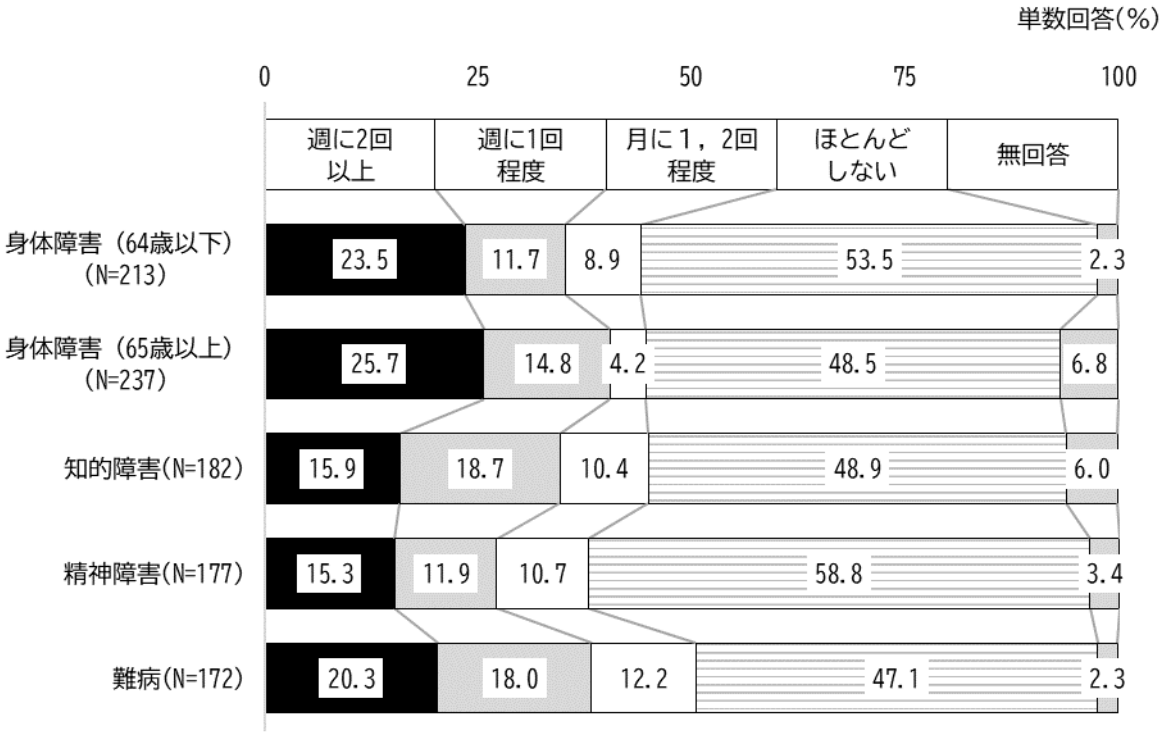

設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
十分にある
機会はあるが，十分ではない
機会がない
必要ない・できない
無回答
ア　好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）
55.2
22.1
4.7
9.3
8.7
イ　友人・知人との交流
43.0
28.5
9.9
10.5
8.1
ウ　スポーツ・運動をする機会
26.7
22.1
23.8
19.2
8.1
エ　美術・音楽などの文化芸術活動の機会
25.6
24.4
23.3
15.1
11.6
オ　ウ，エ以外の趣味や習いごと
26.7
20.3
21.5
18.6
12.8

問 21　スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。（1 つに○）

○　スポーツ・運動をする頻度は，すべての属性で「ほとんどしない」が最も多くなっている。

○　「ほとんどしない」を除くと，身体障害（64 歳以下）は「週に 2 回以上（23.5%）」，身体障害（65 歳以上）は「週に 2 回以上（25.7%）」，知的障害は「週に 1 回程度（18.7%）」，精神障害は「週に 2 回以上（15.3%）」，難病は「週に 2 回以上（20.3%）」が多くなっている。

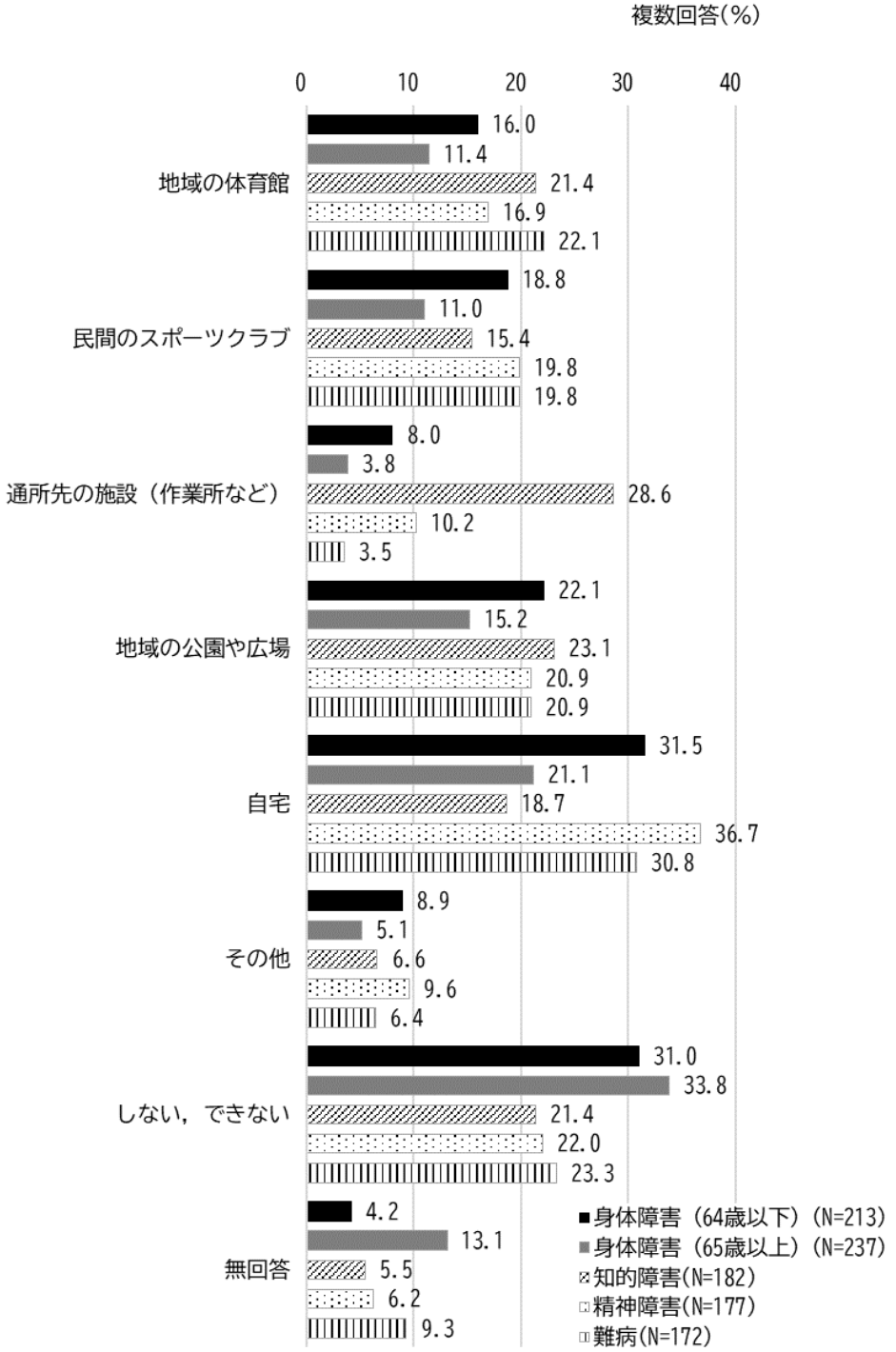
図表_障害者／スポーツ活動・運動をする頻度（全体）



問 22　スポーツ・運動をどこでしたいですか。（いくつでも○）

○　スポーツ・運動をする場所は，身体障害（64 歳以下）は「自宅（31.5%）」，身体障害（65 歳以上）は「しない，できない（33.8%）」，知的障害は「通所先の施設（作業所など）（28.6%）」，精神障害は「自宅（36.7%）」，難病は「自宅（30.8%）」が最も多くなっている。

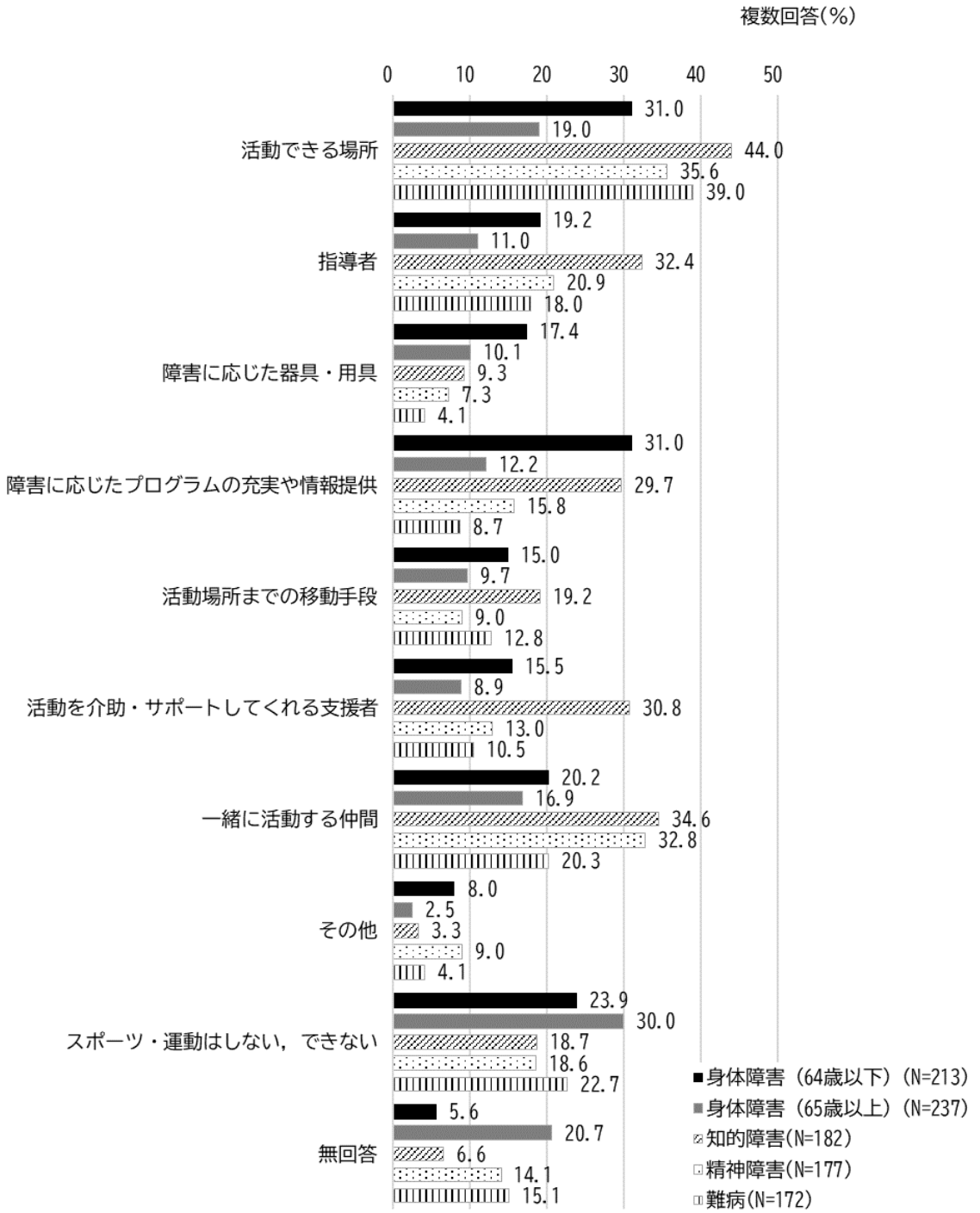
図表_障害者／スポーツ活動・運動をする場所（全体）



問 23　スポーツ・運動をするために必要な支援は何ですか。（いくつでも○）

○　スポーツ・運動をするために希望する支援は，身体障害（64 歳以下）は「活動できる場所(31.0%)」と「障害に応じたプログラムの充実や情報提供(31.0%)」，身体障害（65 歳以上）は「スポーツ・運動はしない，できない（30.0%）」が最も多くなっている。知的障害，精神障害，難病は「活動できる場所」が最も多く，それぞれの割合は 44.0%，35.6%，39.0%となっている。

図表_障害者／スポーツ活動・運動をするための支援（全体）



問 24　コロナ禍によってあなたの暮らしに影響はありましたか。（それぞれ１つに○）

○　コロナ禍による暮らしへの影響についてたずねた。

○　身体障害（64 歳以下）で「増えた」が１割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（17.8%）』，『趣味や好きなことをする時間（13.6%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（61.5%）』，『スポーツ・運動などで体を動かす時間（34.3%）』が多くなっている。

○　身体障害（65 歳以上）で「増えた」が１割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（12.2%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（58.2%）』，『人と電話やラインなどで話す頻度（30.8%）』が多くなっている。

○　知的障害で「増えた」が１割を超える活動は『趣味や好きなことをする時間（12.6%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（41.8%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（34.1%）』が多くなっている。

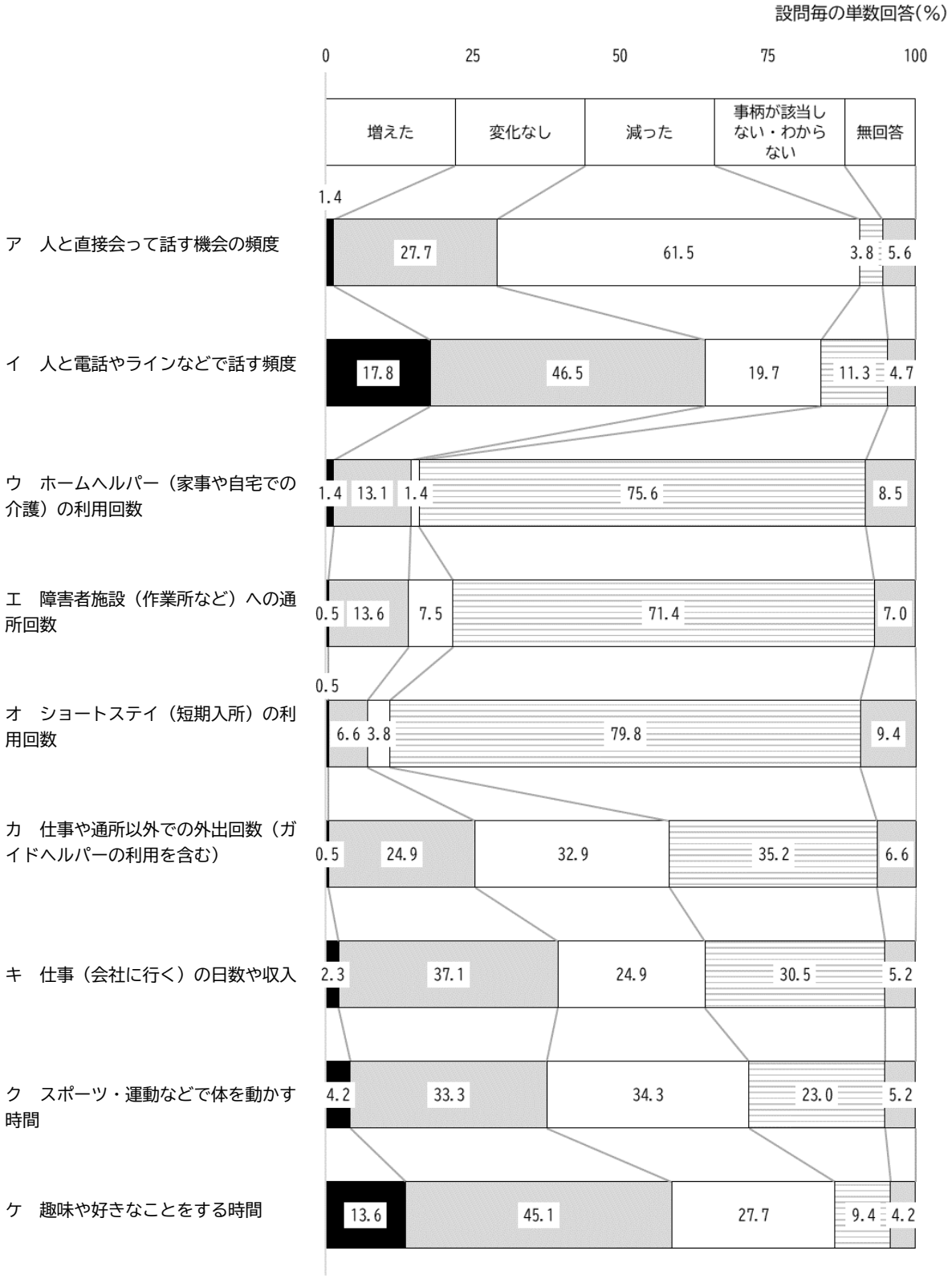
○　精神障害で「増えた」が１割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（17.5%）』，『趣味や好きなことをする時間（14.1%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（55.9%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（40.1%）』が多くなっている。

○　難病で「増えた」が１割を超える活動は『人と電話やラインなどで話す頻度（13.4%）』である。一方，「減った」は『人と直接会って話す機会の頻度（62.2%）』，『仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（31.4%）』，『スポーツ・運動などで体を動かす時間（31.4%）』が多くなっている。

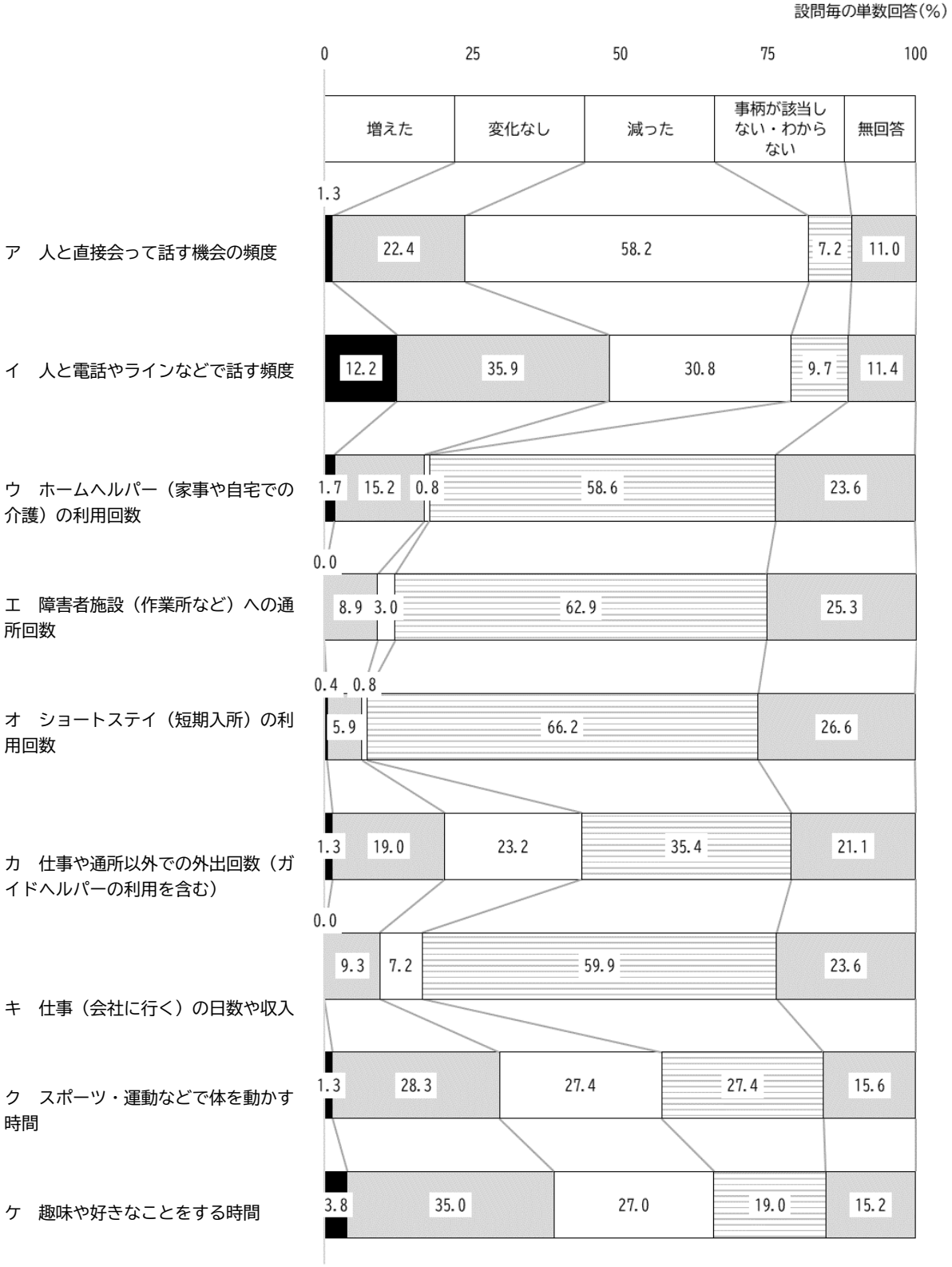
（次ページの図表を参照）

図表_障害者／コロナ禍による暮らしへの影響（全体）

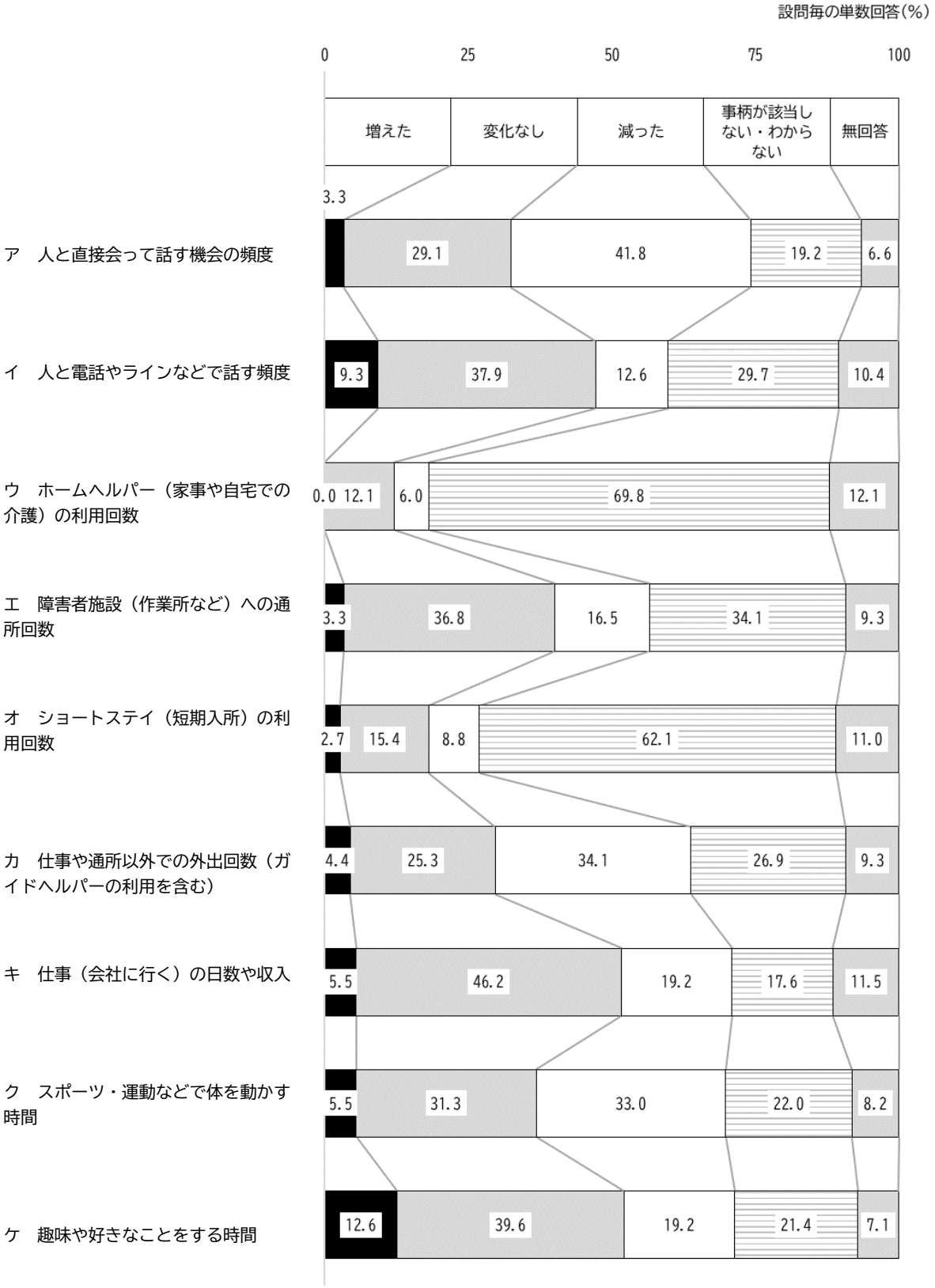
■身体障害（64 歳以下）（N=213）



■身体障害（65 歳以上）(N=237)

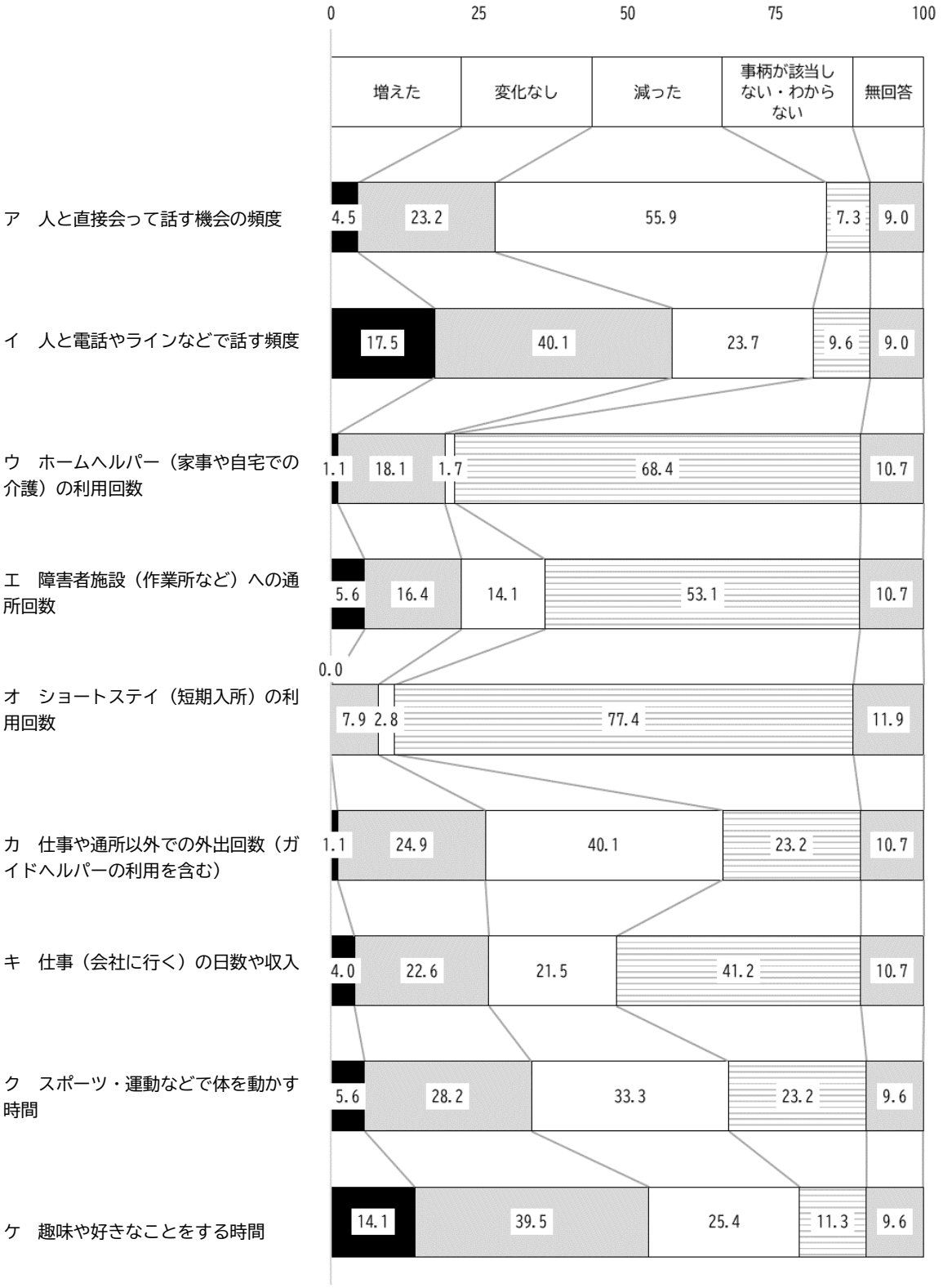


■知的障害(N=182)

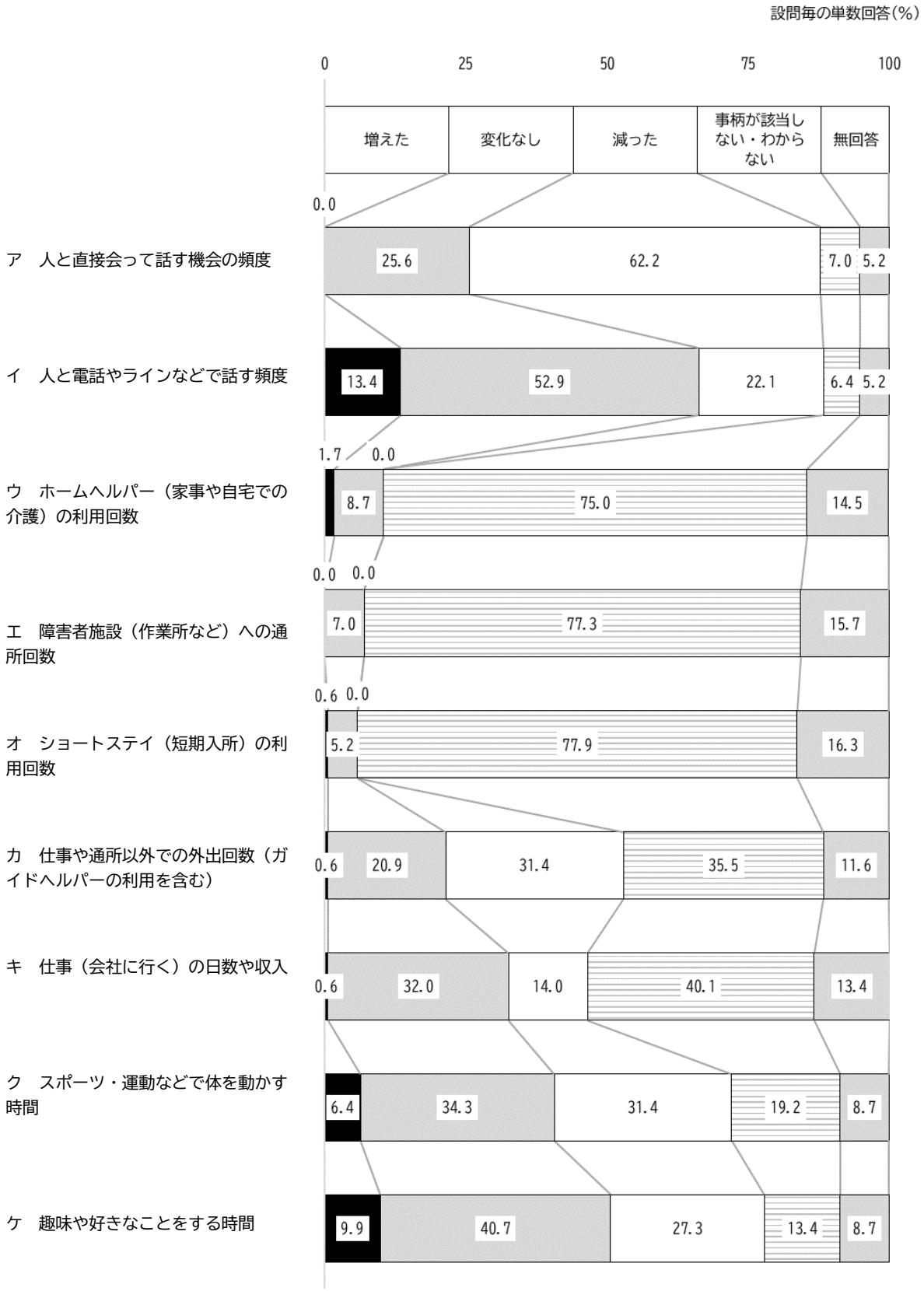

設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
増えた
変化なし
減った
事柄が該当しない・わからない
無回答
ア　人と直接会って話す機会の頻度
3.3
29.1
41.8
19.2
6.6
イ　人と電話やラインなどで話す頻度
9.3
37.9
12.6
29.7
10.4
ウ　ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数
0.0
12.1
6.0
69.8
12.1
エ　障害者施設（作業所など）への通所回数
3.3
36.8
16.5
34.1
9.3
オ　ショートステイ（短期入所）の利用回数
2.7
15.4
8.8
62.1
11.0
カ　仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）
4.4
25.3
34.1
26.9
9.3
キ　仕事（会社に行く）の日数や収入
5.5
46.2
19.2
17.6
11.5
ク　スポーツ・運動などで体を動かす時間
5.5
31.3
33.0
22.0
8.2
ケ　趣味や好きなことをする時間
12.6
39.6
19.2
21.4
7.1

■精神障害(N=177)

設問毎の単数回答(%)



■難病(N=172)

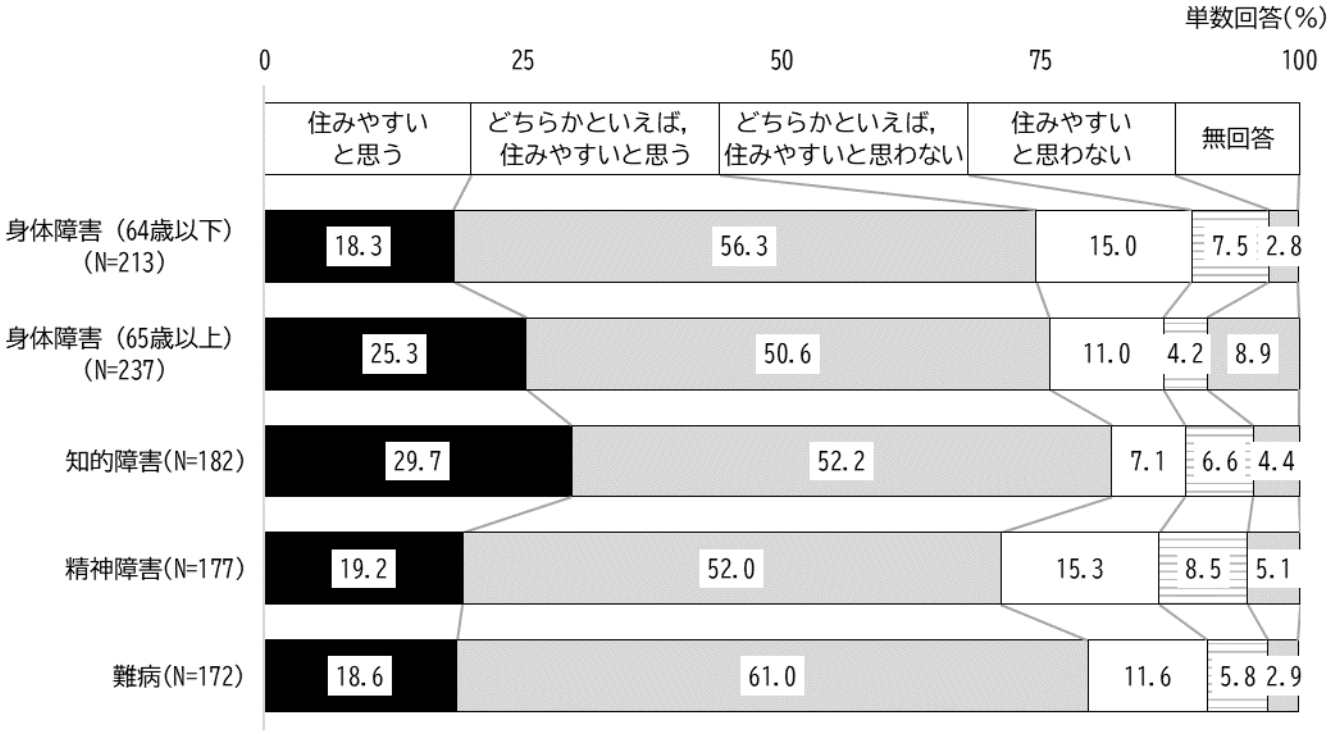

設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
増えた
変化なし
減った
事柄が該当しない・わからない
無回答
ア　人と直接会って話す機会の頻度
0.0
25.6
62.2
7.0
5.2
イ　人と電話やラインなどで話す頻度
13.4
52.9
22.1
6.4
5.2
ウ　ホームヘルパー（家事や自宅での介護）の利用回数
1.7
0.0
8.7
75.0
14.5
エ　障害者施設（作業所など）への通所回数
0.0
0.0
7.0
77.3
15.7
オ　ショートステイ（短期入所）の利用回数
0.6
0.0
5.2
77.9
16.3
カ　仕事や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）
0.6
20.9
31.4
35.5
11.6
キ　仕事（会社に行く）の日数や収入
0.6
32.0
14.0
40.1
13.4
ク　スポーツ・運動などで体を動かす時間
6.4
34.3
31.4
19.2
8.7
ケ　趣味や好きなことをする時間
9.9
40.7
27.3
13.4
8.7

6　誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 25　調布のまちは，障害（身体障害，知的障害，精神障害，難病など）のある人にとって，福祉サービス，バリアフリー，市民意識などを総合的に考え，住みやすいまちであると感じますか。（1 つに○）

○　調布のまちは，障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病で「住みやすいと思う」と「どちらかといえば住みやすいと思う」を合わせた『住みやすい』の割合が多く，それぞれの割合は 74.6%，75.9%，81.9%，71.2%，79.6%となっている。

図表_障害者／調布のまちは，障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（全体）



問 26　市内のバリアフリーについて，どのように感じていますか。（それぞれ１つに○）

○　市内のバリアフリー化の状況について，「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合，「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合をみる。

○　身体障害（64 歳以下）で『充実している』は，『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（40.8%）』，『車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（22.1%）』が多くなっている。一方，『充実していない』は『歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（61.5%）』，『車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）（46.5%）』が多くなっている。

○　身体障害（65 歳以上）で『充実している』は，『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（37.6%）』，『車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（18.6%）』が多くなっている。一方，『充実していない』は『歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（56.9%）』，『車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）（40.9%）』が多くなっている。

○　知的障害で『充実している』は，『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（39.5%）』，『車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（28.5%）』が多くなっている。一方，『充実していない』は『歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（46.7%）』，『高齢者，子ども連れの家族，障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（34.6%）』が多くなっている。

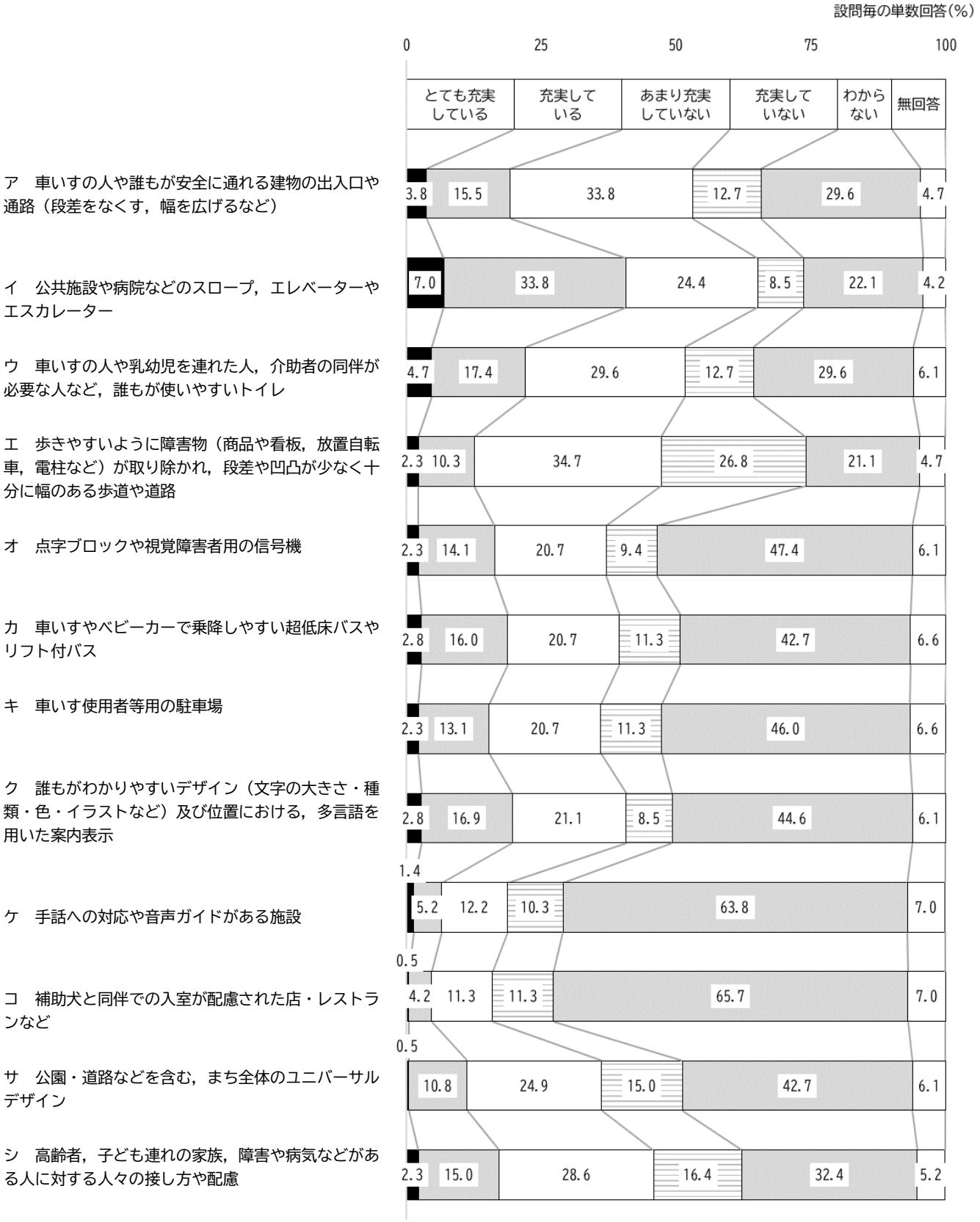
○　精神障害で『充実している』は，『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（37.9%）』，『車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（27.1%）』が多くなっている。一方，『充実していない』は『歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（49.1%）』，『高齢者，子ども連れの家族，障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（36.7%）』が多くなっている。

○　難病で『充実している』は，『公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター（34.8%）』，『車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ（23.9%）』が多くなっている。一方，『充実していない』は『歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（54.0%）』，『車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）（44.8%）』が多くなっている。

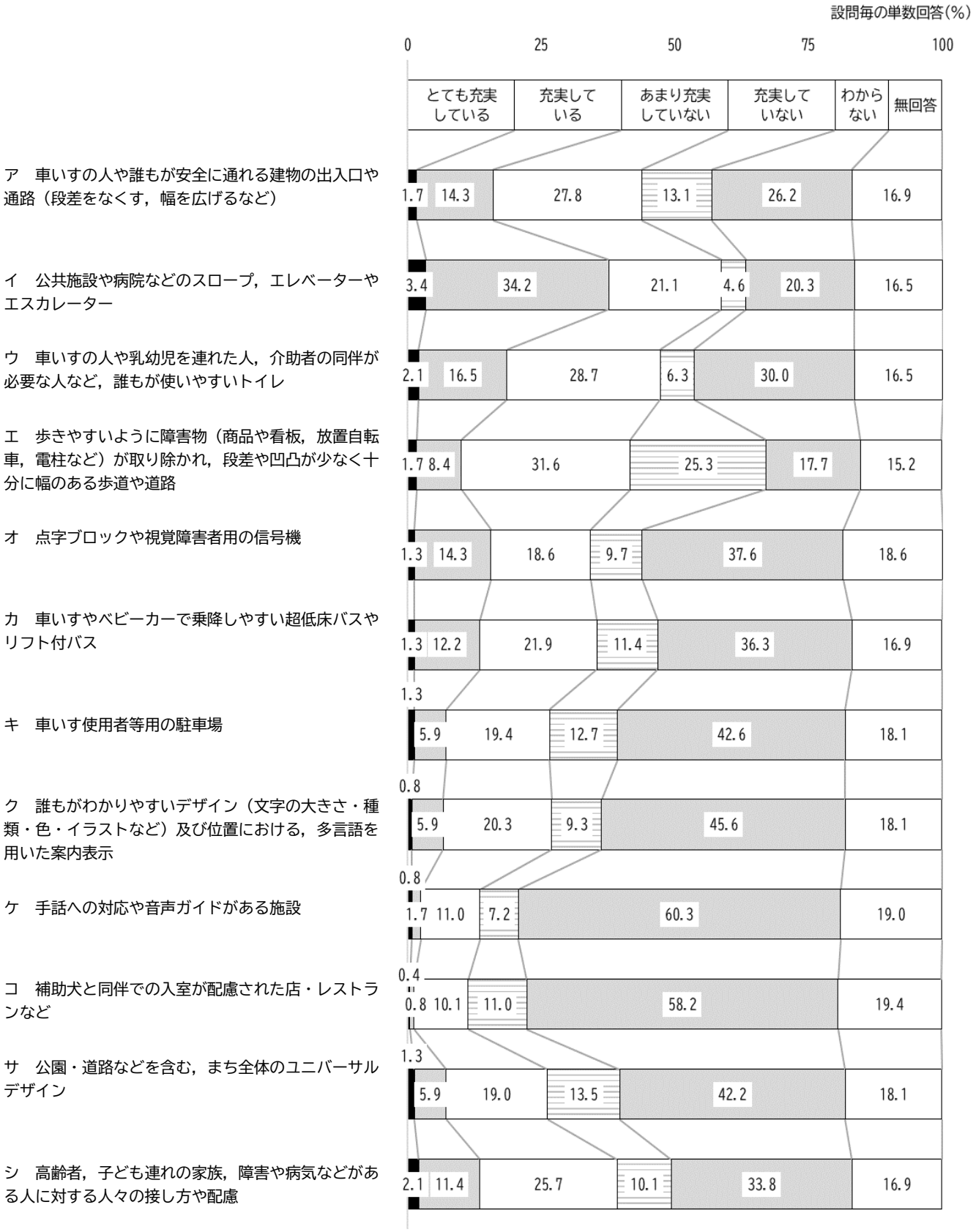
（次ページの図表を参照）

図表_障害者／市内のバリアフリー化の状況（全体）

■身体障害（64 歳以下）（N=213）

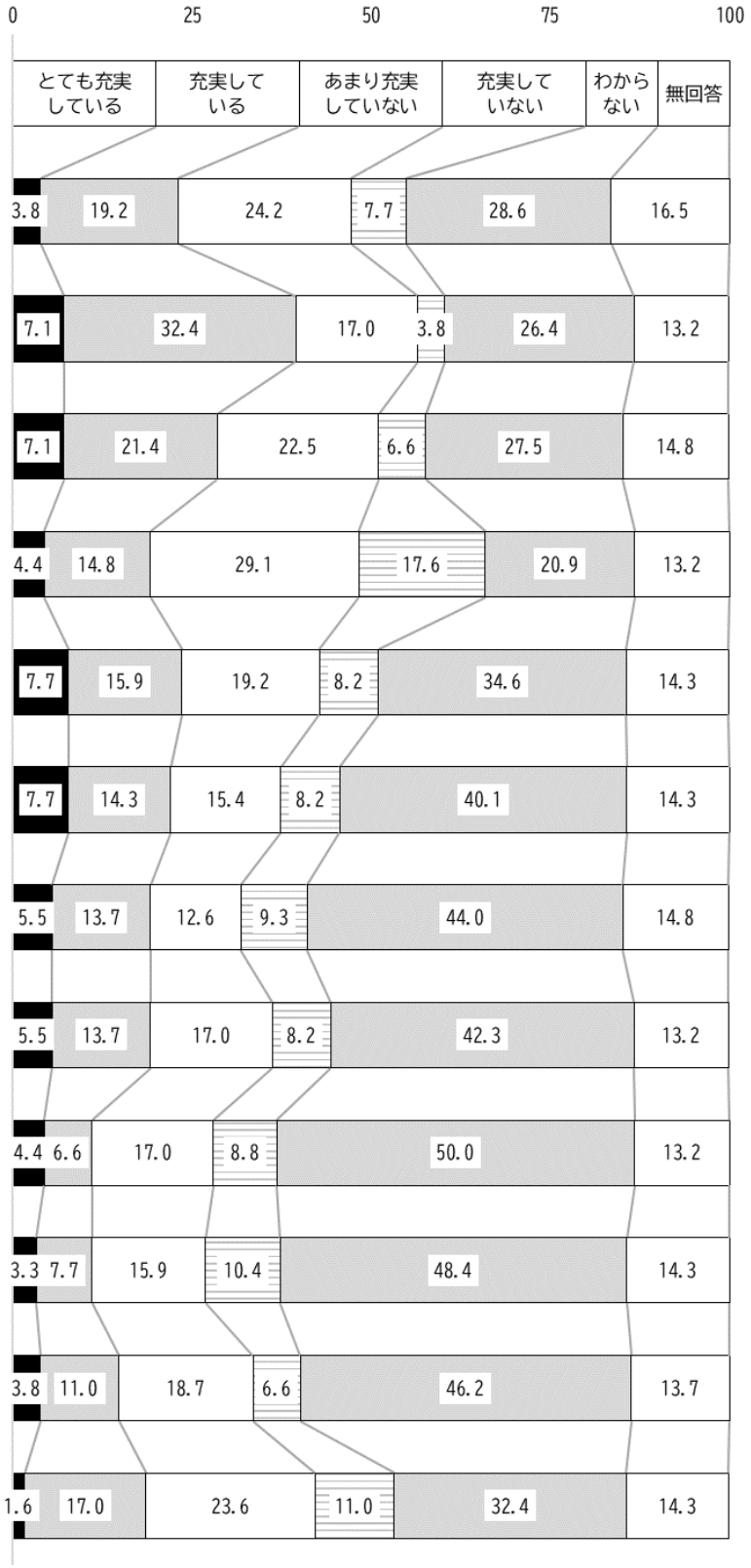


■身体障害（65 歳以上）(N=237)

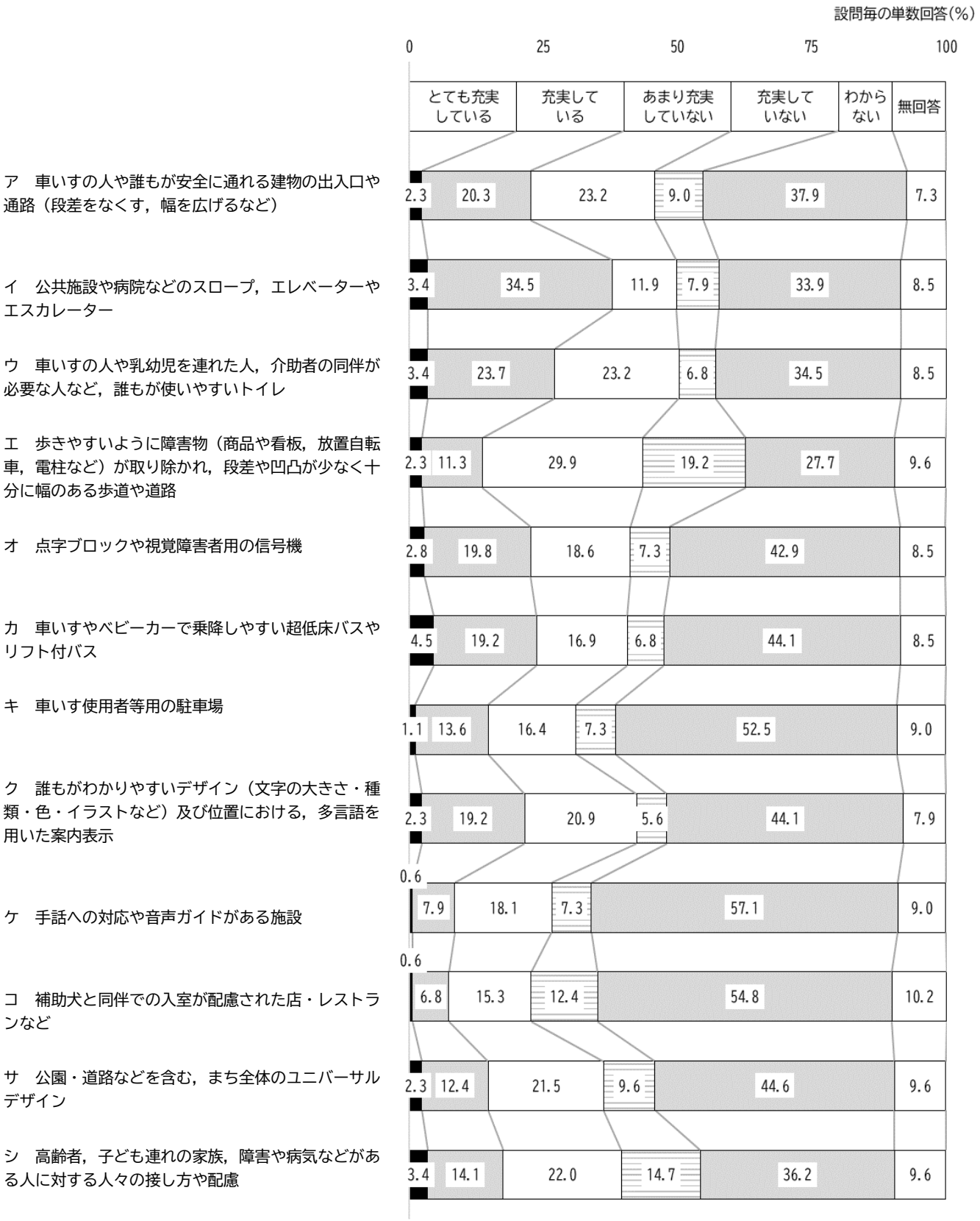


■知的障害(N=182)

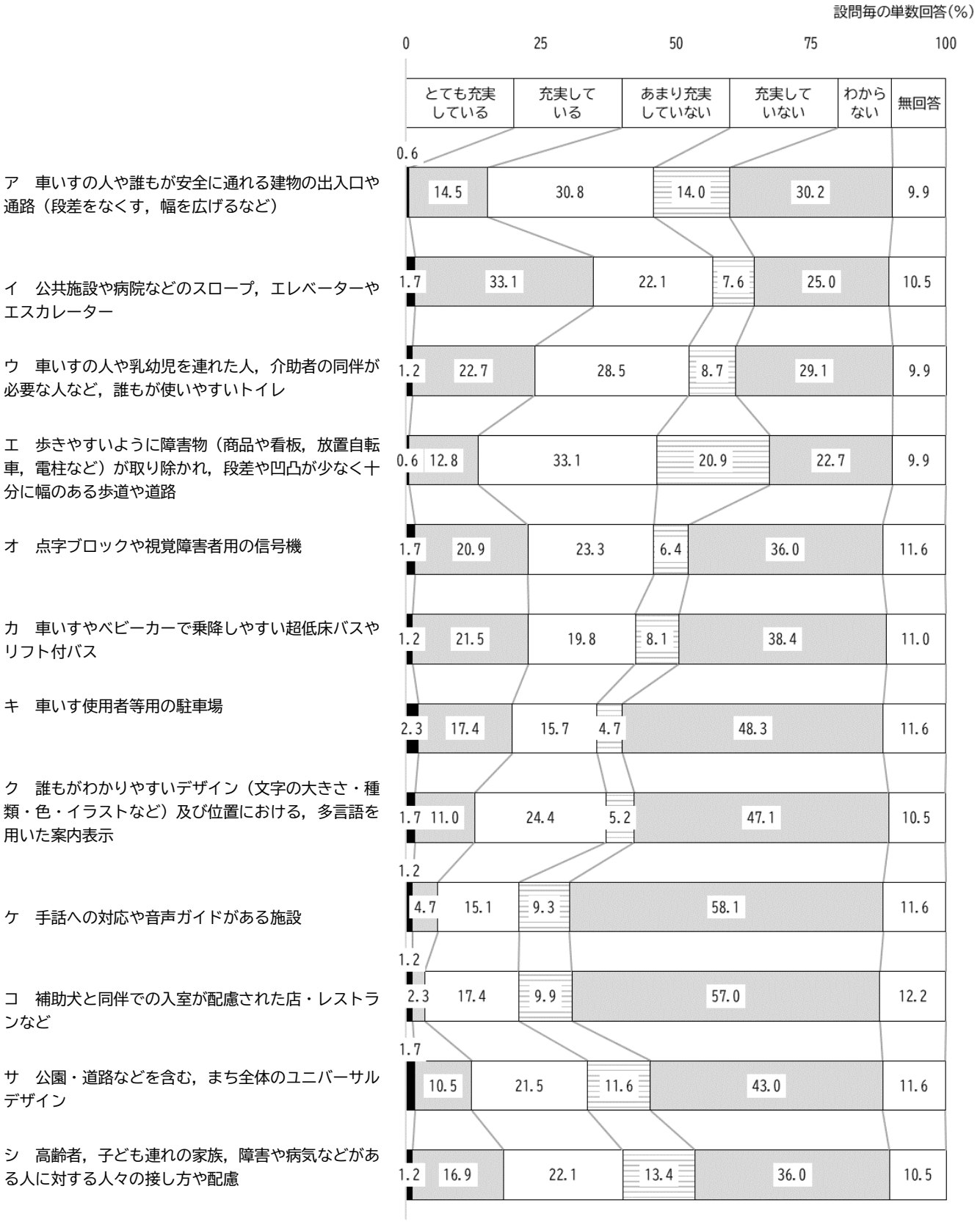
設問毎の単数回答(%)



■精神障害(N=177)


設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
とても充実している
充実している
あまり充実していない
充実していない
わからない
無回答
ア　車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）
2.3 20.3 23.2 9.0 37.9 7.3
イ　公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター
3.4 34.5 11.9 7.9 33.9 8.5
ウ　車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ
3.4 23.7 23.2 6.8 34.5 8.5
エ　歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路
2.3 11.3 29.9 19.2 27.7 9.6
オ　点字ブロックや視覚障害者用の信号機
2.8 19.8 18.6 7.3 42.9 8.5
カ　車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス
4.5 19.2 16.9 6.8 44.1 8.5
キ　車いす使用者等用の駐車場
1.1 13.6 16.4 7.3 52.5 9.0
ク　誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における，多言語を用いた案内表示
2.3 19.2 20.9 5.6 44.1 7.9
ケ　手話への対応や音声ガイドがある施設
0.6 7.9 18.1 7.3 57.1 9.0
コ　補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど
0.6 6.8 15.3 12.4 54.8 10.2
サ　公園・道路などを含む，まち全体のユニバーサルデザイン
2.3 12.4 21.5 9.6 44.6 9.6
シ　高齢者，子ども連れの家族，障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
3.4 14.1 22.0 14.7 36.2 9.6

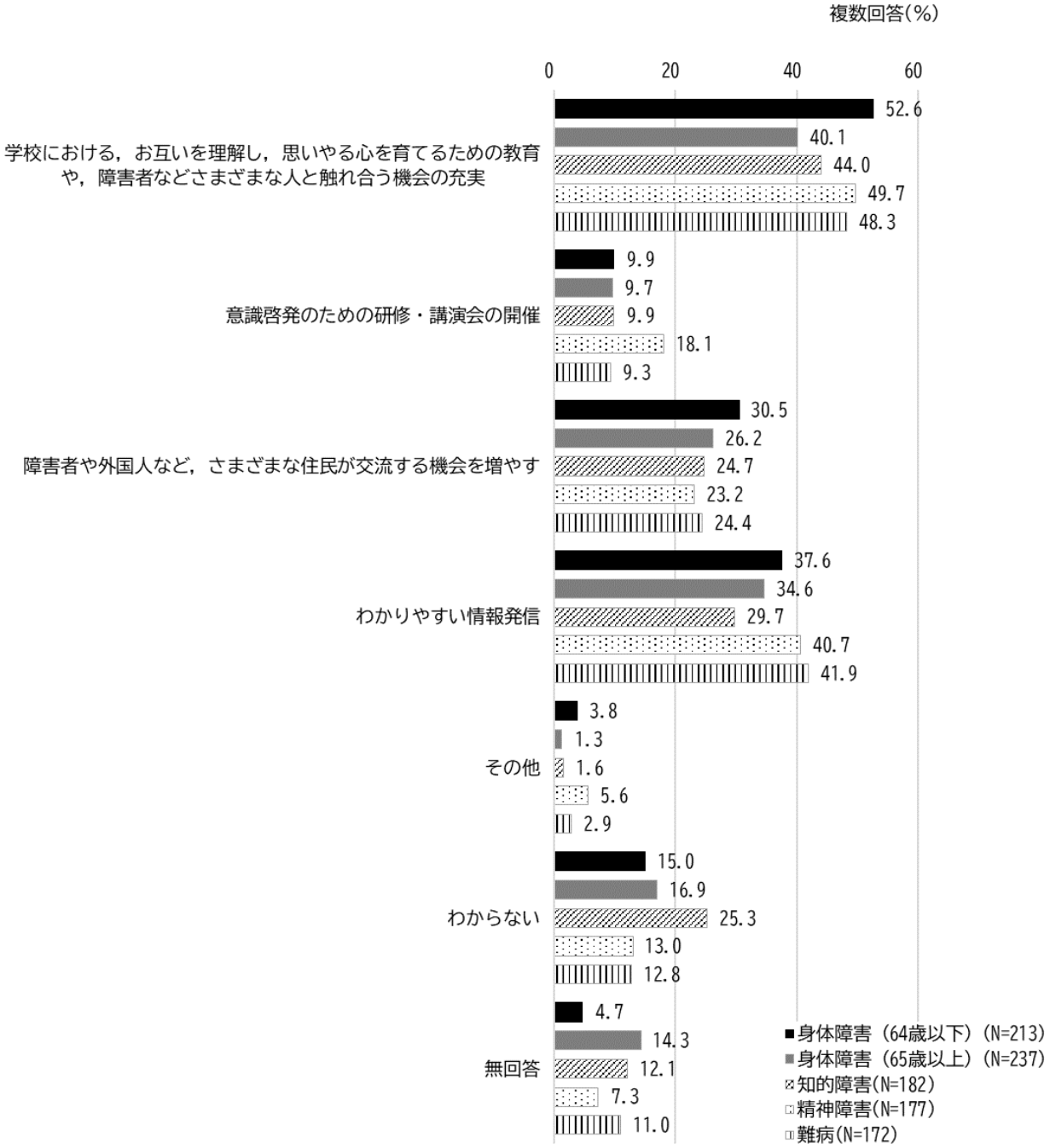
■難病(N=172)


設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
とても充実している
充実している
あまり充実していない
充実していない
わからない
無回答
ア　車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす，幅を広げるなど）
0.6 14.5 30.8 14.0 30.2 9.9
イ　公共施設や病院などのスロープ，エレベーターやエスカレーター
1.7 33.1 22.1 7.6 25.0 10.5
ウ　車いすの人や乳幼児を連れた人，介助者の同伴が必要な人など，誰もが使いやすいトイレ
1.2 22.7 28.5 8.7 29.1 9.9
エ　歩きやすいように障害物（商品や看板，放置自転車，電柱など）が取り除かれ，段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路
0.6 12.8 33.1 20.9 22.7 9.9
オ　点字ブロックや視覚障害者用の信号機
1.7 20.9 23.3 6.4 36.0 11.6
カ　車いすやベビーカーで乗降しやすい超低床バスやリフト付バス
1.2 21.5 19.8 8.1 38.4 11.0
キ　車いす使用者等用の駐車場
2.3 17.4 15.7 4.7 48.3 11.6
ク　誰もがわかりやすいデザイン（文字の大きさ・種類・色・イラストなど）及び位置における，多言語を用いた案内表示
1.7 11.0 24.4 5.2 47.1 10.5
ケ　手話への対応や音声ガイドがある施設
1.2 4.7 15.1 9.3 58.1 11.6
コ　補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど
1.2 2.3 17.4 9.9 57.0 12.2
サ　公園・道路などを含む，まち全体のユニバーサルデザイン
1.7 10.5 21.5 11.6 43.0 11.6
シ　高齢者，子ども連れの家族，障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮
1.2 16.9 22.1 13.4 36.0 10.5

問 27　誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて，病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために，特に必要な取組は何だと思いますか。（2 つまで○）

○　心のバリアフリーのための取組は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「学校における，お互いを理解し，思いやる心を育てるための教育や，障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実」が最も多く，「わかりやすい情報発信」が続いている。

図表_障害者／心のバリアフリーのための取組（全体）

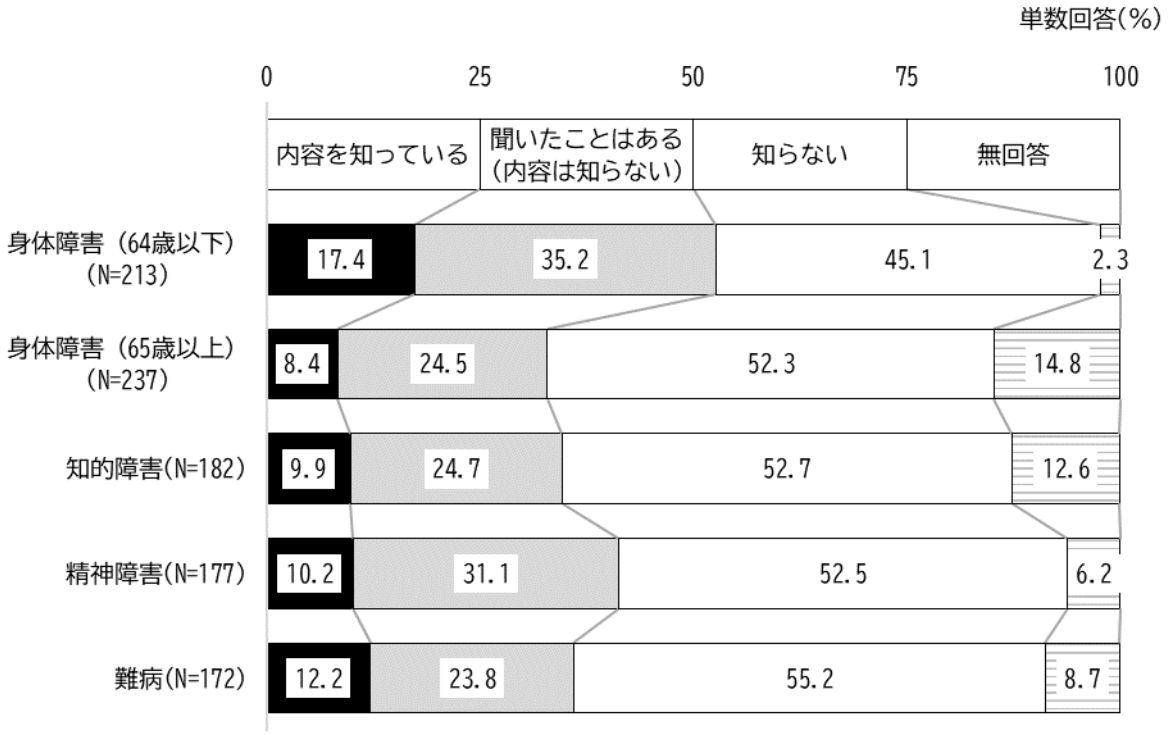


問 28　お互いにその人らしさを認め合い，ともに生きる社会をめざす法律や取組をご存知ですか。（それぞれ１つに○）

ア　障害者差別解消法

○　障害者差別解消法の認知度について，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は 17.4%，8.4%，9.9%，10.2%，12.2%となっている。

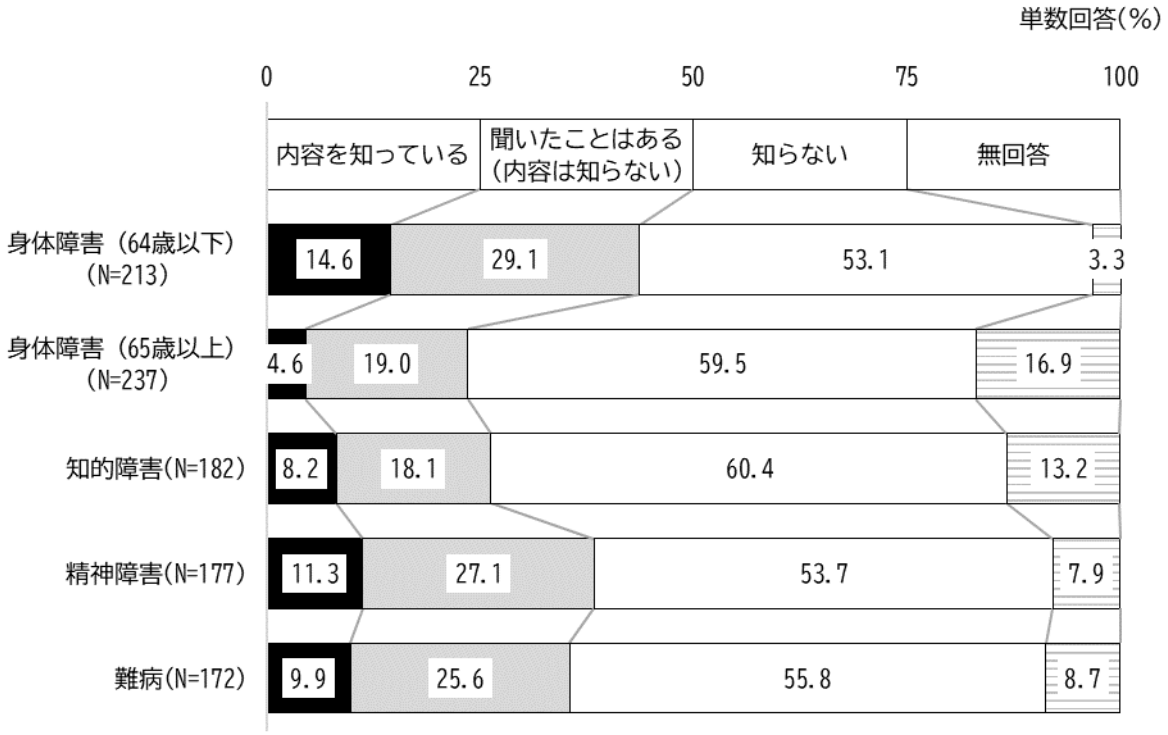
図表_障害者／障害者差別解消法についての認知度（全体）



イ　合理的配慮

○　合理的配慮の認知度について，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「知らない」が最も多くなっている。「内容を知っている」について，それぞれの割合は 14.6%，4.6%，8.2%，11.3%，9.9%となっている。

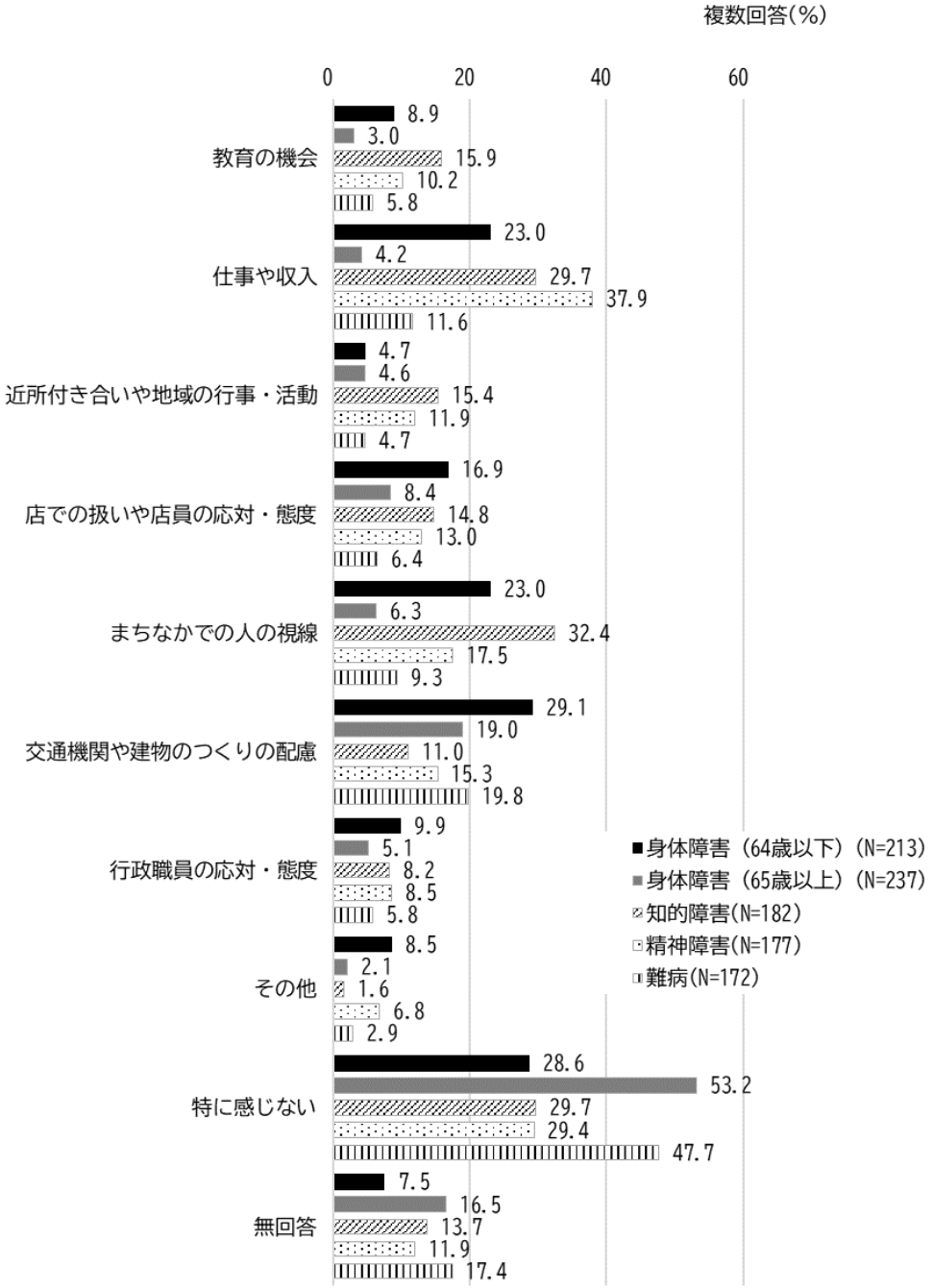
図表_障害者／合理的配慮の認知度（全体）



問 29　普段の暮らしや外出のとき，障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面はありますか。（いくつでも○）

○　障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面は，身体障害（64 歳以下）は「交通機関や建物のつくりの配慮（29.1%）」，身体障害（65 歳以上）は「特に感じない（53.2%）」，知的障害は「まちなかでの人の視線（32.4%）」，精神障害は「仕事や収入（37.9%）」，難病は「特に感じない（47.7%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／障害や病気への差別や偏見，配慮のなさを感じる場面（全体）



問 30　あなたは，調布市が配布しているヘルプカード，ヘルプマークをもっていますか。（それぞれ１つに○）

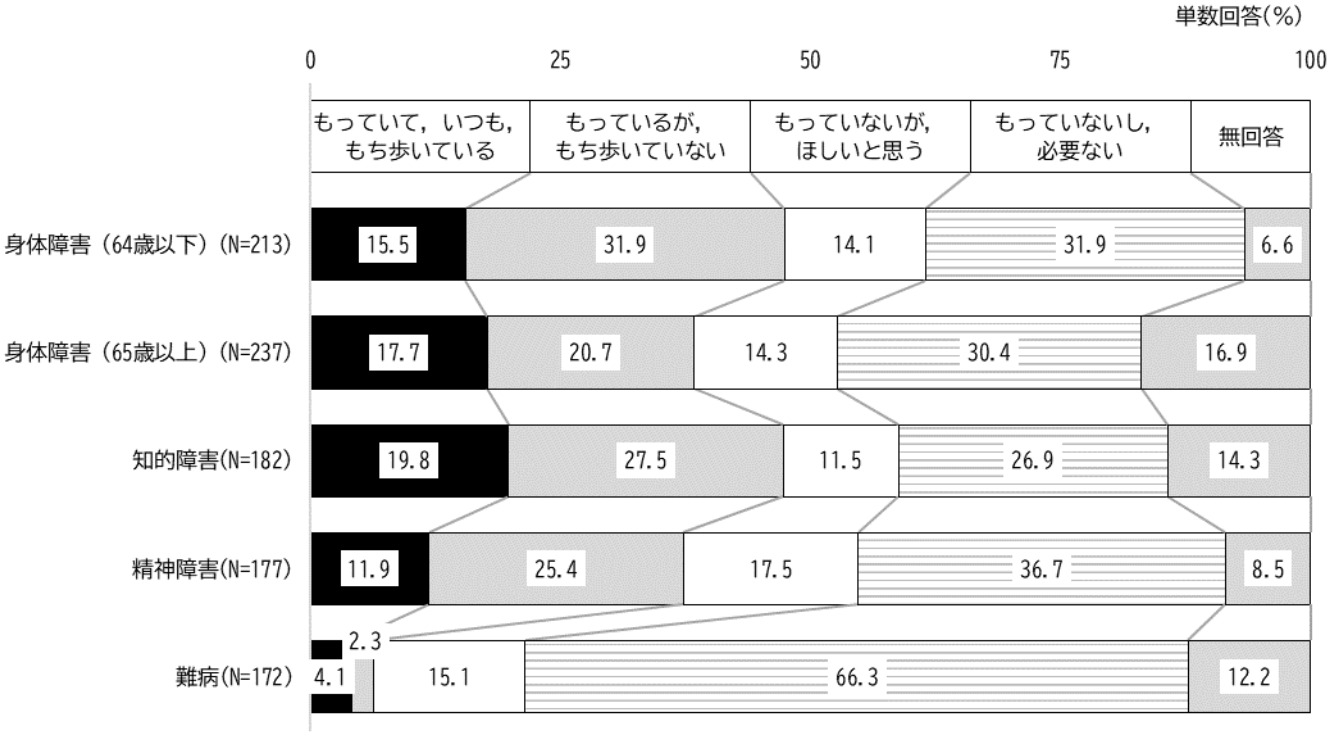
①　ヘルプカード

○　ヘルプカードの所持について，身体障害（64 歳以下）で「もっているが，もち歩いていない」と「もっていないし，必要ない」，身体障害（65 歳以上），精神障害，難病で「もっていないし，必要ない」が最も多くなっている。また，難病は「もっていないし，必要ない」が 6 割を超えている。

○　知的障害で「もっているが，もち歩いていない」が最も多くなっている。

○　身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病で「もっていて，いつも，もち歩いている」と「もっているが，もち歩いていない」と「もっていないが，ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は，61.5%，52.7%，58.8%，54.8%，21.5%となっている。

図表_障害者／ヘルプカードの所持について（全体）

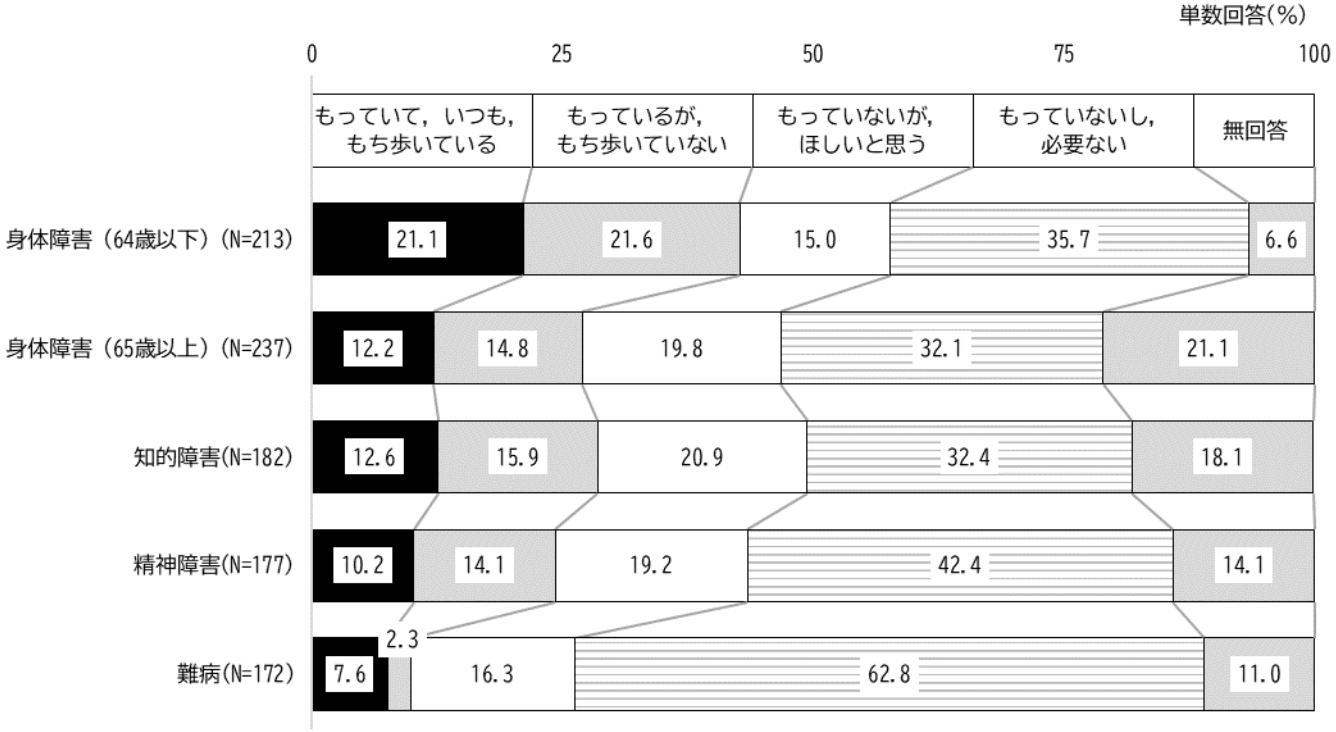


② ヘルプマーク

○ ヘルプマークの所持について，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「もっていないし，必要ない」が最も多くなっている。また，難病は「もっていないし，必要ない」が 6 割を超えている。

○ 身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病で「もっていて，いつも，もち歩いている」と「もっているが，もち歩いていない」と「もっていないが，ほしいと思う」を合わせた『もつ意向がある』のそれぞれの割合は，57.7%，46.8%，49.4%，43.5%，26.2%となっている。

図表_障害者／ヘルプマークの所持について（全体）

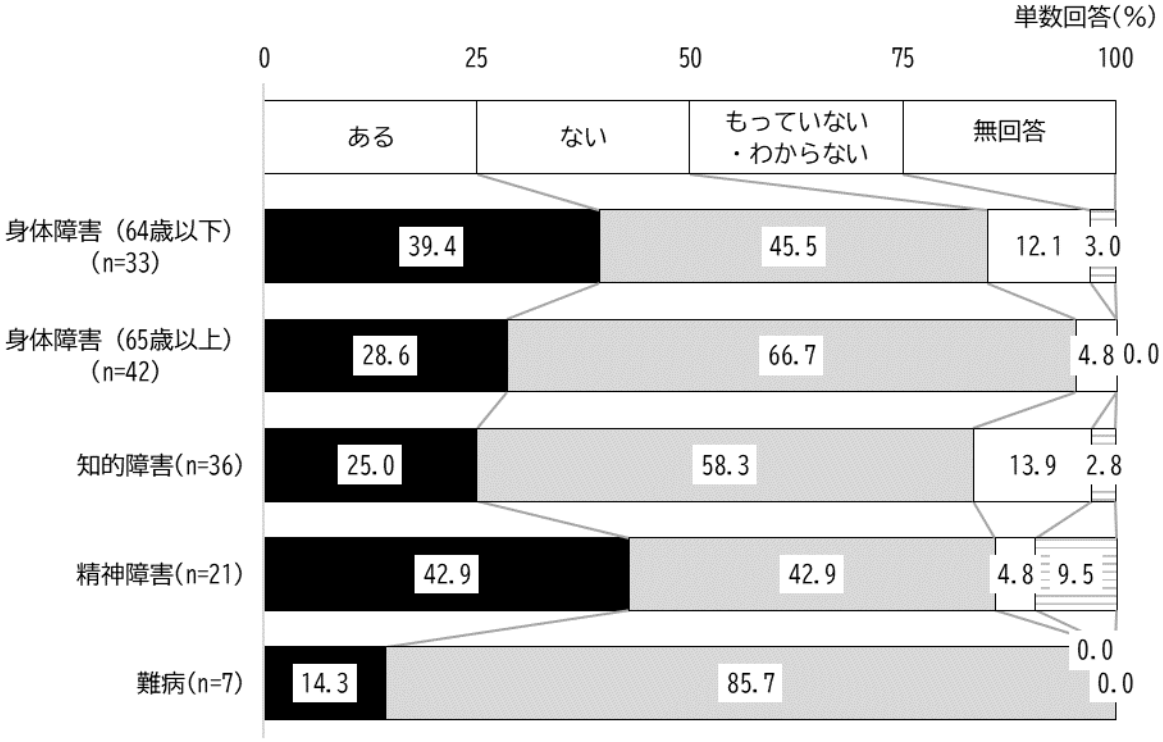


問 31　ヘルプカードやヘルプマークを持っていることで，周囲の人に配慮してもらったり，手助けをしてもらったりしたことがありますか。（1 つに○）

○　ヘルプカードを「もっていて，いつも，もち歩いている」と回答した人が実感するヘルプカードの効果について，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害で「ある」が 2 割から 3 割台，精神障害で「ある」が 4 割を超えている。一方，難病では「ない」が 8 割を超えている。

図表_障害者／ヘルプカードの効果の実感（全体）

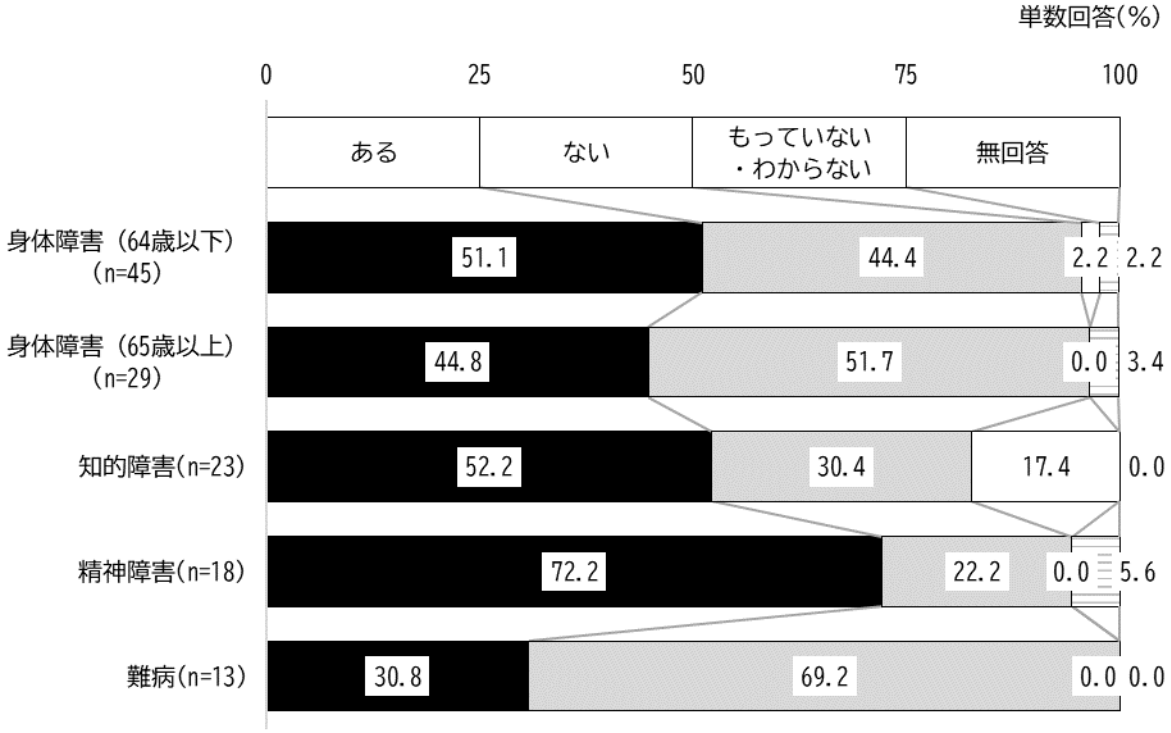
＜ヘルプカードを「もっていて，いつも，もち歩いている」と回答した人＞



○　ヘルプマークを「もっていて，いつも，もち歩いている」と回答した人が実感するヘルプマーク効果について，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害で「ある」が 4 割から 5 割台，精神障害で「ある」が 7 割を超えている。一方，難病では「ない」が 7 割近くとなっている。

図表_障害者／ヘルプマークの効果の実感（全体）

＜ヘルプマークを「もっていて，いつも，もち歩いている」と回答した人＞

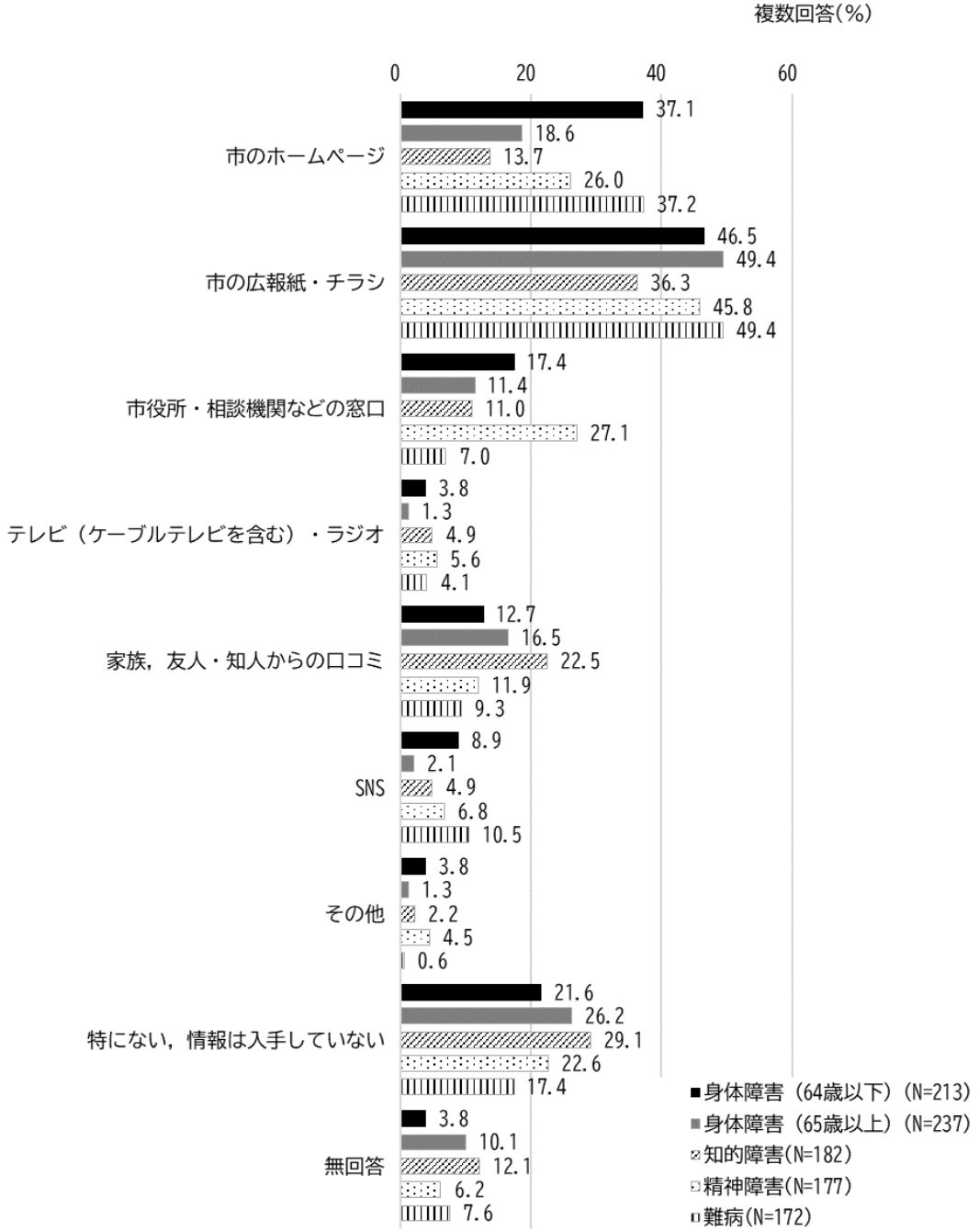


7　デジタルの活用についておたずねします

問 32　調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

○　市の保健福祉施策(サービス)に関する情報の入手先は，身体障害(64 歳以下)，身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病で「市の広報紙・チラシ」が最も多く，それぞれの割合は 46.5%，49.4%，36.3%，45.8%，49.4%となっている。

図表_障害者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（全体）

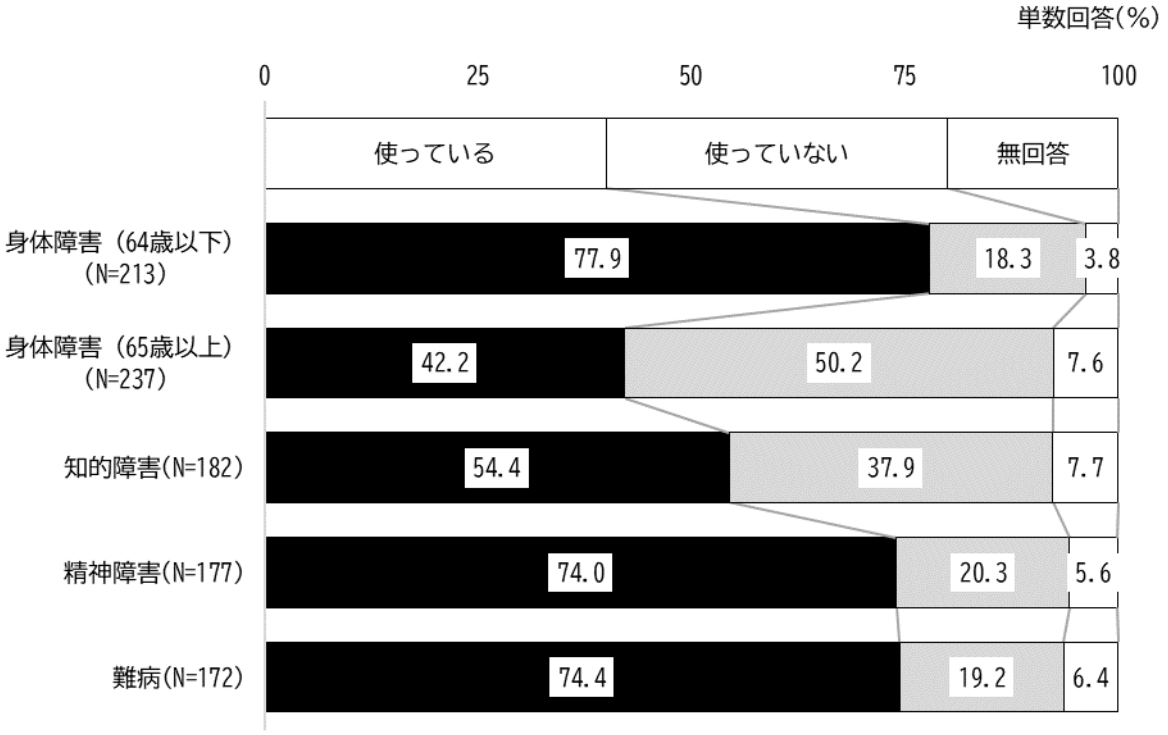


問 33　普段，スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使っていますか。
（1 つに○）

○　情報端末やパソコンなどの使用状況は，身体障害（64 歳以下），知的障害，精神障害，難病で「使っている」が多く，それぞれの割合は 77.9%，54.4%，74.0%，74.4%となっている。

○　身体障害（65 歳以上）は「使っていない（50.2%）」が多くなっている。

図表_障害者／情報端末やパソコンなどの使用状況（全体）

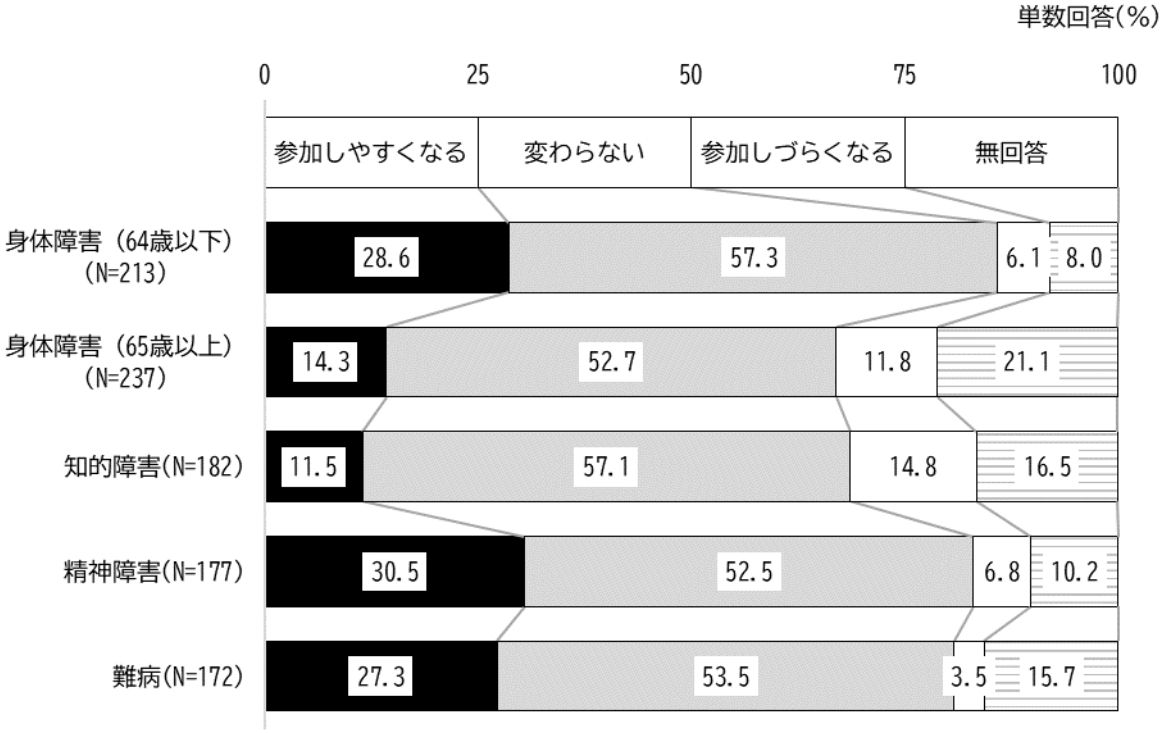


問 34　市や社会福祉協議会の講座やイベントがオンラインで開催されたら，参加しやすくなりますか。（1 つに○）

○　市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさについて，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「変わらない」が最も多くなっている。

○　身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），精神障害，難病で「参加しやすくなる」が「参加しづらくなる」を上回っている。一方，知的障害で「参加しづらくなる」が「参加しやすくなる」を上回っている。

図表_障害者／市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ（全体）



問 35　あなたがスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと，暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら，教えてください。（自由記述）

○　スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと，暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見，ご提案を自由記述形式でたずねたところ，142 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害者／スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってしたいこと（自由意見）

項目	意見区分	意見数
ア　デジタルの活用	①イベント，講演のオンライン化 ②デジタル化への対応 ③障害者同士の交流，働き方	40
イ　市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②市の情報提供の充実 ③防災情報の充実	58
ウ　その他	①デジタル化の懸念	44
合計		142

○　項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア　デジタルの活用

①イベント，講演のオンライン化

- 市で行っている講習会やセミナー，体験会などをオンラインで参加できるようにすれば良いと思う。実際に行く人の枠とオンライン枠を作るなどをする。（女性，30 歳代）
- スマートフォン，パソコンで対面形式(顔出し)で，手話を使っての交流イベント，また音声→文字変換機能付きの講演・学習会などのイベントがあれば有り難いです。（男性，50 歳代）

②デジタル化への対応

- ネットワークを利用する費用が無料なら利用したい。やりかたの教室や無料のタブレットがあったらなおうれしい。（女性，50 歳代）
- スマホ，ＰＣの使い方講座（視覚障害者対象）（男性，30 歳代）
- 障害向けの詳しく教えるスマホとパソコンの操作を教える人，場所の設置。（女性，60 歳代）

③障害者同士の交流，働き方

- 精神疾患の人を対象にしたオンラインカフェをやってみたい（女性，30 歳代）
- 会話が苦手（ＡＳＤ）なので，ＳＮＳで（文字で），他の障害者と交流できる機会があったら良いと思います。Ｚｏｏｍとかではなく，ＬｉｎｅとかＦａｃｅｂｏｏｋとかで。（考えながら，文章を打てるので）。（男性，40 歳代）
- 福祉現場のオンラインツアー。（女性，50 歳代）
- 同じ障害を持つ人々（双極性障害）も，人により全然症状が違うので，実際どんな症状なのか，どんな事が辛く困っているのか，ざっくばらんにコメント出来る，一言アプリ（つぶやき）のようなものが欲しい。（グループＬＩＮＥのようなものだと，返事をしたり会話をしたりしなきゃならず，関係が近すぎてしんどい）。※1 人 1 人の体験談。（女性，40 歳代）
- 時間の自由な在宅ワーク。（女性，40 歳代）
- 自宅でできる仕事 情報発信（女性，40 歳代）

イ　市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 調布市のアプリ提供があれば，障害別のコーナーや一般にも利用できる街中のＷＣ（車イス用など含む），手話できますショップの情報があれば良いと思った。（女性，50 歳代）
- オンラインでの行政手続き。コロナを考慮した非対面手続き。ＺＯＯＭなどを活用したもの。（男性，30 歳代）
- デジタル障害者手帳があります。このアプリが使える場所がもっと増えるとたすかります。（女性，40 歳代）

②市の情報提供の充実

- 聴覚，視覚障害の人向けに案内を分かりやすくしてくれると嬉しい（音声案内，手話案内など）。（女性，10 歳代）
- チャット方式ではなく，無理ない時間の使い方で返信・受信ができる意見箱のようなサイトやシステム。障害ある人向けのニュースなどが自動で受信できるメルマガやアプリ。（女性，30 歳代）

③防災情報の充実

- 避難する時，一人だとどこに連絡するのか分からないです。（女性，80 歳以上）
- 自然災害の告知を早急に知らせるツールにしてほしい。ＮＨＫの記事を配送するだけでも効果があると思う。（男性，70 歳代）
- 災害時などにすぐ情報が分かり，どうしたら良いのか？指示してくれるとありがたいと思います。（女性，60 歳代）

ウ　その他

①デジタル化の懸念

- 全て何もかもデジタル化するのではなく，スマートフォンやパソコンを持っていないデジタル難民もいることにも配慮をして，サービスや情報難民をつくらぬように両面性(多種性)を持ってください。（男性，30 歳代）
- 重度知的障害のため，そもそも読み書きができない。理解度の低い障害者でも利用できるような仕組みやアプリがあると良い。（女性，20 歳代）

8　調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問 36　あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ 1 つに○）

○　市の相談窓口や制度の認知度についてたずねた。

○　身体障害（64 歳以下）で「知っている」の割合は『成年後見制度（43.2%）』が最も多く，『ちょうふだぞう（35.7%）』が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が 6 割から 8 割を超えている。

○　身体障害（65 歳以上）で「知っている」の割合は『成年後見制度（40.1%）』が最も多く，『地域福祉コーディネーター（22.8%）』が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が 6 割から 7 割を超えている。

○　知的障害で「知っている」の割合は『ちょうふだぞう（83.5%）』が最も多く，『成年後見制度（33.5%）』，『こころの健康支援センター（32.4%）』が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が 6 割から 7 割を超えている。

○　精神障害で「知っている」の割合は『こころの健康支援センター（42.4%）』が最も多く，『成年後見制度（34.5%）』，『ちょうふだぞう（24.3%）』が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が 7 割を超えている。

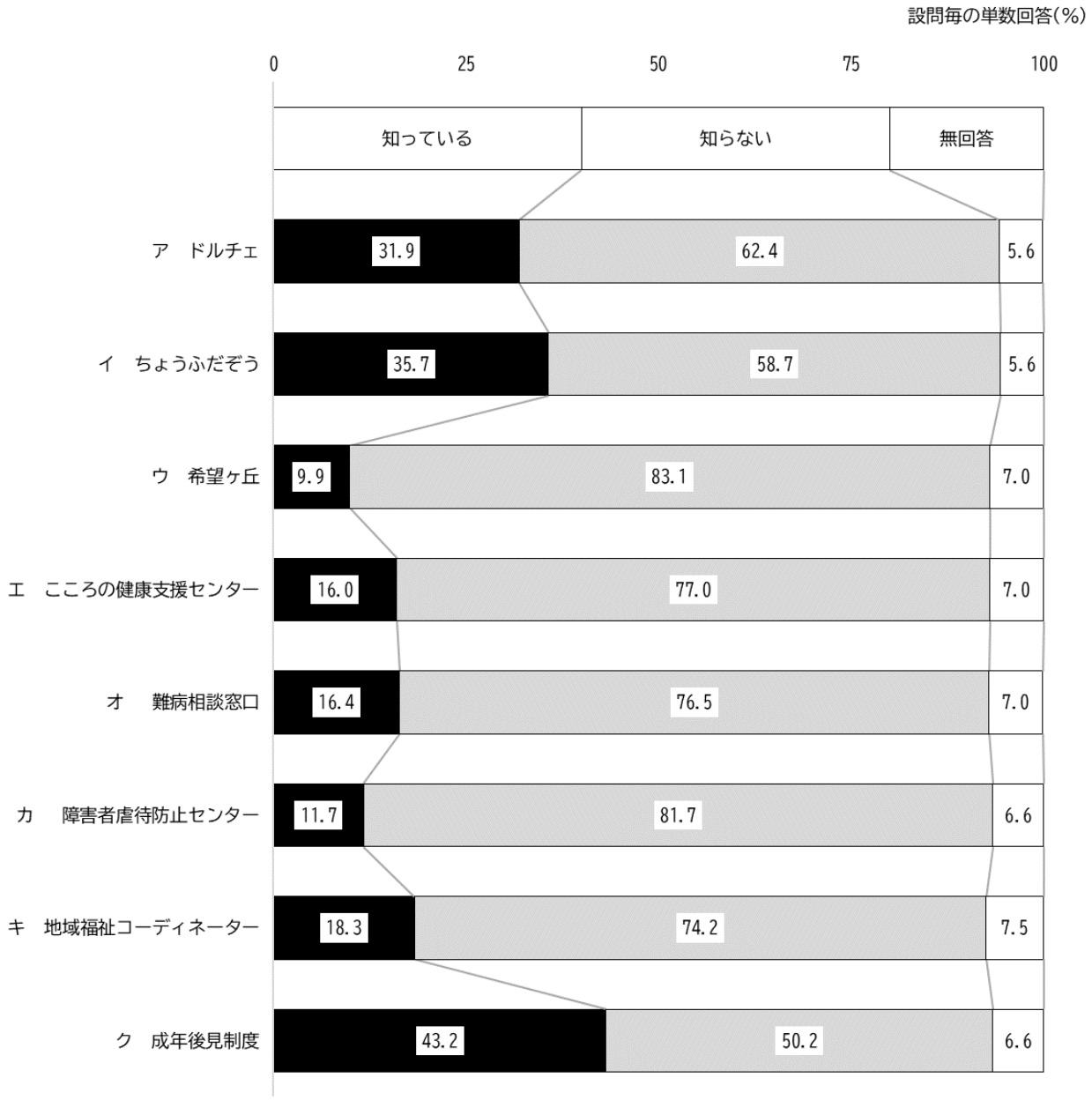
○　難病で「知っている」の割合は『難病相談窓口（44.2%）』が最も多く，『成年後見制度（36.0%）』が続いている。それ以外の窓口や制度については「知らない」が 7 割から 8 割を超えている。

※難病相談窓口は障害福祉課・予約制，障害者虐待防止センターは障害福祉課

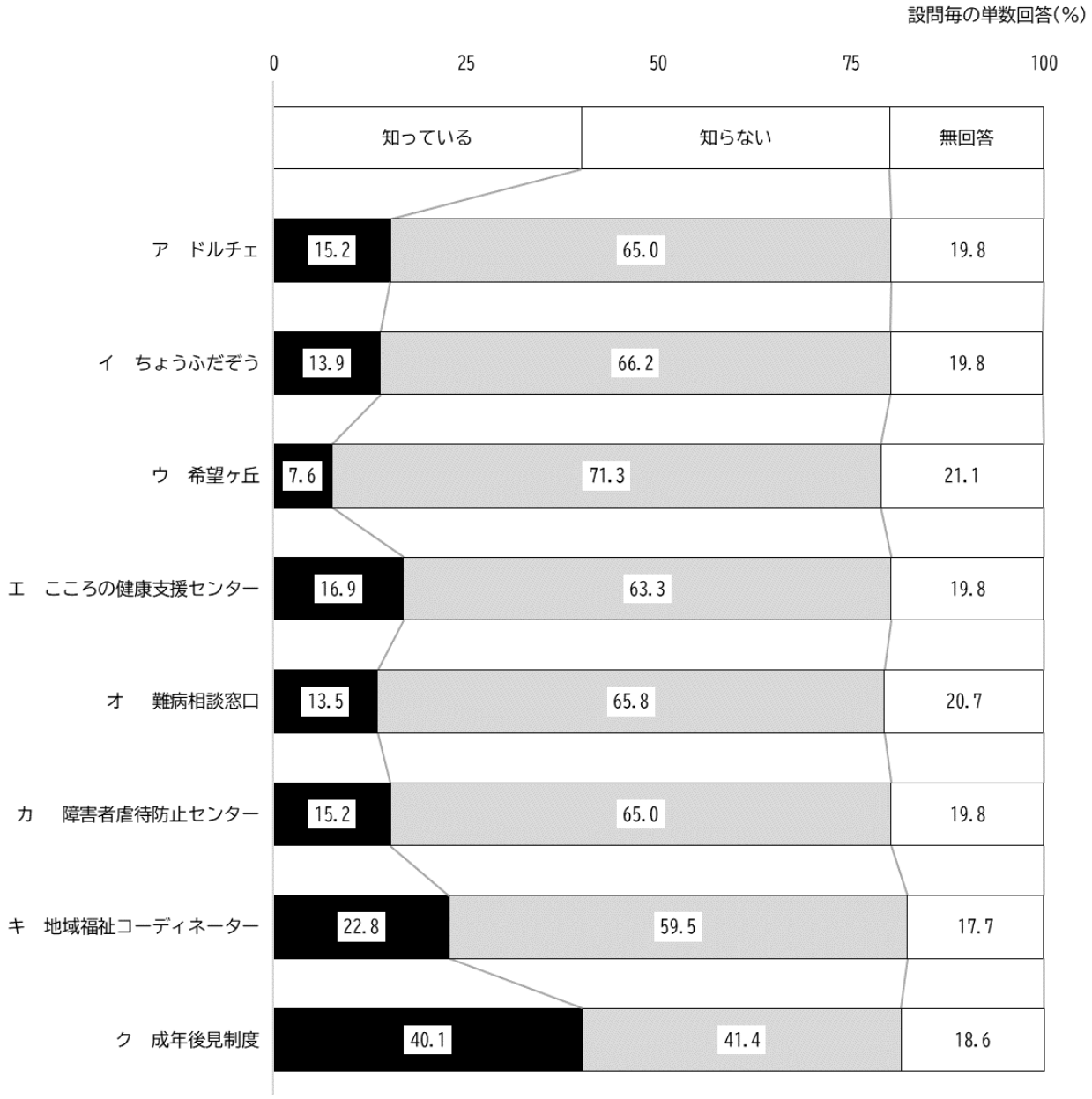
（次ページの図表を参照）

図表_障害者／市の相談窓口や制度の認知度（全体）

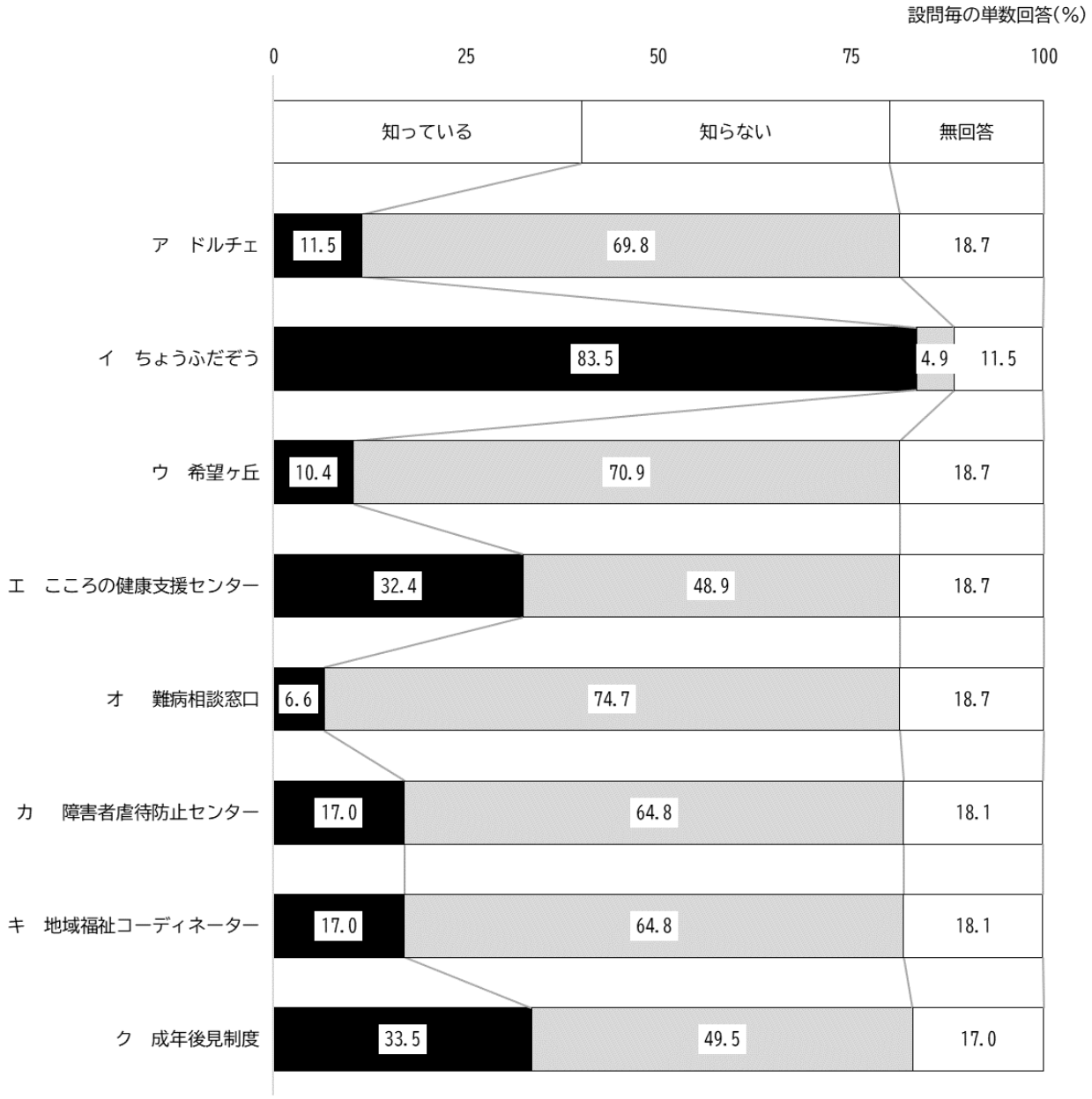
■身体障害（64 歳以下）(N=213)



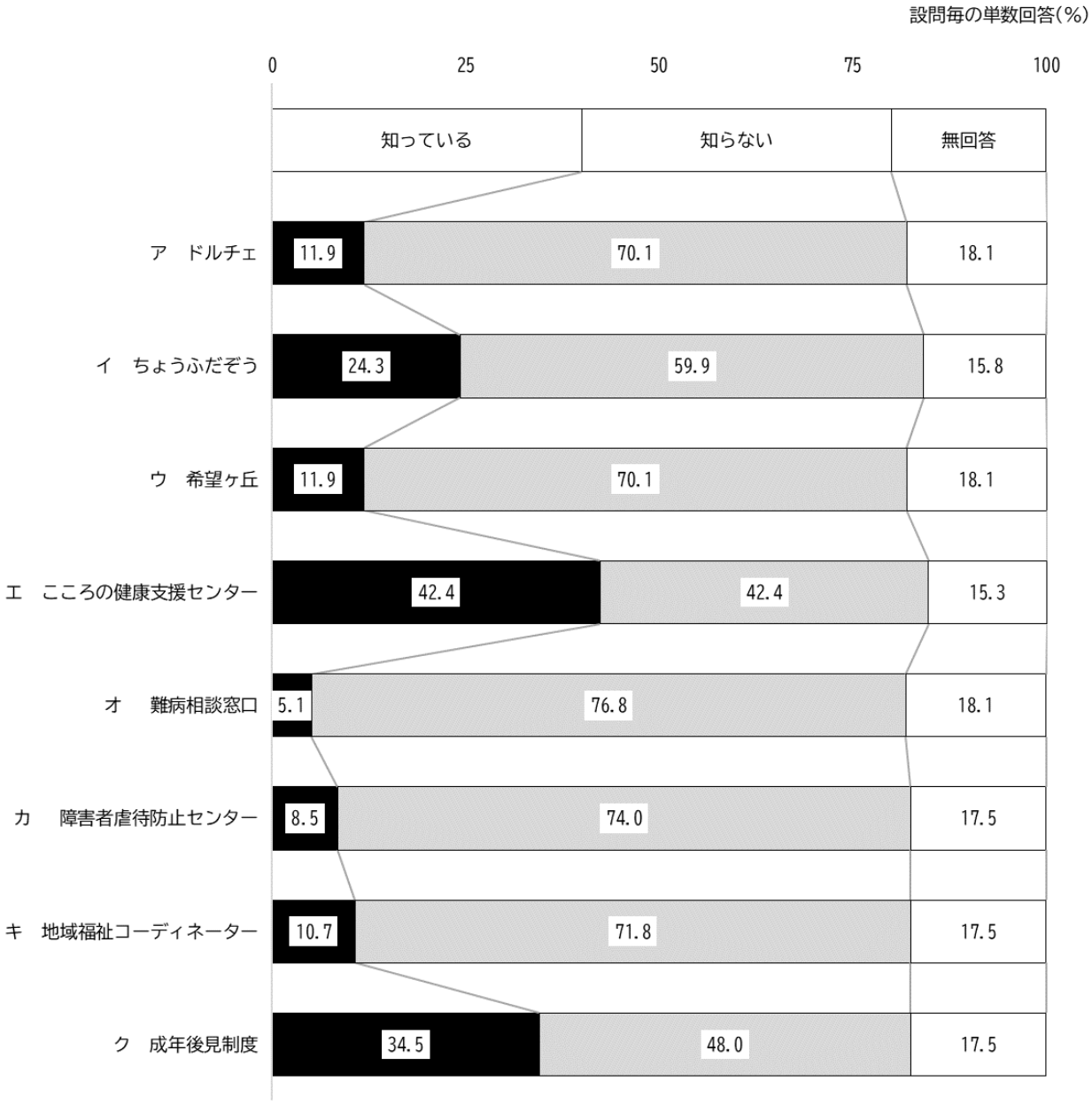
■身体障害（65 歳以上）(N=237)



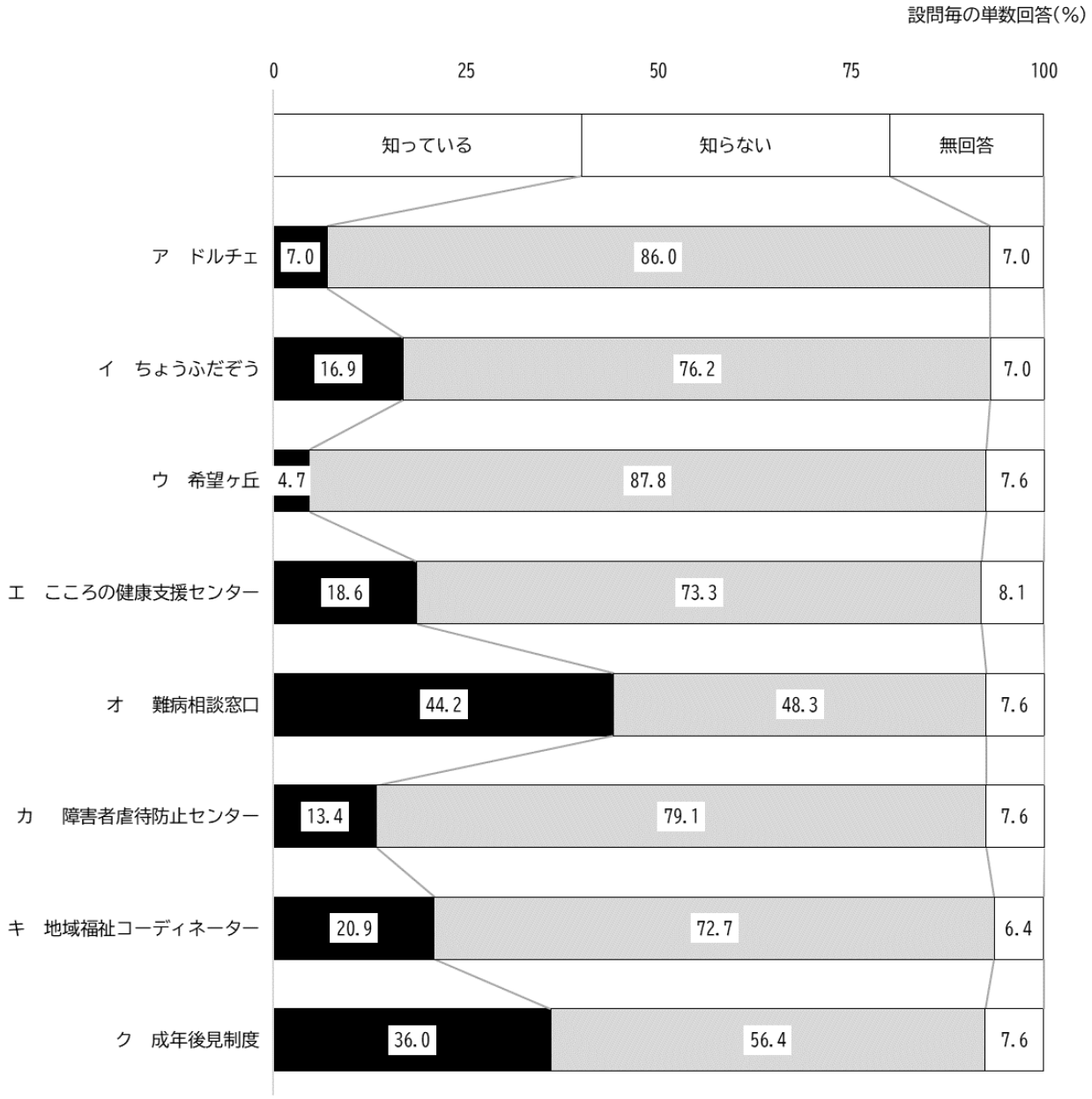
■知的障害(N=182)


設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
知っている
知らない
無回答
ア　ドルチェ
11.5
69.8
18.7
イ　ちょうふだぞう
83.5
4.9
11.5
ウ　希望ヶ丘
10.4
70.9
18.7
エ　こころの健康支援センター
32.4
48.9
18.7
オ　難病相談窓口
6.6
74.7
18.7
カ　障害者虐待防止センター
17.0
64.8
18.1
キ　地域福祉コーディネーター
17.0
64.8
18.1
ク　成年後見制度
33.5
49.5
17.0

■精神障害(N=177)


設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
知っている
知らない
無回答
ア　ドルチェ
11.9
70.1
18.1
イ　ちょうふだぞう
24.3
59.9
15.8
ウ　希望ヶ丘
11.9
70.1
18.1
エ　こころの健康支援センター
42.4
42.4
15.3
オ　難病相談窓口
5.1
76.8
18.1
カ　障害者虐待防止センター
8.5
74.0
17.5
キ　地域福祉コーディネーター
10.7
71.8
17.5
ク　成年後見制度
34.5
48.0
17.5

■難病(N=172)

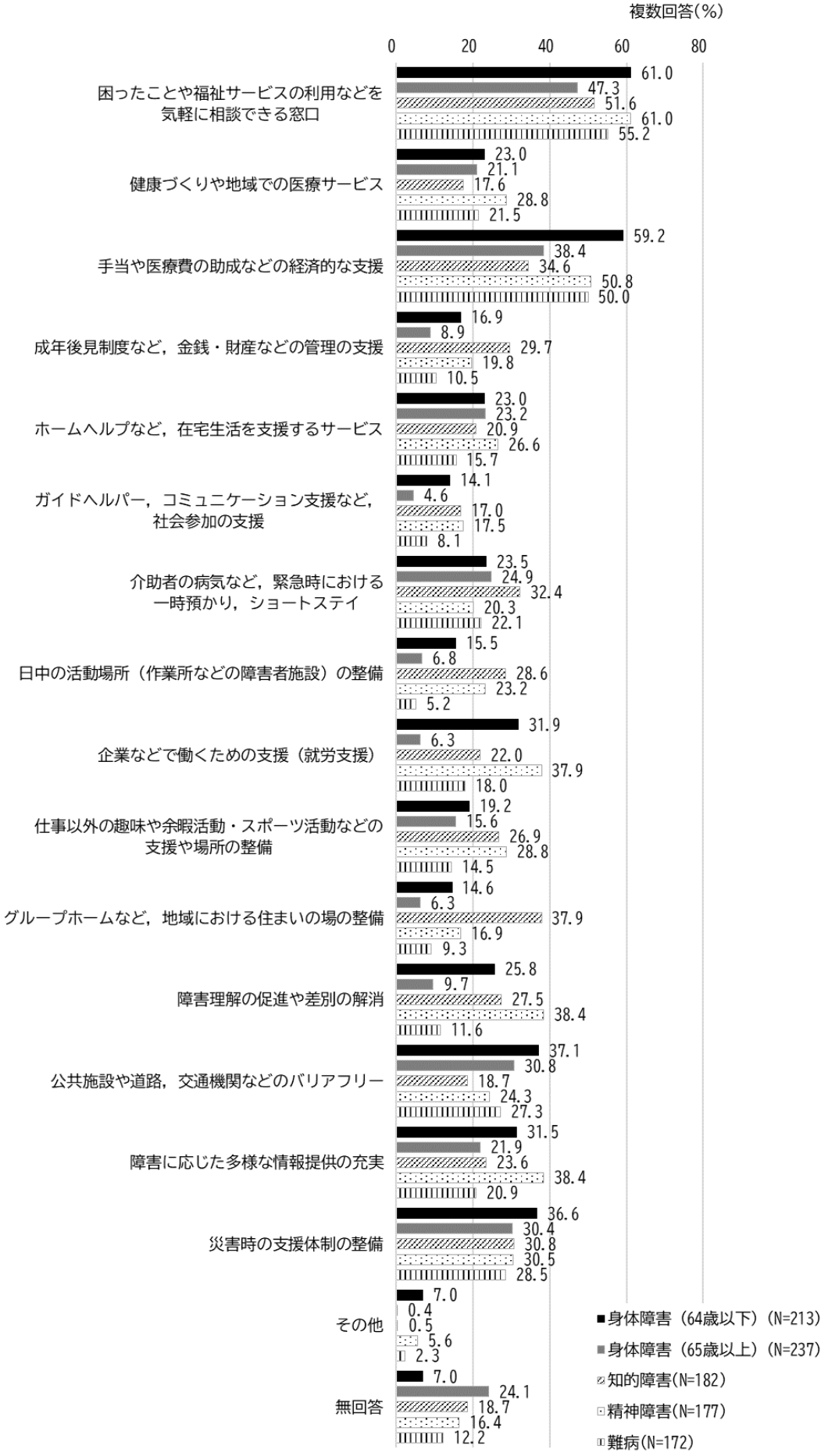

設問毎の単数回答(%)
0
25
50
75
100
知っている
知らない
無回答
ア　ドルチェ
7.0
86.0
7.0
イ　ちょうふだぞう
16.9
76.2
7.0
ウ　希望ヶ丘
4.7
87.8
7.6
エ　こころの健康支援センター
18.6
73.3
8.1
オ　難病相談窓口
44.2
48.3
7.6
カ　障害者虐待防止センター
13.4
79.1
7.6
キ　地域福祉コーディネーター
20.9
72.7
6.4
ク　成年後見制度
36.0
56.4
7.6

問 37　調布市の障害者福祉施策（サービス）をより充実していくために，特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

○　市の障害者福祉施策（サービス）において重要な取組は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口」が最も多く，それぞれの割合は 61.0%，47.3%，51.6%，61.0%，55.2%となっている。また，「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が難病で 5 割，身体障害（64 歳以下），精神障害で 5 割を超えている。

（次ページの図表を参照）

図表_障害者／市の障害者福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



【上位5つ】 (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障害（64歳以下）	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	手当や医療費の助成などの経済的な支援	公共施設や道路，交通機関などのバリアフリー	災害時の支援体制の整備	企業などで働くための支援（就労支援）
	61.0	59.2	37.1	36.6	31.9
身体障害（65歳以上）	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	手当や医療費の助成などの経済的な支援	公共施設や道路，交通機関などのバリアフリー	災害時の支援体制の整備	介助者の病気など，緊急時における一時預かり，ショートステイ
	47.3	38.4	30.8	30.4	24.9
知的障害	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	グループホームなど，地域における住まいの場の整備	手当や医療費の助成などの経済的な支援	介助者の病気など，緊急時における一時預かり，ショートステイ	災害時の支援体制の整備
	51.6	37.9	34.6	32.4	30.8
精神障害	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	手当や医療費の助成などの経済的な支援	障害理解の促進や差別の解消	障害に応じた多様な情報提供の充実	企業などで働くための支援（就労支援）
	61.0	50.8	38.4	38.4	37.9
難病	困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口	手当や医療費の助成などの経済的な支援	災害時の支援体制の整備	公共施設や道路，交通機関などのバリアフリー	介助者の病気など，緊急時における一時預かり，ショートステイ
	55.2	50.0	28.5	27.3	22.1

問 38　市民同士がお互いに支え合い，住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組について，ご意見，ご提案をお聞かせください。（自由記述）

○　市民同士がお互いに支え合い，住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見，ご提案を自由記述形式でたずねたところ，345 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害者／自由意見

項目	意見区分	意見数
ア　地域活動，市民同士の支え合い	①自治会，地域活動の活性化 ②近所付き合い，支え合い ③障害への理解	88
イ　相談，サービス	①市のサービス ②相談体制の充実 ③サービス等の情報提供 ④就労等への支援	102
ウ　安全・安心	①交通安全 ②バリアフリー化 ③防災・防犯の強化	76
エ　上記以外	①生活環境・環境美化 ②市の施策 ③共生社会の推進	79
合計		345

○　項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。

ア　地域活動，市民同士の支え合い

①自治会，地域活動の活性化

- 集会所等，利用して自治会で交流をし合えたらと思います。（女性，60 歳代）
- 自治会活動と自治体のつながりを強めることは今後の高齢化社会には必要。（男性，50 歳代）
- 情報共有のコンテンツを作る（簡単にできる等）。（女性，50 歳代）
- 地域で交流できる，地域祭り等の活動（男性，40 歳代）
- 今やっているボランティアの時間を将来自分のためにサービスを受けられる支援の貯金のようなシステムがあると良いと思います。（女性，70 歳代）

②近所付き合い，支え合い

- 働く世代は，地域活動に参加したくても時間がないためにできないことがある。土日の夕方～夜などのオンライン開催なども充実して市民同士のつながりや支え合いを増やしていきたいと思う。（女性，40 歳代）
- 障害があってもなくても赤ちゃんから大人までフラッと立ち寄れる居場所的なものがあったらうれしいです（何をしなくても安心していられる場所）。（女性，60 歳代）
- 身体障害者だけではなく，目に見えない障害（精神障害者，発達障害者など）の人が社会参加や近所付き合いがしやすいようにする取り組みが欲しいと思う時はある。（女性，20 歳代）
- まずは，知らない人だとしても挨拶できる日常（ご近所で）。 （男性，20 歳代）

③障害への理解

- 障害についてひやかす人がいなくなればいいと思う。（男性，30 歳代）
- 小学生中学生にもっと知的障害などについて理解をしてもらえるような教育，さっと手助けをする意思をもてるような教育をしてほしいです（ジロジロ見たりあからさまに避けたりせずに）。（女性，30 歳代）
- 西部公民館等，障害があってもその方々が，また，その家族との交流の場があれば良いと思う。同じように悩んでいる方々との交流を希望します。（男性，70 歳代）

イ　相談，サービス

①市のサービス

- オンラインサービスの拡充を希望します。（女性，40 歳代）
- ストーマ用具の申請回数が多いので半年にしてほしい。（女性，60 歳代）

②相談体制の充実

- オンライン相談（女性，30 歳代）
- 初期の相談の匿名性（相談する側も最初は警戒しているので自ずとここなら信頼できると判断するまで等）（女性，50 歳代）
- 何でもまず相談できるような窓口の拡充。問題が複雑な場合でも柔軟に対応してもらえるようなサービス体制。（女性，50 歳代）
- 60 歳以降でも仕事の相談ができる事。（女性，50 歳代）

③サービス等の情報提供

- 相談があってもどこへ行っていいのか分からないので相談窓口，制度をもっとわかりやすくしてほしい（病院にポスター，パンフレットなど）。（女性，60 歳代）

- 市役所ホームページにて，様々な支援の内容を，解りやすい書き方に工夫してほしい。（男性，50 歳代）
- 住んでいる身近な地区では，相談，サービスするところがどこなのかも分かりません。市へ直接かちょうふだぞうへ直接なのが現状です。自治体が介入してというのも難しいですよね…？（男性，20 歳代）

④就労等への支援

- 障害者の職業選択自由を後押ししてほしい。そのような窓口を増やしてほしい。（男性，50 歳代）
- 難しいとは思うが，ひきこもりの人の就職支援のサービスがあれば良いな，と思った。（男性，20 歳代）
- 就職，学業，恋愛・結婚の相談に応じてくれるサービス。（男性，40 歳代）
- 経済的な支援があるとたいへん助かる。（男性，50 歳代）

ウ　安全・安心

①交通安全

- 道路等が危険な場所が多い。歩道が無かったり狭いうえにバス停がある。（女性，50 歳代）
- 自転車に乗っている人のマナー(歩道を猛スピードで走っているなど)。（男性，30 歳代）
- 道路が狭い所が多いので外出の際に危険を感じる。（女性，30 歳代）

②バリアフリー化

- ベンチがあまり無い事にこの頃気がつきました。駅前などに限らず，普通の路などにも設置されていると安心して外に出られます。何か良い方法があるといいのですが。（女性，70 歳代）
- 健常者が車いすに乗って街中を移動するなどの体験によって，安全・安心のために重点化すべき点がみえてくるのではないかと思います。（女性，40 歳代）
- 都市全体としてのバリアフリーに対する全体像。（男性，60 歳代）

③防災・防犯の強化

- 災害があった場合の障害者専用(1 人では不安なので，家族などサポートする者も含む)の避難所の設置をお願いしたいです(多分，自家用車の中で過ごすことになりそうなので…)。（男性，20 歳代）
- 夜間の見回り（夜中の公園等の騒音対策など）。（男性，50 歳代）

エ　上記以外

①生活環境・環境美化

- 狭い道に〔自転車ここを通ってほしいです標示〕はナイスアイデアだと思った。（歩道に堂々と走られるとむかつくから。）（女性，70 歳代）
- ゴミ分別をゆるくしてほしい。正直覚えきれない。歳をとったら対応できなくなる。（不明，60 歳代）

②市の施策

- 障害者であっても頭の切れる者が多数いると思います。こういった方々を市で把握し表舞台に出させる事が市の発展になると思います。（男性，40 歳代）
- 市役所が土日祝も平日同様に利用できるようにしてほしい。（女性，60 歳代）
- 調布市は，障害のある人，お年寄りには色々な取り組みがあり，配慮があるが，子育てや子供に関しての取り組み，配慮が少ないと感じます。（女性，40 歳代）
- 障害者が趣味を増やしたいと思った時に，夜の時間帯のサークル等があったらうれしい（社交ダンス，楽器など）。（女性，60 歳代）

③共生社会の推進

- 子どもは残酷です。小学生に，もっと障がい者について教えるべきだと思います。偏見のまなざし，心ない言葉，23 年育てていてもなお，いまだに悩まされます。つらいです。（男性，20 歳代）
- 障がい者とカテゴリー分けせず，誰でも将来は障がい者となるので，平等な支援があった方が良い。生きている限りどんな人でもサポートが必要！(老人，妊婦，子供，病人，子育て世代，身体，心身障がい者，外国人，皆差別がない方が…。）（男性，20 歳代）

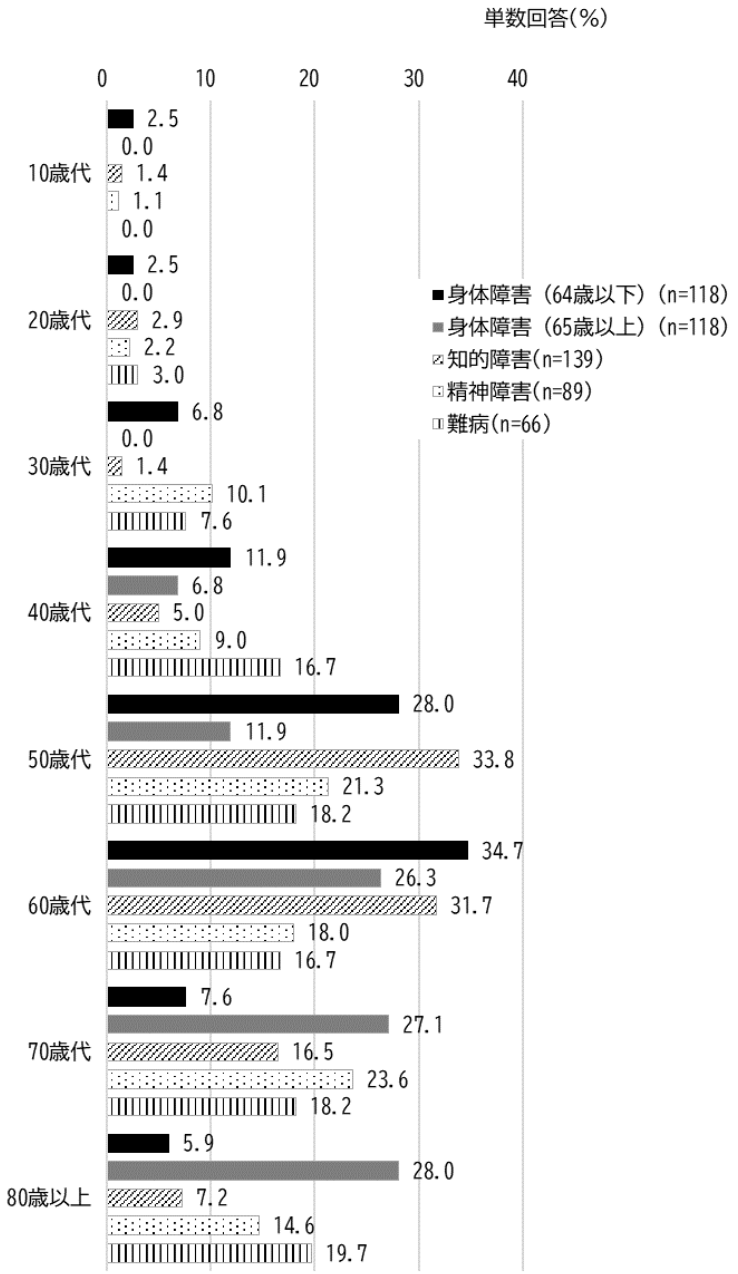
9　主に本人の介助や支援をしているご家族におたずねします

問 39　あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。主に介助や支援をしている人の年齢を教えてください。（1 つに○）

○　主な介護者の年齢の割合は，身体障害（64 歳以下）は「60 歳代（34.7%）」，身体障害（65 歳以上）は「80 歳以上（28.0%）」，知的障害は「50 歳代（33.8%）」，精神障害は「70 歳代（23.6%）」，難病は「80 歳以上（19.7%）」が最も多くなっている。

図表_障害者／主な介護者の年齢（全体）

＜介護者の年齢に回答していただいた方＞



（注）回答者（無回答を除いた）を全数として割合を算出

問 40　あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助や支援に当たってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

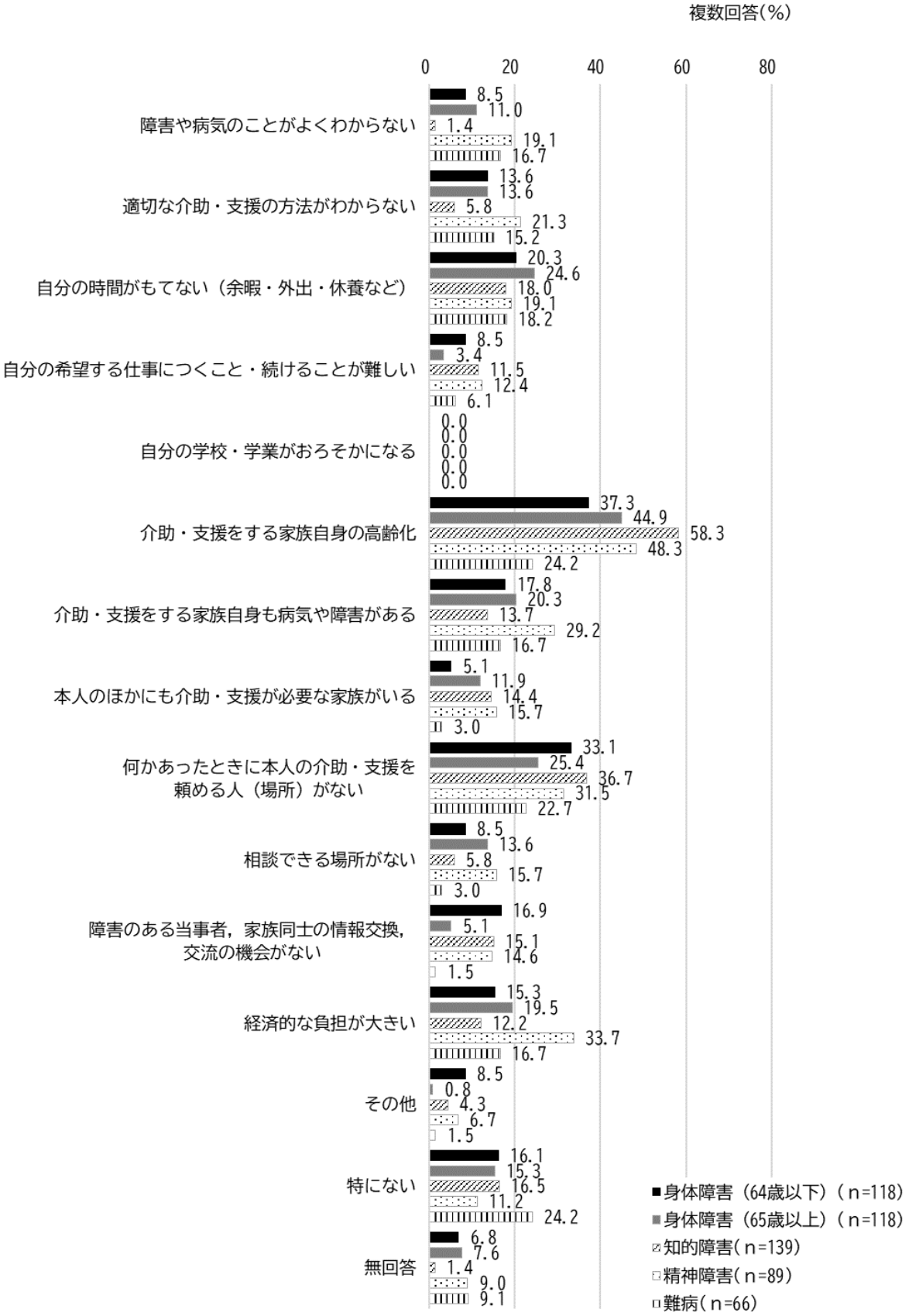
○　主な介護者の不安や困りごとは，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「介助・支援をする家族自身の高齢化」が最も多く，それぞれの割合は 37.3%，44.9%，58.3%，48.3%，24.2%となっている。難病は「介助・支援をする家族自身の高齢化」と「特にない」が同率の数値となっている。

○　「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」がすべての障害等別で 2 割から 3 割台となっている。

（次ページの図表を参照）

図表_障害者／主な介護者の不安や困りごと（全体）

＜介護者の年齢に回答していただいた方＞



（注）問 39 の回答者を全数として割合を算出

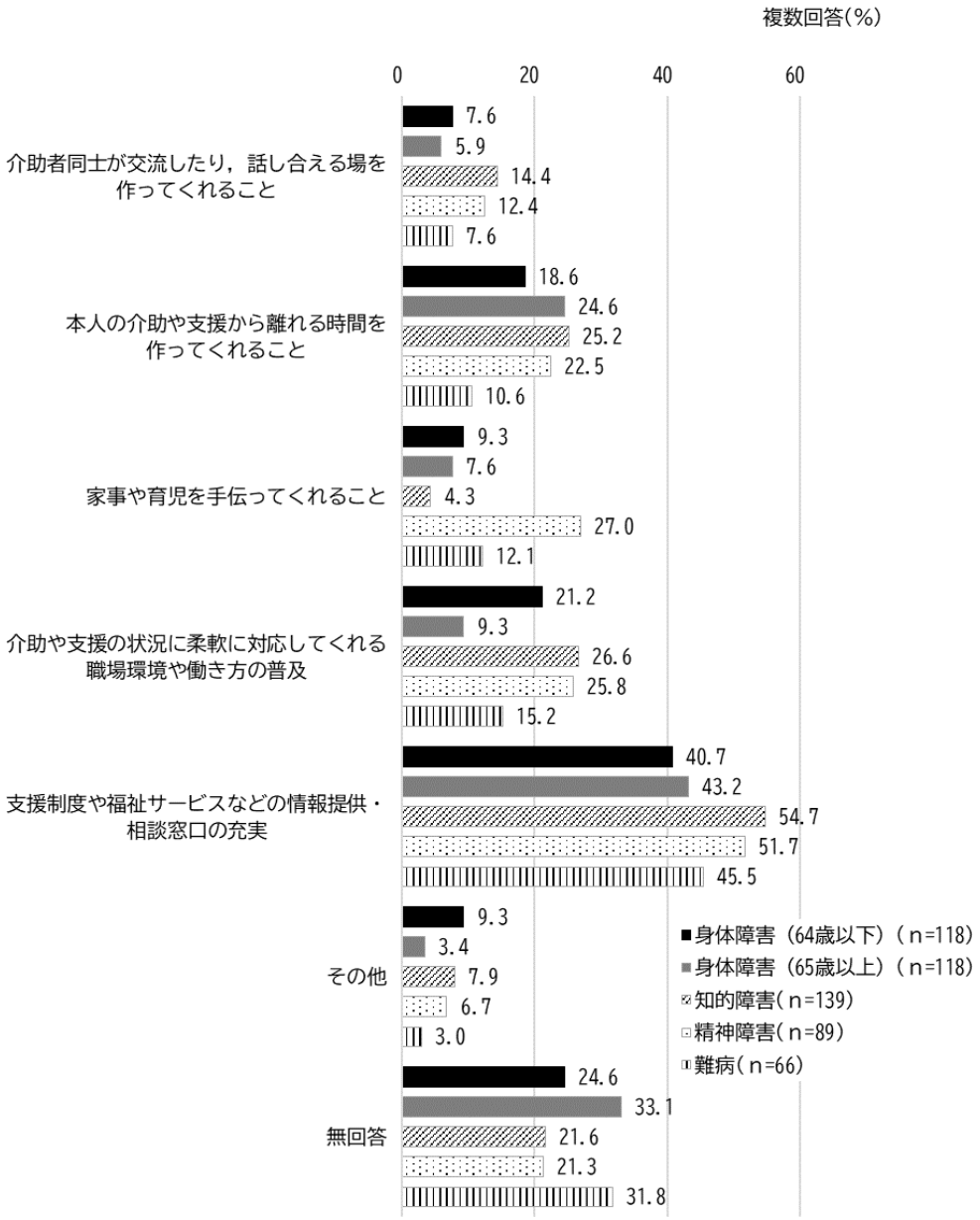
問 41　あなたを主に介助や支援をしているご家族におたずねします（ご家族以外は回答不要）。介助する人への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

○　介助する人への支援は，身体障害（64 歳以下），身体障害（65 歳以上），知的障害，精神障害，難病ともに「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実」が最も多く，それぞれの割合は 40.7%，43.2%，54.7%，51.7%，45.5%となっている。

○　精神障害で「家事や育児を手伝ってくれること」が 2 割を超えている。

図表_障害者／介助する人への支援（全体）

＜介護者の年齢に回答していただいた方＞



（注）問 39 の回答者を全数として割合を算出